

熊本大学文学部
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 30 日
1. 文学部

目次

I	熊本大学文学部の現況及び特徴	2
II	教育の領域に関する自己評価書	3
	1. 教育の目的と特徴	4
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	5
	3. 観点ごとの分析及び判定	7
	4. 質の向上度の分析及び判定	79
III	社会貢献の領域に関する自己評価書	80
	1. 社会貢献の目的と特徴	81
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	81
	3. 観点ごとの分析及び判定	82
	4. 質の向上度の分析及び判定	91
IV	国際化の領域に関する自己評価書	92
	1. 国際化の目的と特徴	93
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	94
	3. 観点ごとの分析及び判定	94
	4. 質の向上度の分析及び判定	110
V	管理運営の領域に関する自己評価書	111
	1. 管理運営の目的と特徴	112
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	112
	3. 観点ごとの分析及び判定	113
	4. 質の向上度の分析及び判定	142
VI	男女共同参画の領域に関する自己評価書	144
	1. 男女共同参画の目的と特徴	145
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	145
	3. 観点ごとの分析及び判定	145
	4. 質の向上度の分析及び判定	148

I 熊本大学文学部の現況及び特徴

1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学文学部
- (2) 学生数及び教員数（平成 30 年 5 月 1 日現在）
：学生数 776 人、専任教員数：70 人、助手数 0 人

2 特徴

文学部は、旧制第五高等学校の伝統を踏まえつつも、日々進歩する学問研究、また社会情勢の変化や要請に応えるべくこれまで改革改組を行い、現在、総合人間学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科の 4 学科を設置し、総合人間学科は人間科学コース、社会人間学コース、地域科学コースの 3 コース、歴史学科は世界システム史学コース、歴史資料学コースの 2 コース、文学科は東アジア言語文学コース、欧米言語文学コース、超域言語文学コースの 3 コース、コミュニケーション情報学科はコミュニケーション情報学コースの 1 コースからなり、さらに全コースで 22 の専門領域（履修モデル）があり、計 4 学科・9 コース・22 領域という人文系学問の多様性に応え得る教育体制を採っている。さらに平成 31 年度には、コミュニケーション情報学科の中に、「現代文化資源学コース」を新たに設置し、教育体制をさらに充実させる。このような幅広い専門領域を有する教育体制を通して広く社会に貢献できる人材を養成すべく、理論だけにとどまらない、実践的教育を展開している。そのための学習環境も十分に整備されている。学部図書室の充実したコンテンツ、各領域分野の学生研究室及びデジタル機器の整備、メディア演習室のデジタル設備の充実、総合人間学科の心理学領域における十分な実験設備の充実、コミュニケーション情報学科における情報技術メディアのコンテンツ制作のための設備の整備、フィールドワークを有する領域分野における、資料・設備が整った研究室の整備など、教育体制及び学習環境は絶えず改善が行なわれている。

3 組織の目的

熊本市という地方中核都市に位置する伝統ある総合大学の文学部として、人文社会科学分野の普遍的役割を担い、熊本県を中心とした九州地域における課題解決の役割を果たし、さらに地域文化の継承と創造に熱意をもって貢献する人材の養成を目指し、教育を推進する。そのために必要な、幅広く豊かな教養、確かな専門的知識、高度な思考力と創造力、自らの課題を発見し解決する実践的能力、また 21 世紀に生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心、そのような、人文系学部の学生として目指すべき豊かな能力を有した、人間力のある人材の養成を通して、今後もさらに複雑化していく日本社会、国際社会と積極的に関わり、それに貢献できる人材の養成を目指す。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

文学部は、旧制五高の伝統を踏まえつつも、日々進歩する学問研究、また社会情勢の変化や要請に応えるべく、幅広い知識と確かな専門力を有し、それに基づく思考力及び実践力を身につけた総合力ある人材、人間力ある人材、もって幅広く社会に貢献することのできる人材の養成を目指し、次のような具体的技能及び能力の育成を目的とする。豊かな教養、高度な専門的知識、創造的知性によって自ら課題を発見し解決する実践的能力、また現代社会に必要なグローバルな視野と市民的公共心の育成・現代社会の要請に対応し得る、人文社会科学分野の基礎的知識・能力、専門的知識・能力、資料収集・整理・分析力、論理的思考力の育成・国際化の流れに柔軟かつ適切に対応でき、国際交流を推進できる国際力の育成・日々進歩する社会のデジタル化に対応した、コンピュータや情報機器の操作能力、メディア・リテラシーの育成・現代社会において一段と必要とされる、日本語及び英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成 これらの目的を実現すべく、4学科・9コース・22 専門領域という幅広い専門領域を有する教育体制を取り、理論だけにとどまらない、実践的教育を展開している。

[想定する関係者とその期待]

受験生からは様々な関心に対応する受け入れ体制・教育体制・学習環境の整備が、在学生からは基礎学力の養成、専門知識の深化、学習環境整備、就職支援体制の充実が、保護者からは様々な情報提供と被保護者の学業の充実、卒業後の進路の整備・充実が、卒業生の受け入れ先となる組織や企業及び地域社会からは、卒業生の高い学力、専門性、実践力、コミュニケーション力、幅広い社会対応力の育成が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

教育活動の状況に関して、以下の点において優れている。

1. **文学部教員は、全学教育、全学センター運営において重要な役割を担っている**（教育実施体制において、大学教育統括管理運営機構の構成員、各種委員会委員、分野別部会員、科目別部会員として多数参加；全学部の中で最も多い教養授業科目の担当；平成29年度に学内共同施設化された「永青文庫研究センター」のセンター長（専任）として文学部の教授が着任；同じく学内共同施設の「埋蔵文化財調査センター」のセンター長は文学部教授が歴任）。

2. **学部及び大学院の組織改編を行った**（平成29年度に、学部と大学院の教員を「大学院人文社会科学部」として一つにまとめ、教育部としての文学部と大学院社会文化科学研究科の教育を柔軟な形で担う体制を作った）。

3. **学部附属の新たなセンターを設置、また学科に新たなコースを設置し、教育体制の改編を行った**（平成29年度に「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」を設置、県内・市内の文化振興関係機関と連携を構築；平成31年度にコミュニケーション情報学科に「現代文化資源学コース」を新設することで、4学科・10コースの教育体制へと改編）。

4. **学部の教育管理体制が適切に整備されている**（学部長1名・副学部長2名・学科長4名で構成される運営会議に、学部運営上の主要案件の審議を集約；学科別教授・准教授・講師のバランスの取れた構成、及び目標値（15%）以上の女性教員比率（15.7%）；全学部で最も多い外国人等専任教員等）。

5. **学部の教育内容・方法・成績評価及び入試に関する情報が適切に公表されている**（学部及び学科・コースの学位授与方針、カリキュラム編成方針；各学科・コースの教員編成、各教員の専門領域；卒業要件となる教養教育科目及び専門教育科目の単位数、専門科目の構成及び単位数、卒業要件単位表、履修モデル単位表；年度開講の授業科目一覧、履修手続要領、行事予定表、年次カレンダー、開講科目時間割、授業のシラバス、厳格な成績評価・単位認定基準・方法；各種入学試験情報等）。

6. **社会のニーズや現状に合わせたカリキュラムの実施及びその見直し・改善がなされている**（講義・演習だけでなく、実習、フィールドワーク、実技科目、インターンシップなど、アクティブラーニング要素を含むバランスの取れた授業形態；平成29年度まで「既修8単位・初修4単位」と「既修6単位・初修6単位」の2パターン選択制だった教養必修外国語科目を、平成30年度から「既修6単位・初修6単位」のみに改訂；学部共通科目、コミュニケーション情報学科科目合わせて17科目という十分な社会対応科目の開設）。

7. **教員による授業内容・方法の検討・見直しの方法を改善している**（これまで3年毎実施の「授業改善のためのアンケート」を、H29年度から隔年実施とし、対象授業科目も20名以上から5名以上の科目へと拡大；教員間の授業参観、その実施後の意見交換等による授業改善の取り組み；学部長による3年度毎の教員の個人活動評価の実施）。

8. **学生の主体的学習の促進及び様々な学習支援を積極的に行っている**（事前・事後学習の指示、オフィスアワーの明示；各学科・コース・履修モデル毎の各種ガイダンスの実施；適切な進級基準の設定と教養教育から専門課程へと継続する形の段階的・積み上げの履修の設定；各学科の教務委員、学生委員、1年次授業担当者等が学生の学習及び生活上のサポートをする担任制の実施；履修モデル毎に配置されている学生研究室（全22室）、学生数に対応した数のパソコンの設置；各履修モデル専用の書架が設置され、合計約7万冊に及ぶ図書が配架された文学部図書室の設置；卒論作成時期の利便性を高めるための雑誌室への受付け配備；学生の自習室兼サロンとしてのロビー学生室、学習・生活・進路相談室の設置、及び必要に応じて学部学生も利用できる「武夫原サロン」の開設（平

成 29 年度) ; 「入学料・授業料免除」、 「日本学生支援機構」 その他の奨学金制度 ; GPA を用いた、成績優秀者、奨学金関係の選定 ; 障がいのある学生への「合理的配慮」の徹底、またボランティア学生によるノートテイク、平成 29 年度開始のバリアフリーマップ作成活動 ; 留学生のための指導教員、学生チューターの配置、英語によるシラバス情報提供、「留学生歓迎パーティ」の開催)。

9. 学生の国際力強化のための様々なサポートを実施し、その結果として留学生数が上昇している (学部独自のガイダンスの実施 ; 学部図書室の「国際交流図書コーナー」の設置 ; 学部間交流協定大学の拡大 ; 英語の実践力・運用力を強化するための授業科目設定 ; 全学部中最も多い英語による授業数 ; 授業の一環としての海外研修 ; 教員引率による短期の海外研修 ; 勉強会の実施 ; 交流協定大学への留学生数が、第 2 期最終年度平成 27 年度 (10 名) 及び第 2 期平均 (6 名) と比べ、平成 28 年度 (12 名)、29 年度 (21 名) と大幅に増加 ; その他、休暇や休学を利用して、専門研究、語学研修、海外インターンシップ、異文化体験など様々な目的で海外渡航する学生数の増加)。

10. 地域・社会貢献活動を積極的に行っている (「研究生・科目等履修生」「特別聴講学生」の受入れ ; 社会人の受講を受け入れる授業開放科目の提供 ; 第 3 年次編入学生の受け入れ ; オープンキャンパスの実施)。

11. その他、優れた点として、以下の項目がある : 1) 学生支援委員会を設置し、適切な進路・就職支援体制が取られるとともに、年間進路支援活動も活発に行われている、2) 研究のみならず教育の質の維持・改善にも資する研究専念期間が活発に利用されている、3) 一般入試 (前期・後期)、特別入試 (推薦・A0) の学部全体の平均志願倍率は良好で、入学者の定員充足率も良好である、4) 他学部から文学部への転部希望者が多くあるため、厳密な審議を行い、希望学生を受け入れる体制を取っている、5) 五大学文学部長等会議が毎年持ち回りで開催され、大学の変革期における様々な課題について情報交換、協議を行い、学部教育の改善・向上に取り組んでいる。

分析項目 II 教育成果の状況

教育成果の状況は、以下の点で優れている。

1. 学生の学習成果指針、成績評価の厳格さ・公正さが適切に明示・公表されている (学科・コースの学位授与方針に沿った学習成果 ; 成績評価の基準・方法 ; 学位論文の審査・評価の方法 ; 成績評価に関する学生の異議申立ての手続き等)。

2. 学生の進級状況・単位取得状況が良好である (学生の単位取得率の向上 ; 「秀」「優」の割合の高さ ; 休学者の状況の改善 ; 退学者・除籍者の状況の改善等)。

3. 学生の資格取得状況・語学資格試験のスコア状況が良好である (「教育職員免許状」「学芸員資格」「社会調査士資格」「認定心理士資格」「日本語教育課程修了証書」等の良好な取得状況 ; 語学資格試験のスコアの高水準 9)。

4. 学生の就職状況が良好である (他学部と大きな差異のない良好な就職率等)。

5. その他、学生の学外活動が活発・良好である (学会発表 5 件/5 名、受賞 2 件/1 名・1 学科グループ ; その他学外 (地域社会) において広範に行われている様々な活動)。

6. 「授業改善のためのアンケート」の良好な結果 (有意義度 90%)。

7. 進学状況を改善するための学部・大学院の改組を行った (進学率減少の改善を目指し、平成 29 年度に、教員組織としての「大学院人文社会科学部」を設置し、教員全員が、教育部となる文学部・大学院社会文化科学研究科の教育を柔軟に担う体制とした)。

【改善を要する点】

学生の卒業後の進路 (進学、就職他) に関して、進学率がいくらか減少傾向にあり、改善の必要がある。その対策として、上記 7 の改組を行った。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本学の新たな教養教育実施体制の基盤組織として、平成 28 年度に大学教育統括管理運営機構が設置され、また教養教育を担う教員組織である教科集団を分野別部会、科目別部会に再編し、同機構に設置した教養教育実施本部を構成する実施体制が新たに整えられた(資料 A-1-1-1-①-1)。

文学部教員は、同機構の組織構成員として 1 名、同実施体制を構成する全学教務委員会に 1 名、教養教育教務専門委員会に 2 名、全学 FD 委員会に 1 名、教養教育 FD 専門委員会に 3 名、分野別部会に 41 名(うち 2 名は 2 部会に所属)、科目別部会に 33 名(分野別部会と科目別部会両方に所属が 7 名)の教員が携わり、担当授業科目の総数は 185 科目と全学部他の中で最も多く、教養教育において大きな役割を果たしている(資料 A-1-1-1-①-2)。

文学部関連のセンターとしては、平成 21 年度に設置された「文学部附属永青文庫研究センター」が平成 29 年度に全学化され、学内共同施設「熊本大学永青文庫研究センター」となった。稲葉継陽教授が文学部を離れセンター長として着任し、同センターの研究をさらに推進することとなった。平成 23 年度に学内共同施設として設置された「熊本大学埋蔵文化財調査センター」のセンター長は歴代文学部教授がその任を担って現在に至っている(平成 27・28 年度木下尚子教授、平成 30 年度～伊藤正彦教授)。また、平成 29 年度に「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」が設置され、熊本大学及び熊本とゆかりの深い両文豪の研究及びそれを通じた教育を発展させるとともに、熊本県文化協会他、県内・市内の文化振興関係機関との協力のもと、県及び市の文化・観光の活性化を推進する体制が整った。平成 31 年度にはコミュニケーション情報学科の中に「現代文化資源学コース」が新たに設置され、同センターと連携した教育が実施される。

学部及び学科・コースの教育目的は『学生便覧』に掲載されている(1・2 頁)。各学科・コースの教員編成と各教員の専門領域ほか、詳細な情報が『文学部案内』と『文学部 HP』に掲載、公開されている。

これまで学部と大学院が別組織となっていたが、平成 29 年度に、両部局所属の教員を「大学院人文社会科学研究部」として一つにまとめ(その中で文学部系教員は 6 専門分野に所属)、文学部と大学院社会文化科学研究科は教育部となり、研究部の教員が柔軟に両教育部に関わることができる体制を作った(平成 31 年度に大学院社会文化科学研究科は大学院社会文化科学教育部と改称される)(資料 A-1-1-1-①-3)。

学部(教育部)の教育管理体制は資料 A-1-1-1-①-4 の通りで、この体制のもと、学生の教育に関するすべての事項が審議、決定される。特に、学部長 1 名・副学部長 2 名・学科長 4 名で構成される運営会議に、学科体制、教員構成、教育プログラム、教員の退職・転出に伴う人事案件等々に関する審議を集約し、学部教育の質を保障・改善すべく、継続的な検討を行うこととしている。それらに関する諸規則は『文学部規則集』に定められている。

学部の構成は 4 学科・9 コース・22 専門領域からなり、総合人間学科が 3 コース・9 専門領域、歴史学科が 2 コース・5 専門領域、文学科が 3 コース・7 専門領域、コミュニケーション情報学科(以下「コミ情学科」)が 1 コース・1 専門領域で、学生の多様な関心に対応する体制が整っている(資料 A1-1-1-①-5)。コミ情学科は、平成 31 年度に「現代文化資源学コース」を新設し、2 コース・2 専門領域となる。

平成 29 年度の「大学院社会文化科学研究部」設置によって、かつての学部所属、研究科所属教員全員が研究部(文学系、6 分野)所属の教員として学部、大学院両方の教育を担う体制となる(資料 A-1-1-1-②-1)。

文学部の教育に携わる教員（専任教員）は70名で（平成30年5月1日現在）、その学科別教授、准教授、講師、及び女性教員数は資料A-1-1-1-②-2の通り。女性教員比率も専任教員の15.7%（専任教員70名中11名）に達しており、目標値15%を達成している。今後全学目標値18%の達成に向けて努力する。専任教員70名の年齢別構成は資料A-1-1-1-②-3の通り。

授業科目の担当状況、専任教員（70名）、学内兼任教員（17名）、非常勤講師（32名）の名簿は『履修手続案内』（27～30頁）に掲載されている。

専任教員70名のうち外国人等専任教員は32名で、学部としては最も多い（資料A-1-1-1-②-4）。

教員の研究促進及び学部教育充実を図り、研究専念期間の制度が設けられ、活発に利用されている（資料A-1-1-1-②-5）。

各種入学試験（一般入試（前期・後期）、A0入試（グローバルリーダーコース）、推薦入試（I・II）、私費外国人留学生入試）についての情報及びアドミッション・ポリシーはWEB上で公表されている（資料A-1-1-1-③-1）。推薦入試（I）における面接は各学科の方針に従って行われている（「文学部推薦入学試験実施に関する申合せ」）。これらの実施状況は資料A-1-1-1-③-2の通り。

一般入試（前期・後期）、特別入試（推薦・A0）の学部全体の平均志願倍率は資料A-1-1-1-③-4～7の通りで、良好である。入学者の定員充足率は105%前後にとどまっており、良好である（資料A-1-1-1-③-8）。当学部への入学者の地域分布は、92.2%が九州圏内からで、その内訳は熊本県内26.4%、九州の他県73.6%となっている（資料A-1-1-1-③-9・10）。この数値は九州内における当学部の位置づけをよく示す有用なデータである。

オープンキャンパスは毎年1500人前後の参加者がある。H28年度は熊本地震のため中止し、「学部進学説明会」の形で規模を縮小して行ったため参加人数が減少している（資料A-1-1-1-③-11）。

学部の自己評価実施体制は資料A-1-1-1-④-1の通り。教員の個人評価については、その実施要領が『文学部規則集』で定められ（32～35頁）、教員個人が「個人活動評価システムTSUBAKI」に、教育、社会貢献、管理運営の各領域に関するその年度の個人業績及び自己評価（3段階評価：A/B/C）を入力し（「研究領域」はResearchmapに入力）、その入力データに従って、3年度毎に学部長が教員個人についての活動評価（3段階評価：3/2/1）を行い、活動の改善・活性化を図っている。

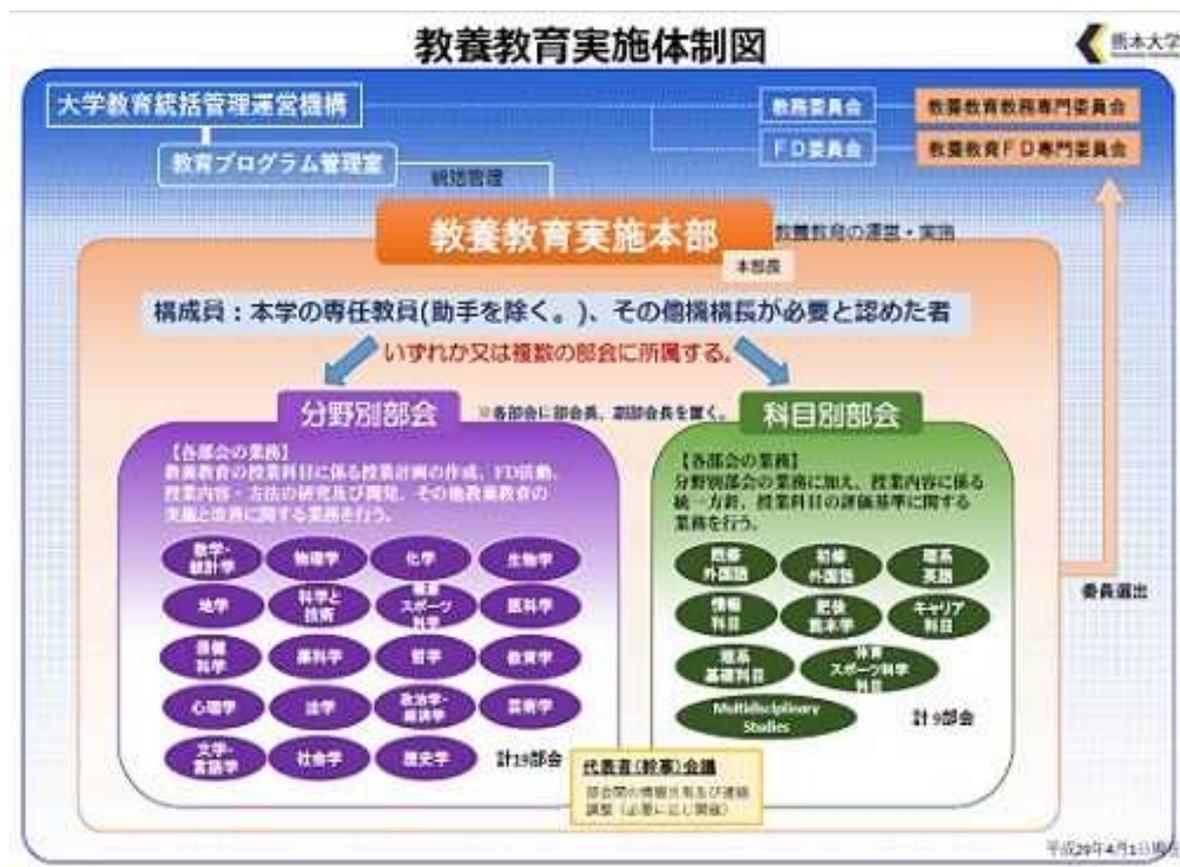
当学部FD委員会は、「熊本大学FD憲章」の理念のもと、教育の質の向上の取り組み指針を明示し（資料A-1-1-1-④-2）、種々の活動を行っている（資料A-1-1-1-④-3）。同委員会管轄の「授業参観実施要領」、「授業改善のためのアンケート実施基準」、「シラバスチェック実施要領」は『文学部規則集』に定められている（77～84頁）。教員間の授業参観は実施報告書の通り、実施後の意見交換等により授業の改善が図られている（資料A-1-1-1-④-4）。

H28年度まで3年に1回実施していた「授業改善のためのアンケート」をH29年度から2年に1回実施することとし、対象授業科目も受講生20名以上から5名以上（オムニバス形式、実習、課題研究、集中講義は除く）へと拡大した（『文学部規則集』77頁）。H29年度の実施状況は資料A-1-1-1-⑤-1の通り（結果については資料A-2-2-1-③-1参照）。

ほかに、学部の教育の改善・向上を促進するために、他大学との組織的連携を図り、「五大学文学部長等会議」（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、熊本大学）が毎年持ち回りで開催され、大学の変革期にある現在直面する様々な課題についての情報交換、協議を行い、学部の教育体制が今後いかにあるべきかという大局的な問題に継続的に取り組んでいる。

（中期計画番号10, 11, 20, 21）

資料 A-1-1-1-①-1 : 教養教育の実施体制



(出典：熊本大学ホームページ「教養教育の実施体制」)

資料 A-1-1-1-①-2 : 教養教育授業科目担当状況

② 教養教育実施体制

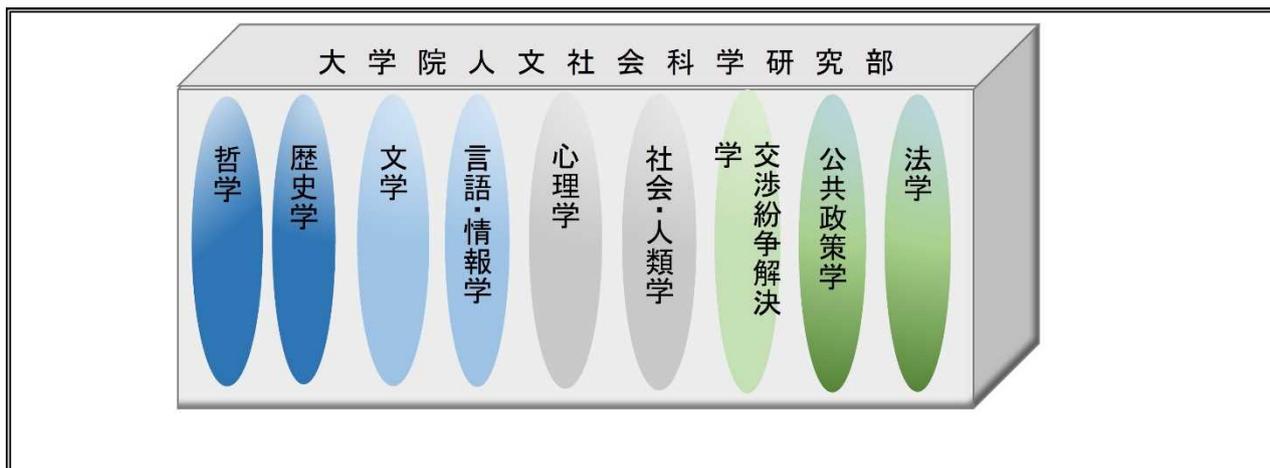
学部等名	専任/ 非常勤	共通基礎科目					外国語科目										教養科目	社会連携科目	開放科目 ※2	合計
		導入科目		情報科目		理系基礎科目	英語(右記以外)	英語(C-3・C-4)	英語(D-1・D-2)	独語	仏語	中国語	韓国語	スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・イタリア語・ヘブライ語	日本語					
		基礎セミナー	ベーシック ※1	情報基礎A・B	情報処理概論															
文学部	専任	27					63										30	4	1	185
	非常勤																			0
教育学部	専任	15				2	54										23	5	2	105
	非常勤																			0
法学部	専任	11								18							9	2		40
	非常勤																			0
理学部	専任	21				70											34	1	3	129
	非常勤																			0
医学部医学科	専任	1															3		1	5
	非常勤																			0
医学部保健学科	専任	6				8											18	2		34
	非常勤																			0
薬学部	専任	1															3		3	7
	非常勤																			0
工学部	専任	11				10								2	19	1				43
	非常勤																			0
社会文化科学研究科	専任			3		9					9									21
	非常勤																			0
大学教育統括管理運営機構	専任	4		6		2	9	10									6	6		43
	非常勤			10		37	137	14	31	11	12	18	10				41		3	324
総合情報統括センター	専任			28	5														1	34
	非常勤																			0
グローバル教育カレッジ	専任													33	32	1				66
	非常勤													50						50
政策創造研究教育センター	専任																		3	3
	非常勤																			0
五高記念館	専任																1			1
	非常勤																			0
eラーニング推進機構	専任			5	2															7
	非常勤																			0
合計	専任	97	12	42	7	84	143	10	41	23	21	4	2	35	178	26	10			735
	非常勤	0		10	0	37	137	14	31	11	12	18	10	50	41	0	3			374
	計	97	12	52	7	121	280	24	72	34	33	22	12	85	219	26	13			1,109

※1 ベーシックは複数部局によりオムニバス形式で実施(クラス数:12)
 ※2 放送大学との教育協力型単位互換制度により3科目開講(大学教育統括管理運営機構に計上)
 ◆ 詳細は「教養教育の案内」参照 https://kuss.kumamoto-u.ac.jp/binran/data/2016_kyoyo.pdf

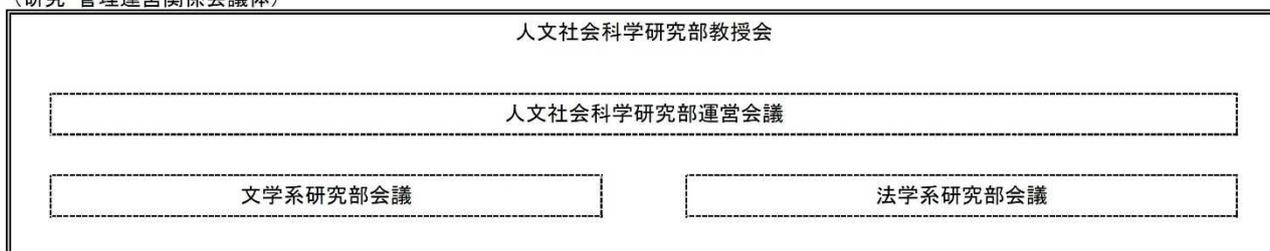
(出典：『熊本大学データ集 2017』49頁)

資料 A-1-1-1-①-3：大学院人文社会科学部・文学部・社会文化科学研究科構図

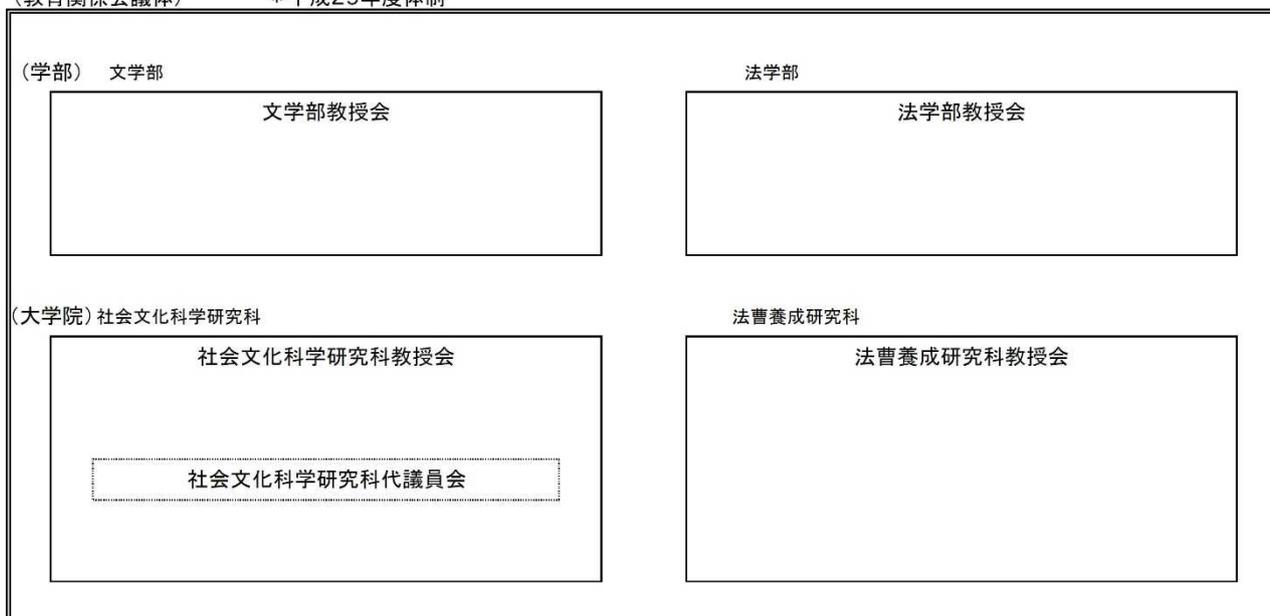
人文社会科学研究部の組織及び管理運営体制



(研究・管理運営関係会議体)



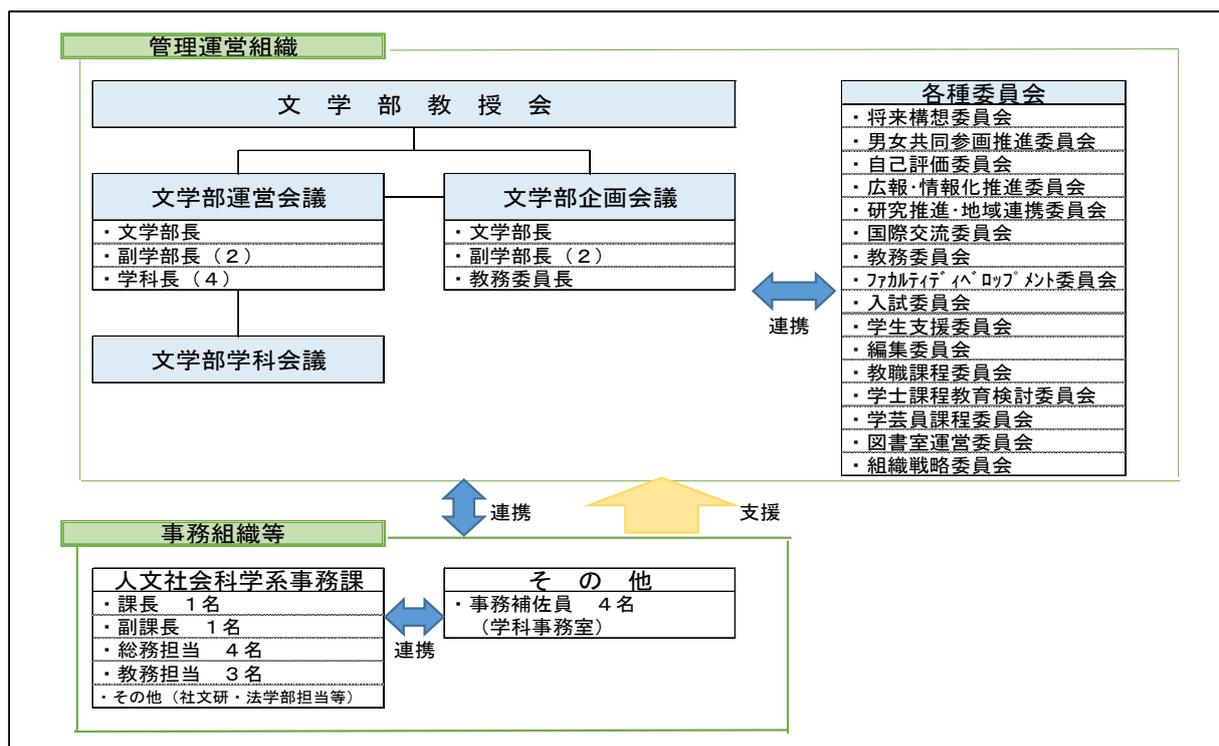
(教育関係会議体) *平成29年度体制



* 「大学院社会文化科学研究科」は平成31年度に「大学院社会文化科学教育部」となる。

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-1-①-4：学部教育管理体制



(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-1-①-5：学部の構成 (4 学科・9 コース・22 研究領域)

学科	コース	研究領域
総合人間学科	人間科学	認知哲学
		芸術学
		認知心理学
	社会人間学	倫理学
		社会学
		文化人類学
	地域科学	地域社会学
		民族学
		地理空間学
歴史学科	世界システム史学	アジア史学
		西洋史学
		文化史学
	歴史資料学	日本史学
		考古学
文学科	東アジア言語文学	日本語日本文学
		中国語中国文学
	欧米言語文学	英語英米文学
		独語独文学
		仏語仏文学
	超域言語文学	比較文学
	言語学	
コミュニケーション情報学科	コミュニケーション情報学	コミュニケーション情報学

(出典：『文学部案内 2017』12 頁)

資料 A-1-1-1-②-1：研究部（文学系）6分野所属教員状況

分野	教授	准教授	講師	計
哲学	3名（+教2名）	6名（+教1名）	0名	9名（+教3名）
歴史学	3名（+教2名）	8名	0名	11名（+教2名）
文学	10名（+教2名）	8名（+教4名）	1名	19名（+教6名）
言語・情報学	5名	8名（+教1名）	0名	13名（+教1名）
心理学	1名（+教1名）	2名（+教2名）	0名	3名（+教3名）
社会・人類学	8名	3名（+教2名）	0名	11名（+教2名）
計	30名（+教7名）	35名（+教10名）	1名	66名（+教17名）

* 括弧の中は教育学部教員

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-②-2：学科別専任教員数（平成30年5月1日現在、*女性教員）

学科	教授	准教授	講師	計
総合人間学科	10（*1）	11（*1）	0（*0）	21（*2）
歴史学科	5（*1）	7（*1）	0（*0）	12（*2）
文学科	10（*2）	12（*2）	1（*0）	23（*4）
コミ情学科	6（*0）	8（*3）	0（*0）	14（*3）
計	31（*4）	38（*7）	1（*0）	70（*11）

* 女性教員は内数。

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-②-3：年齢別構成（平成30年度末年齢）

区分	教授	准教授	講師	計
～24	0	0	0	0
25～34	0	1	0	1
35～44	1	16	0	17
45～54	11	14	1	26
55～64	16	6	0	22
65～	4	0	0	4
計	32	37	1	70

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-②-4：外国人等専任教員数

部局名	外国人等専任教員数	
	H28	H29
	(H28.5.1時点)	(H29.5.1時点)
文学部	32	
法学部	9	
大学院社会文化科学研究科	8	
大学院法曹養成研究科	5	

大学院人文社会科学研究部（文学系）		40
大学院人文社会科学研究部（文学系）（教育）		
大学院人文社会科学研究部（法学系）		21
大学院人文社会科学研究部（法学系）（教育）		
教育学部	21	21
大学院教育学研究科		
薬学部	2	2

※外国人等専任教員＝外国籍教員＋海外学位取得日本人教員＋海外経験 1～3 年の日本人教員＋海外経験 3 年以上の日本人教員
（出典：人事課資料）

資料 A-1-1-1-②-5：研究専念期間の利用状況

学科	28 年度	29 年度	計	実施場所
総合人間学科	1	1	2	熊本/スウェーデン/アメリカ、ドイツ
歴史学科		1	1	熊本
文学科	1	2	3	熊本/アメリカ、熊本/ポーランド/ドイツ
コミ情学科	1		1	東京
計	3	4	7	

（出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成）

資料 A-1-1-1-③-1：学部・学科のアドミSSION・ポリシー

I 教育理念・目標及び求める人材像

文学部では次のような人を求めます。

- ・これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人
- ・人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、情報コミュニケーションのあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人
- ・専門的知識の習得に意欲をもち、習得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人

〈総合人間学科〉

総合人間学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに現代社会、倫理、地理、国語、外国語の学力に優れた人
2. 人間や人間関係への関心と探求心をもち、人間に関わる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人
3. 現代社会のかかえる諸問題や日本及び世界各地の社会や文化に関心をもち、それらを自分で分析する力をつけたいと考えている人
4. 地域社会や地域文化に関心をもち、それらがかかえる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人

〈歴史学科〉

歴史学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに日本史、世界史、現代社会、国語、外国語の学力に優れた人
2. 歴史を学ぶことを通じて、人間や人間社会の本質と可能性を探究し、新しい時代と社会を切り開いていこうとする意欲をもった人

3. 国際交流や国際協力等の実践的活動に関心をもち、歴史という長期的視点から、異文化社会の本質を理解したいと考えている人
4. 史料解読や遺跡発掘調査といった高度の技能を身につけ、より高い専門性をもって、文化財行政や歴史教育に携りたいと考えている人

〈文学科〉

文学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに国語や外国語の学力に優れた人
2. 日本を含むいろいろな国の言語、文学、文化に強い関心をもち、それらを学ぶことを通して人類の文化や現代社会に対する理解を深めたい人
3. 英語をはじめとする外国語の運用能力と異文化を正しく理解する能力を身につけ、国際的な舞台で活動したい人
4. 言語や文学に対する幅広い知識と的確な分析・表現能力を活かし、教育・研究に従事したい人

〈コミュニケーション情報学科〉

コミュニケーション情報学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに英語や情報の学力に優れた人。そうした能力やスキルを高め、卒業後に地域社会や国際社会に貢献することへの関心が高い人
2. 理論だけでなく、自らの体験を通して、新聞・放送・広告といったマスメディア、インターネットに代表される情報技術のしくみと運用など、コミュニケーションと情報に関するさまざまな事象について考えたい人
3. オーラルコミュニケーションを中心に、英語によるディスカッションやディベート等に対応できる高いレベルの実践的英語運用能力を習得したい人

(出典：熊本大学 HP「学部入試情報」)

資料 A-1-1-1-③-2：入学試験実施状況（平成 30 年度入試）

入試		試験時期	募集人員	計
AO 入試（グローバルリーダーコース）（大学入試センター試験を課さない）		10 月	10 名	170 名
推薦入試 I（大学入試センター試験を課さない）		11 月	22 名	
一般入試	前期日程	2 月	115 名	
	後期日程	3 月	23 名	
私費外国人留学生入試		2 月	若干名	

* 私費外国人留学生入試は学部の「国際交流委員会」が業務を担当。

(出典：『入学者選抜要項』を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-4：一般入試（前期日程）の志願倍率

学科	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	学科平均
総合人間学科	3.0	3.1	2.2				2.8
歴史学科	2.5	3.0	2.7				2.7
文学科	3.0	2.2	2.5				2.6
コミ情学科	3.5	2.0	2.2				2.6
学部平均	3.0	2.6	2.4				2.7

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-5：一般入試（後期日程）の志願倍率

学科	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	学科平均
総合人間学科	9.0	12.9	9.0				10.3
歴史学科	8.9	11.1	11.1				10.4
文学科	7.2	11.2	14.2				10.9
コミ情学科	4.2	8.7	8.0				7.0
学部平均	7.6	11.4	10.7				9.7

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-6：特別入試（推薦入試 I）の志願倍率

学科	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	学科平均
総合人間学科	2.4	2.7	3.6				2.9
歴史学科	4.8	5.3	3.0				4.4
文学科	5.2	3.2	3.0				3.8
コミ情学科	4.4	5.3	4.0				4.6
学部平均	3.9	3.7	3.4				3.9

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-7：特別入試（A0入試）の志願倍率

学部	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	
文学部	—	5.4	3.0				

(出典：『熊本大学データ集（2017, 2018）』を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-8：定員充足率

年度	入学者数	充足率
H28年度（定員 170）	181	106%
H29年度（定員 170）	179	105%
H30年度（定員 170）	180	106%
H31年度（定員 170）		
H32年度（定員 170）		
H33年度（定員 170）		
学部平均	180	106%

(出典：『熊本大学データ集（2016, 2017, 2018）』を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-9：入学者の地域分布（全国）

年度	九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北	北海道	その他	合計
H28	168	1	5	2	0	1	0	0	4	181
H29	166	0	3	1	1	1	0	2	6	180
H30	166	0	6	1	1	3	0	0	4	181
H31										
H32										
H33										
平均	166.7	0.3	4.7	1.3	0.7	1.7	0	0.7	4.7	180.7
(%)	(92.2%)	(0.2%)	(2.6%)	(0.7%)	(0.4%)	(0.9%)	(0%)	(0.4%)	(2.6%)	(100.0%)

(出典：『熊本大学データ集（2016, 2017, 2018）』を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-10：入学者の地域分布（九州圏内）

年度	熊本	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計
H28年度	32	60	11	16	15	11	21	2	168
H29年度	55	45	14	19	10	10	13	0	166
H30年度	45	46	17	14	14	8	18	4	166
H31年度									
H32年度									
H33年度									
平均	44.0	50.3	14.0	16.3	13.0	9.7	17.3	2.0	166.7
(%)	(26.4%)	(30.2%)	(8.4%)	(9.8%)	(7.8%)	(5.8%)	(10.4%)	(1.2%)	(100.0%)

(出典：『熊本大学データ集（2016, 2017, 2018）』を基に作成)

資料 A-1-1-1-③-11：オープンキャンパス参加者状況

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
概要説明・模擬講義、他	365	1,350				

*H28年度は熊本地震のため「学部進学説明会」の形で規模を縮小して行ったため参加人数が減少している。

(出典：『熊本大学データ集（2016, 2017）』を基に作成)

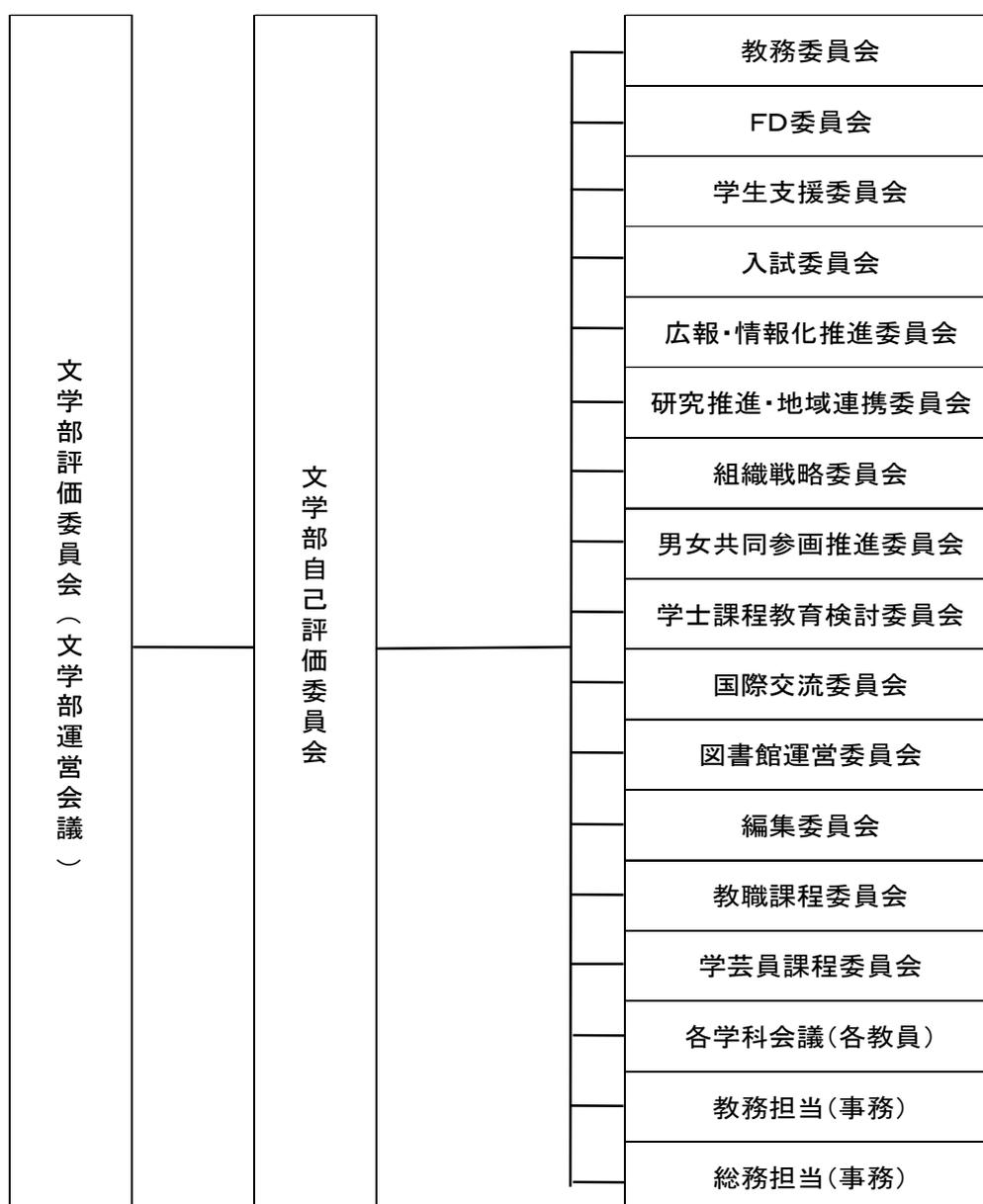
資料 A-1-1-1-④-1：学部自己評価実施体制

別表1 組織評価実施体制

(1)対象となる領域

	教育	研究	社会貢献	国際化	管理運営	男女共同参画
文学部	○		○	○	○	○

(2)実施体制



（出典：文学部自己評価委員会資料：「文学部組織評価実施要領」より）

資料 A-1-1-1-④-2：学部 FD 指針

1. 文学部は教育理念・目的に即し、目的とする人材を養成することのできる教育プログラムになっているか、また、授業の内容と方法が適切かを点検し、必要に応じて改善します。
2. 教員は、担当する授業や研究指導の内容・方法を不断に点検しつつ改善に努め、その結果を年度ごとの授業改善のためのアンケートに対する教員コメント等で報告します。
3. 職員は、新しい知識・技能の習得に取り組むと同時に、教員等との連携を蜜にとりながら教育改善を補佐します。
4. ティーチング・アシスタントは、担当教員の指導・助言の下、教育内容を理解した上で受講者の学びに最大限貢献し、自らの資質向上に努めます。
5. FD 委員会は、授業改善のためのアンケート等のデータをもとに授業内容、方法を検討し、必要な場合、学部に対して改善措置を提言します。

(出典：「熊本大学文学部 FD 指針」(H27 年度策定))

資料 A-1-1-1-④-3：文学部 FD 活動実施状況

FD 活動実施状況報告

部局名： 文学部

時期	活動名	概要	実施結果
4 月	文学部 TA 研修会	TA の一般的心得について研修活動を行う。	4 月 11 日(火)に文学部共用会議室にて実施。
4～6 月	成績評価についての検討	成績評価について、FD 委員会を中心に検討し、教授会に報告する。	FD 委員会(5 月 22 日 6 月 7 日)に検討した結果を教授会(6 月 21 日)で報告。
7 月	授業参観	今年度 2 回実施予定。1 回目は、アクティブ・ラーニングによる授業を参観する。	7 月 4 日(火)ラスカウスキーシニア教授「専門基礎英語 I」を対象に実施。
前期	授業改善アンケート	奇数年度に、受講生 20 名以上の全科目を対象に行う。	H29 年度は実施年度で、前期に**科目を対象に実施。
10 月	FD 講習会	今年度 2 回開催予定。1 回目は、成績評価についての講習会の講演と質疑を予定。	10 月 18 日(水)教授会に先立ち、熊本大学学生支援室藤瀬支援室長、井上特任助教による FD 講習会、「障がいのある学生の合理的配慮について」を実施。
12 月	FD 講習会	2 回目は、「障害者差別解消法」についての講習会を予定。	12 月教授会に先立ち、川越明日香准教授(大学教育統括管理運営機構)による FD 講習会、「成績評価のあり方について」を実施予定であったが、教授会の都合により今年度は中止となった。
1 月	授業参観	2 回目は、後学期開講の授業から選定して実施する予定。	1 月 16 日濱田「仏語学演習」を対象に実施した。
2 月上旬	シラバスチェック	FD 委員会で実施方法について見直しを検討し、2 月上旬に実施する予定。	12 月 26 日開催の FD 委員会で実施方法を確定し、1 月末入力のシラバスを対象にシラバスチェックを実施し、必

			要に応じて修正依頼を行った。
--	--	--	----------------

(出典：FD委員会資料)

資料 A-1-1-1-④-4：教員間の授業参観実施状況（例：専門基礎英語 I）

文学部 2017 年度授業参観実施報告書

文学部 FD 委員会
2017 年 2 月 13 日

【実施状況報告】

第 1 回授業参観

<実施概要>

- 1 公開日時：2017 年 7 月 4 日
- 2 公開場所：全学教育棟 D 202
- 3 授業科目：専門基礎英語 I
- 4 講義題目：Introduction to multi-skill development in English
- 5 対象学年：1 年次
- 6 対象教員：テリー・ラスカウスキー
- 7 参観教員：FD 委員 2 名を含む 5 名

<授業内容>

授業参観時の授業は、講義ではなく、アクティブ・ラーニングの形式の演習授業であった。まず課題として配布されていた小説について、3 名のグループでハンドアウトの問いに学生同士で解答し、内容理解を確認した。次いで小説に関係することわざについて、学生が意見を発表した。教員が黒板の前で説明する時間は後半の 30 分程度で、残りの時間は、教室を回りながらディスカッションしている学生と質疑応答する形で授業は行われた。詳しくは以下の担当教員の説明を参照のこと。

<担当教員の感想>

(1)公開後の感想

At first the students seemed a little nervous at the beginning of class, perhaps because of FD observers. I asked a simple review question about the story and no one could answer. However, when I put them in their working groups of three, they became relaxed and continued with the assigned comprehension activity to answer questions in groups about the story. In this activity #1, one student read a section of the story, and the other two students read silently looking for the answers to the questions. Then, all three students shared their answers on the worksheet. This went well, but it was taking much time, so I started motivating them by creating some competition. I would find a fast group and point out, "Wow this group is already on part 4 or part 5" and so on. Activity #1 is called assessment question-type activity, where the goal is to check for understanding of the material. However, a higher order learning activity is to provide an assisted question-type of activity that challenges (assists) the learners to go beyond the material and relate what has been presented in ways that are meaningful to their lives. Therefore, I included activity #2, which gave students proverbs relating to the concept of

the story about a boy who uses his imagination to create a challenging game (*Imagination is more important than knowledge; Everything you can imagine is real, and If you want to see what children can do, stop giving them things*). They are asked to give their opinions as to whether they agreed or not with the proverbs. They wrote their opinions on their worksheets, then I chose some students to write their responses on the board. The responses were very good, and I feel the whole class could understand them. Thus, I think the class went well as students could successfully complete the assessment and assisted type activities.

(2) 意見交換会後の感想

Comments from FD reviewers were very useful. First, they all gave me positive feedback about the class. I felt encouraged. Then, they gave me some constructive feedback, such as (1) since the students in groups were reading out loud, why don't you make them aware that they should focus on clear pronunciation? (2) When students wrote their responses on the board, I didn't correct some grammatical errors. My reason was that I was focusing on fluency (expression of ideas) and not always accuracy (correctness). But, the reviewer's question made me think about this more, and I felt I should have corrected all errors when written on the board and I will do this from now on. I also sometimes use background music (BGM), but I wasn't sure if it is a good idea. The FD reviewers provided objective feedback as they said it relaxed the students. Finally, I want to thank the reviewers for using their time to observe my class and offer me encouragement and constructive feedback.

< 参観教員の感想 >

(1) 参観後の感想

- ・学生との相互作用が見られ、学生が能動的に授業に参加している点が印象的だった。
- ・学生の言語使用をリラックスした環境で行えるよう工夫されているのが良かった。
- ・第一言語と第二言語を併用し、コンテンツベースの授業がされており、コミュニケーション能力の育成方法を学ぶことができた。
- ・学生同士が互いに学びあえるタスクと環境を作っており、ぜひ自分の授業にも取り入れたいと思った。
- ・最初のアクティビティ（課題テキストについての問と答）は学生が予習を効果的に行っていたこともあり、活発に行われていた。
- ・二番目のアクティビティ（ことわざ）の意味が、（参観教員の予習不足のため）、最初は分からなかったが、学生の発表と意見交換を通して、その重要性が理解できた。

(2) 意見交換会後の感想

- ・意見交換会では、具体的にどうしたら学生に自ら考えて、発言させることができるかについて提案をいただき、自らの授業に活かそうと思った。
- ・また、正確性と流暢性についても、話題に上り、何を重要視すべきかなど、英語の授業で直面する問題についても議論ができてよかった。
- ・他の先生方も指摘していたが、リラックスした雰囲気で行われていた。学生が英語で自分の意見を話すために重要な点であると思った。
- ・BGMの使用は意外だったが、学生が英語で話しやすくする雰囲気づくりの一環になっているように感じた。
- ・今回の授業は、学生が口頭による発言を行うだけの形式だった。意見交換会で尋ねるのを忘れたが、成績評価の方法などについて詳しく尋ねるべきだった。

【授業参観の総括】

参観した「専門基礎英語 I」は文学部1年生を対象にし、ネイティブ教員によって実施される科目である。担当教員がアクティブ・ラーニングについての講演を行っていたことから、今回は、「英語による授業」という点以上に、「アクティブ・ラーニング」の実践に触れるために企画した。

授業は、教室の雰囲気づくり、学生間、また学生と教員の相互の意見交換が活発なものであった。授業参観した教員が5名であった点はFD委員会として反省すべきであるが、充実した授業を参観することができ、文学部における「アクティブ・ラーニング」の活性化へ向けての貴重な機会となったと考えられる。

(出典：文学部FD委員会資料)

資料 A-1-1-1-⑤-1：授業改善のためのアンケート実施状況（平成29年度実施）

(前学期)

部局等名		対象科目数	実施科目数	対象学生数	回答数	コメント入力数	実施率(%)	回答率(%)	コメント入力率(%)
		A	B	C	D	E	B/A	D/C	E/B
教養教育		515	514	29,238	19,673	324	99.80	67.30	63.00
文学部		110	110	3,486	2,574	74	100.00	73.80	67.30
教育学部		145	145	5,912	4,383	103	100.00	74.10	71.00
法学部		56	56	4,983	2,890	27	100.00	58.00	48.20
理学部		59	58	3,373	2,086	33	98.30	61.80	56.90
医学部	医学科	25	22	2,482	840	4	88.00	33.80	18.20
	保健学科	104	104	5,819	4,033	69	100.00	69.30	66.30
薬学部		51	51	4,124	2,725	33	100.00	66.10	64.70
工学部		208	203	14,739	9,339	115	97.60	63.40	56.70

(後学期)

部局等名		対象科目数	実施科目数	対象学生数	回答学生数	コメント入力数	実施率(%)	回答率(%)	コメント入力率(%)
		A	B	C	D	E	B/A	D/C	E/B
教養教育		522	488	25,706	12,744	139	93.50	49.60	28.50
文学部		108	107	3,071	1,774	40	99.10	57.80	37.40
教育学部		122	114	4,118	2,323	56	93.40	56.40	49.10
法学部		45	45	4,489	1,820	12	100.00	40.50	26.70
理学部		62	61	3,266	1,822	37	98.40	55.80	60.70
医学部	医学科	35	35	4,204	1,031	3	100.00	24.50	8.60
	保健学科	74	74	3,952	2,524	24	100.00	63.90	32.40
薬学部		36	36	3,025	1,845	17	100.00	61.00	47.20
工学部		171	171	12,724	6,289	73	100.00	49.40	42.70

(出典：FD委員会資料)

資料 A-1-1-1-⑥-1：文学部の外部への広報媒体

ウェブサイト・刊行物	配信・配布対象
文学部 HP	全対象
『文学部案内』	高校生
『文学部通信』	在学生、保護者

(出典：人文社会科学系事務課資料)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

・文学部教員は教養教育・学内共同施設の運営において大きな役割を果たしている（教育統括管理運営機構の組織構成員、各種委員会委員、分野別部会員、科目別部会員の任務；全学部の中で最も多い授業科目の担当；永青文庫研究センター及び埋蔵文化財調査センターのセンター長任務等）。

・学部附属の新たなセンターの設置により、県・市との連携関係が構築された（平成 29 年度に「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」の設置により、県文化協会他、県内・市内の文化振興関係機関との連携体制を構築）。

・学部及び大学院の組織改編を行った（平成 29 年度に学部所属と大学院所属の教員を「大学院人文社会科学研究部」にまとめ、研究部教員が、教育部となった学部と研究科の教育に柔軟に関わる体制を構築）。

・学部の教育・入試・自己評価の管理・運営体制が適切に整備されている（学部長・副学部長・学科長で構成される運営会議に、学部運営上の主要案件の審議を集約；各種入試情報の公表・周知及び入試の実施運営、学部長による 3 年度毎の教員個人活動評価の実施）。

・学生の多様な関心、受験生及び社会のニーズに応えるべく、新たなコースを設置する（現在の 4 学科・9 コースに加えて、平成 31 年度にコミュニケーション学科に「現代文化資源学コース」を新設）。

・学部の専任教員は適正な構成となっている（バランスの取れた学科別教授・准教授・講師数；目標値 15% を達成している女性教員比率（15.7%）；学部として最も多い外国人等専任教員等）。

・学部 FD 委員会が学部教育の改善・向上のための活動を継続的に行っている（FD 活動取り組み指針の明示、教員間の授業参観実施、授業改善のためのアンケート実施、シラバスチェック等；これまで 3 年毎に実施されていた授業改善のためのアンケートを、平成 29 年度から隔年で実施、対象授業科目も拡大された）。

・その他、優れた点：一般入試（前期・後期）、特別入試（推薦・A0）の学部全体の良好な平均志願倍率、良好な定員充足率；オープンキャンパスの開催；高校出張授業の実施；研究専念期間の活用；五大学文学部長等会議の継続的な開催（毎年持ち回りで開催、様々な課題について情報交換、協議を行う）。

以上の観点から、教育の実施体制は多くの面において極めて適切に整備されているという点において優れており、期待される水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

学部・学科・コースの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、カリキュラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）は、目指す学習成果とともに、『学生便覧』において公表されている（資料 A-1-1-2-①-1）。

卒業要件となる教養教育科目及び専門教育科目とその単位数は「文学部規則」(第16条)に定められ、『学生便覧』に明示されている(資料 A-1-1-2-①-2)。

1～4年次までに2度の進級基準が設けられ、段階的な履修の大枠が示されるとともに(資料 A-1-1-2-①-4)、各学科・コースの学生が学習効果をより高めるべく、教養教育から専門教育へと継続する形での段階的履修構成図が示されている(資料 A-1-1-2-①-5)。学生は2年次進級の際にコースを選択し、3年次で専門領域を決めて専門性を深化させ、4年次でその集大成となる卒業論文を完成させる。

専門科目の構成及び単位数、卒業要件単位表、履修モデル単位表は資料 A-1-1-2-①-6～8の通り。

その年度に開講される授業科目一覧、履修手続要領、年次カレンダー、開講科目時間割等の情報は配布される『履修手続案内』で与えられ、授業の詳細(シラバス)はWEB上で閲覧できる形となっている(資料 A-1-1-2-①-9)。

学部のサポーター企業対象に行われたアンケートの結果、文学部学生に求めるものが、リーダーシップ、コミュニケーション能力、創造性、自責・自発型、行動力、社会的問題の発見等であることが示された(資料 A-2-2-2-②-2 参照)。その他種々の状況も踏まえて、社会対応科目を増設し、平成30年度現在、学部共通科目、コミュニケーション情報学科開設科目合わせて17科目となっている(資料 A-1-1-2-②-1)。

学部学生の進路・就職支援体制として学生支援委員会を設置し、各学科委員が学生の進路・就職関係全般の指導に当たり、進路選択をサポートしており、学部関連の年間進路支援活動が行われている(資料 A-1-1-2-②-2)。他に大学全体としての就職講座、公務員養成講座、教員採用試験対策講座が実施されている。

インターンシップの実施状況は資料 A-1-1-2-②-3の通り(平成29年度から就職支援課への届け出制を開始、それ以前の届け出なしの参加数はこの表には出ていない)。

全学の生涯学習教育の一環として、社会人対象に、学部教員が毎年30科目前後の授業を授業開放科目として提供している(資料 A-1-1-2-②-4)(学部専門科目の科目名については資料 C-1-1-2-1 参照)。

他学部の履修科目単位については、『学生便覧』(16頁)にその扱いが定められている。

第3年次編入学生の受け入れ状況は資料 A-1-1-2-②-5の通りで、受け入れ後、ガイダンスの実施、既修得単位の読み替え等の配慮がなされている(『学生便覧』39頁)。

転学部・転学科・転コースに関する規則は『学生便覧』(128頁)に示されている。文学部から他学部への申請者は平成28・29年度ともない(資料 A-1-1-2-②-6)。

学生の国際化に寄与する交換留学制度があり(『学生便覧』93頁)、毎年多くの学生が海外の大学で学んでいる。それを促進するため学部独自のガイダンスを実施し、留学経験のある先輩たちの体験談、教員からのアドバイス、事務手続きの説明など具体的なサポートを提供している。また学部図書室に「国際交流図書コーナー」が設置され、留学に関心のある日本人学生、海外からの留学生双方に有用な場として機能している。学部学生が関わる主な交流協定大学は資料 A-1-1-2-②-7の通りで、留学生数はH28・29年度ともに増加傾向にある(資料 A-1-1-2-②-8)。部局間交流協定大学の開拓は継続して行われている(平成30年度、デンマークのコペンハーゲン大学と締結)。

ほかに、学生の国際化を推進する国際奨学事業制度があり(『文学部規則集』85頁)、多くの学生が、短い期間ながら、様々な国々に出かけ、様々なテーマに取り組み、研修を行っている(資料 A-1-1-2-②-9)。

他大学(国外の大学を含む)での授業科目履修の取り扱いについては『学生便覧』(120頁)にその規則が定められ、単位互換認定基準については『文学部規則集』(76頁)に定められている。実際の単位読み替え状況は資料 A-1-1-2-②-10の通り。海外の留学先大学で取得した単位については、卒業要件単位として必要な分だけを読み替え申請するケースが多いので、表の数値は実際に取得した単位数が反映されているものではない。

社会人受入制度の一つとして「研究生・科目等履修生」受入れ制度がある(熊本大学 HP

「正規課程の学生以外として受け入れる制度（研究生・科目等履修生）」）。また「特別聴講学生」の受け入れに関する規則は『学生便覧』（129頁）に示されている。「研究生・科目等履修生」（日本人）の入学状況は資料 A-1-1-2-②-11 の通り。

交流協定大学を中心とした海外の大学からの留学生の受け入れ状況は資料 A-1-1-2-②-12 の通りで、全学部中最も多く、活発である。さらに、国費外国人留学生の国別人数及び私費外国人留学生の身分別・国別人数は資料 A-1-1-2-②-13・14 の通り。

国際通用性のある教育課程として、英語の実践力・運用力を強化するための授業科目が、学部共通科目として2科目、学科としてはコミ情学科に7科目設定されている（資料 A-1-1-2-③-1）。外国語・英語による授業も全学部中最も多く、外国語・異文化・国際化教育の強化体制が取られている（資料 A-1-1-2-③-2）（外国人等専任教員数については資料 A-1-1-2-④-4 参照）。

コミ情学科では「異文化コミュニケーション論実習」としての海外研修も行い、学生の語学力・国際感覚・国際的視野を養っている（資料 A-1-1-2-③-3）。歴史学科では教員引率による短期の海外研修が行われ、学生の国際化が推進されている（資料 A-1-1-2-③-4）。また各学科で、国際化アップのための種々の指導や勉強会の実施、国際交流イベントへの参加促進なども行われている（資料 A-1-1-2-③-5）。その他、休暇や休学を利用して、専門研究、語学研修、海外インターンシップ、異文化体験など様々な目的で海外渡航している学生も多くいる（資料 A-1-1-2-③-6）。文学部の国際化推進は非常に活発に行われている。

教養教育科目と学部専門科目の授業形態種類とその授業数は資料 A-1-1-2-④-1・2 の通りで、学部専門科目は講義、演習に限られることなく、実習、実技科目も相当数あり、アクティブラーニング要素を含む授業がバランスよく行われている（「その他」は、講義、演習、実習、実技等が複合的に含まれる授業）。

卒業論文の指導及び評価は、「文学部論文試験細則」（『学生便覧』37頁）に則り、課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して行われる。それは専門課程の集大成として重要であり、学生の関心と能力を最大限に引き出す機会として学生の育成に繋げている。

年度の学部開講科目一覧、行事予定表、教員名簿、授業日カレンダー、開講科目時間割が『履修手続案内』で、個々の授業のシラバスが WEB 閲覧の状態で提供され、学生の利便性を図っている。

学生生活実態調査が実施され、多面にわたる学生の生活サポートに参考となる報告書が纏められ（「第9回学生生活実態調査報告書」平成28年実施）、その一部が文学部学生の主体的学習把握の参考になるデータとなっている（資料 A-1-1-2-⑤-1）。また、授業に対する自主学習及び達成度に関して「授業改善のためのアンケート」が実施され、その結果が得られている（資料 A-1-1-2-⑤-2）。

学生の主体的学習促進及び学習支援として、事前・事後学習の指示、オフィスアワーの設定を明示し（『履修手続案内』27・28頁及び各「シラバス」）、また各学科・コース・履修モデル毎に各種ガイダンスを実施している（資料 A-1-1-2-⑤-3）。

厳格な成績評価・単位認定方法は「シラバス」に明示され、評価の厳格性・公平性が保たれている。「シラバス」は、各教員による入力後、FD委員がチェックを行い、その修正指示に従って教員が修正を行い、作成する（『文学部規則集』81頁：「シラバスチェック実施要領」）。

成績優秀者、奨学金関係の選定基準として GPA 制度を用いることによって学生の学習意欲・主体性を高めている（実際の運用・実績については資料 A-2-2-1-①-12）。

学生の自主学習を支援するための学習環境として、履修モデル（分野）ごとに学生研究室（自習室・交流スペース）があり（全22室）、そこには学生数に対応した数のパソコンが設置され（資料 A-1-1-2-⑥-1）、無線 LAN も整備されている（「E.管理運営」参照）。

文学部図書室があり、各履修モデル専用の書架が設置され、合計約7万冊に及ぶ図書が専門領域に従って配架され、学生は自分の専門領域の基本的な文献から専門的な文献まで、

必要なときに迅速に利用することができる。また平成 27 年度から、卒論作成時期における雑誌室の受付に大学院生を雇用して対応し、学生の利便性を高めている。平成 28 年度および 29 年度の図書室・雑誌室の利用状況は資料 A-1-1-2-⑥-2 の通り。

学生研究室には主に学術雑誌を中心とした図書資料が配架され、最新の研究動向・情報入手する環境も整い、各教員の研究室にも多くの研究書が設置され、学生の利用に対応している。

学生の自習室兼サロンとしてロビー学生室（正面玄関入口横、休日も開放）、学生の学習・生活・進路相談他のための部屋が確保され、学生のニーズに対応している。また平成 29 年度に、主に同窓会会員（卒業生）の利用を目的として「武夫原サロン」がロビー学生室隣に開設され、必要に応じて学部学生も利用できるスペースとなっている（「E. 管理運営」参照）。

他に学習支援として担任制があり、各学科の担当者（教務委員、学生委員、1 年次授業担当者等）が、2 年次で専門コースに進級する前の学生の授業出席状況等を把握し、学習及び学生生活上のサポートをしている。

障がいのある学生への学習支援としては、「合理的配慮」に従った教員の対応の徹底、またボランティア学生によるノートテイク（授業での講義内容書き取り、パソコン・テイク等）、さらに平成 29 年度からバリアフリーマップ作成の活動もなされている（資料 A-1-1-2-⑥-3）。

留学生への学習支援としては、指導教員の配置、学生チューターによるサポート（資料 A-1-1-2-⑥-4）、英語によるシラバス情報提供がなされ（平成 27 年度に試験的に始まり、平成 28・29 年度にさらに改善・整備）（資料 A-1-1-2-⑥-5）、また毎年 10 月に「留学生歓迎パーティ」が開催され、多くの留学生、学生チューター、一般学生、教員が参加し、情報交換と親睦を促進する交流の場となっている。

その他、教員による正規授業以外の種々の教育課外活動が、学部学生、留学生他対象に行われている（資料資料 A-1-1-2-⑥-6・7）。

奨学制度として「入学料・授業料免除」、「日本学生支援機構」その他による奨学金制度があり、活発に利用されている（資料 A-1-1-2-⑥-8・9）。

（中期計画番号 12）

資料 A-1-1-2-①-1：学位授与方針及びカリキュラム編成方針

学位授与の方針

文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力および 21 世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、本学が定める学習成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した人に学士（文学）の学位を授与します。

<学位プログラム名称：総合人間学科・人間科学コース>

●学位授与の方針

総合人間学科人間科学コースは、学士課程教育において、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力（哲学）や実証的判断力（心理学）を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：人間科学（哲学・心理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
 段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には人間科学（哲学・心理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

<学位プログラム名称：総合人間学科・社会人間学コース>

●学位授与の方針

総合人間学科社会人間学コースは、学士課程教育において「社会的存在としての人間」という認識から出発し、現代における人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成している。

＜学位プログラム名称：総合人間学科地域科学コース＞

●学位授与の方針

総合人間学科地域科学コースは、学士課程教育において「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

＜学位プログラム名称：歴史学科・歴史資料学コース＞

●学位授与の方針

歴史学科歴史資料学コースは、学士課程教育において、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

<学位プログラム名称：歴史学科・世界システム史学コース>

●学位授与の方針

歴史学科世界システム史学コースは、学士課程教育において、史料の総合的分析力に依拠した論理的実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語（欧米諸語、漢文、中国語等）運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

<学位プログラム名称：文学科・東アジア言語文学コース>

●学位授与の方針

文学科東アジア言語文学コースは、学士課程教育において、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：日本語日本文学および中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成している。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成している。

個別化（進路への対応）：3・4年次には日本語日本文学および中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成している。

<学位プログラム名称：文学科・欧米言語文学コース>

●学位授与の方針

文学科欧米言語文学コースは、学士課程教育において、英語・ドイツ語・フランス語の運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的概念・理論について説明できる。

- ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。

- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

<学位プログラム名称：文学科・超域言語文学コース>

●学位授与の方針

文学科超域言語文学コースは、学士課程教育において、人類の言語文化及びその精華である文学作品の多様な諸相に対する理解力と、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、人類の言語や文学に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・比較文学・言語学・外国語教育学の基本的概念・理論について説明できる。

- ・比較文学・言語学・外国語教育学に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。

- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：比較文学および言語学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には比較文学および言語学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。

<学位プログラム名称：コミュニケーション情報学科・コミュニケーション情報学コース>

●学位授与の方針

コミュニケーション情報学コースは、学士課程教育において、高次のコミュニケーション能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、情報を読み解き、発信できる能力を高め、グローバル化・情報化が進む現代社会において先導的役割を担い、自発性と創造性に優れた人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を設定し、具体的な解決策を提案できる。
- ・異文化理解や異文化交流・国際交流に関心を持ち、英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。
- ・最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。

●カリキュラム編成方針

体系性：コミュニケーション情報学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。

（出典：平成30年度『学生便覧』4～13頁）

資料 A-1-1-2-①-2：卒業要件科目及び単位数

区 分		位 数
教養教育	必修外国語科目 情報基礎科目 肥後熊本学	15 単位
	体育・スポーツ科学科目 自由選択外国語科目 リベラルアーツ科目 現代教養科目 Multidisciplinary Studies キャリア科目 開放科目	18 単位以上
専門教育	専門基礎科目	14 単位以上
	専門科目 選択科目	70 単位以上

（出典：平成30年度『学生便覧』15頁）

資料 A-1-1-2-①-3：教養教育科目履修方針

文学部	<p>1. リベラルアーツ科目および現代教養科目の学系「自然・生命」の授業科目から3つ以上の授業テーマを選択し、6単位以上を履修することが望ましい。</p> <p>2. 中学校教諭一種免許状（社会、国語、英語、ドイツ語、フランス語）、高等学校教諭一種免許状（公民、地理歴史、国語、英語、ドイツ語、フランス語）の取得を希望する学生は、基礎科目の「体育・スポーツ科学（2単位）」および現代教養科目の学系「人文・社会」の「暮らしの中の憲法（2単位）」を必ず履修しなければならない。</p>
-----	---

※文学部および法学部のグローバルリーダーコース入学者は、所属学部の履修指導に従うこと。

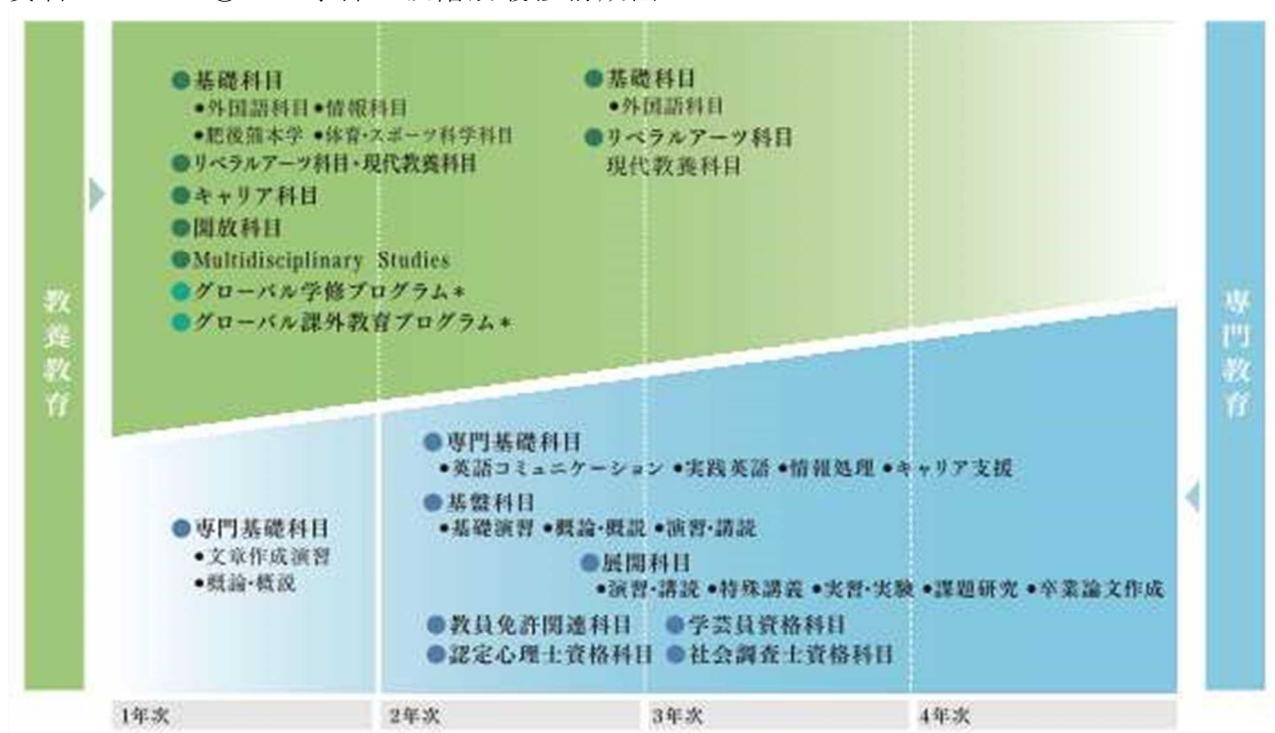
（出典：2018年度『教養教育案内』36頁）

資料 A-1-1-2-①-4：進級基準

進級する年次	進級するための条件
第2年次	教養教育の授業科目 16 単位以上（必修外国語科目 4 単位以上を含む）を修得していなければならない。
第4年次	教養教育の授業科目 32 単位以上、専門教育の授業科目 44 単位以上を修得していなければならない。

（出典：平成30年度『学生便覧』17頁）

資料 A-1-1-2-①-5：学部の段階別履修構成図



（出典：『文学部案内2019』12頁）

資料 A-1-1-2-①-6：専門科目の構成及び単位数（例：総合人間学科）

授 業 科 目 名		単 位	授 業 科 目 名	単 位	授 業 科 目 名	単 位
専門基礎 科目	哲学概論Ⅰ	2	倫理学応用演習	2	地域科学演習ⅡC	4
	心理学概論Ⅰ	2	応用倫理学概説A	2	地域科学応用演習	2
	倫理学概論	2	応用倫理学概説B	2	民俗学概論Ⅱ	2
	深層心理学概論	2	社会学概論Ⅱ	2	地理調査法概説	2
	社会学概論Ⅰ	2	社会調査法概説	2	人文地理学Ⅰ	2
	文化人類学概論Ⅰ	2	社会人間学演習	2	自然地理学Ⅰ	2
	地域社会学概論Ⅰ	2	社会調査実習Ⅰ	2	人文地理学Ⅱ	2
	民俗学概論Ⅰ	2	社会調査実習Ⅱ	2	自然地理学Ⅱ	2
	地理学概論	2	社会人間学特殊講義	2	自然地理学Ⅱ	2
人間科学基礎演習論	2	社会人間学応用演習	2	地理調査実習	2	
理学Ⅰ	2	社会学演習	2	Ⅰ	2	
論理学Ⅱ	2	現代社会分析演習	2	地理調査実習	2	
哲学概論ⅡA	2	文化人類学概論Ⅱ	2	Ⅱ	2	
哲学概論ⅡB	2	文化人類学演習	2	地誌学	2	
哲学演習Ⅰ	2	文化人類学応用演習	2	課題研究Ⅰ	8	
哲学演習Ⅱ	2	地域社会学概論Ⅱ	2	課題研究Ⅱ		
哲学特殊講義	2	地域社会分析演習	2	課題研究Ⅲ		
心理学概論Ⅱ	2	基層文化論演習	2	卒業論文		
心理学研究法Ⅰ 心	2	地域文化論演習	2			
理学研究法Ⅱ 心理	2	地域科学特殊講義A	2			
学特殊講義	2	地域科学特殊講義B	2			
心理学演習Ⅰ	2	環境社会学	4			
心理学演習Ⅱ	2	地域科学演習ⅠA	4			
心理学基礎実験	2	地域科学演習ⅠB	4			
心理学総合実験	2	地域科学演習ⅠC	4			
倫理学演習	2	地域科学演習ⅡA	4			
人間科学上級演習		地域科学演習ⅡB				

(出典：平成30年度『学生便覧』23頁)

資料 A-1-1-2-①-7：卒業要件単位表（例：社会人間学コース）

科目区分		科目名	単位数	合計	備考
専 門 教 育	専門基礎科目	※文章作成演習 ※英語コミュニケーション 哲学概論Ⅰ 心理学概論Ⅰ 倫理学概論 深層心理学概論 社会学概論Ⅰ 文化人類学概論Ⅰ 地域社会学概論Ⅰ 民俗学概論Ⅰ 地理学概論 実践英語 情報処理A 情報処理B ギリシア語A ギリシア語B ラテン語A ラテン語B コリア語a コリア語b キャリア支援A キャリア支援B	14	84～91	必修科目 ※※ 単位互換 により他の 大学又は短 期大学にお いて修得し た単位を含 むことがで きる。
		基盤科目	※社会調査法概説 応用倫理学概説A 応用倫理学概説B 社会学概論Ⅱ 文化人類学概論Ⅱ ※社会人間学特殊講義 ※社会人間学演習		
	専門科目 展開科目	※社会調査実習Ⅰ ※社会調査実習Ⅱ 倫理学演習 倫理学応用演習 社会学演習 現代社会分析演習 文化人類学演習 文化人類学応用演習 社会人間学応用演習 ※課題研究Ⅰ ※課題研究Ⅱ ※課題研究Ⅲ	28		

	※卒業論文	
選 択 科 目	※※ 教職科目・学芸員資格科目（一部を除く）を除く専門教育の科目及び他学部の専門科目（教職科目を除く）	28～35

(注)教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

(出典：平成30年度『学生便覧』29頁)

資料 A-1-1-2-①-8：履修モデル単位表（例：社会人間学コース「社会学」）

科 目 区 分		科目名（開講年次）	単位数	合計	備 考
専 門 教 育	専 門 基 礎 科 目 (14)	必 修 科 目	文章作成演習 (1年) 2 英語コミュニケーション (2年) 2	84～ 91	※ 単 位 互 換 により、他 の 大 学 又 は 短 期 大 学 に お いて 修 得 し た 単 位 を 含 む こ と が で き る。 社 会 学 履 修 モ デ ル 履 修 者 は、地 域 社 会 学 概 論 I・II を 履 修 す る こ と が 望 ま し い。
		選 択 必 修 科 目	社会学概論Ⅰを含む総合人間学科1年次開講の概論科目 (1年) 6		
			実践英語 (2年)		
			情報処理A (2年)		
			情報処理B (2年)		
			ギリシア語A (2年)		
			ギリシア語B (2年)		
			ラテン語A (2年)		
			ラテン語B (2年)		
			キャリア支援A (2年)		
	キャリア支援B (3年)				
	基 盤 科 目 (14)	必 修 科 目	社会調査法概説 (2年) 2 社会学概論□ (2年) 2 社会人間学演習 (2年) 2 社会人間学特殊講義 (2年) 4		
		選 択 必 修 科 目	応用倫理学概説AまたはB (2年) 4 文化人類学概論□ (2年)		
		展 開 科 目 (28)	必 修 科 目	社会調査実習□ (3年) 2	
社会調査実習□ (3年) 2					
社会学演習 (3年) 8					
現代社会分析演習 (3年)					
社会人間学応用演習 (4年) 2					
課題研究□ (3年) 2					
課題研究□ (3年)					

		課題研究□ (4年) 2 卒業論文 (4年) 8	
	選択必修科目	倫理学演習 (3年) 2 倫理学応用演習 (3年) 文化人類学演習 (3年) 文化人類学応用演習 (3年)	
選択科目 (28~35)	※教職科目・学芸員資格科目(一部を除く)を除く専門教育の科目及び他学部の専門科目(教職科目を除く)		

(注)教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

(出典：平成30年度『学生便覧』44頁)

資料 A-1-1-2-①-9 : WEB 上シラバス例

熊本大学シラバスシステム

印刷 English Japanese

科目名: 英語学概論(日) / Outline of English Language I (英)

基本情報

科目ナンバー	LLJ2.032-32-1	開講年次	2年生
年度・学期	2018年 前期	曜日・時間	木曜 4限
担当教員	隈元 真広	単位数	2単位
選択必修		授業回数	15
時間割所属	文学部 (05)	時間割コード	71800

学修成果とその割合

1.豊かな教養	20%
2.確かな専門性	70%
3.創造的な知性	0%
4.社会的な実践力	0%
5.グローバルな視野	10%
6.情報通信技術の活用能力	0%
7.汎用的な能力	0%

詳細情報

講義題目(テーマ) 歴史的变化の観点から英語を観る

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語と英語を併用した」テキスト

授業の形態 講義

授業の方法 講義形式で、プリントと視聴覚教材を使って授業を進める。

授業の目的 今や国際語・世界語となっている英語がどのような歴史的变化を経て現在に至っているかを学ぶことで、現代英語の語彙・構法、その他の理解を深める。現在のドイツ北端部からオランダにかけた北海沿岸の方言にすぎなかった言語がブリテン島に渡り、英語としての歴史を歩み始めて1500年。今や世界中の人たちがコミュニケーション手段として用いている一種の「国際語」へと成長した。その1500年の歴史を、ヨーロッパ、ブリテン島及びイギリスのわかれ火・社会・文化背景を考慮に入れながら、発音、綴り字、形態、統語法、語彙等の変化を中心に概観する。

到達目標 英語の歴史的变化を理解し、それを通して現代英語をより深く理解すること。そして英語の語彙(構法、語彙、文法現象など)を適切に説明できる力をつけること。

評価方法 学期末の筆記試験および学期途中のレポートを合わせて総合的に評価する。

履修条件 特になし

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略	内容詳細 事前学習 事後学習
1	Introduction	授業内容について説明。英語の歴史に関してポイントとなるものについて概説する。	詳細 事前 事後
2	ヨーロッパ・ブリテン島及びイギリスの歴史-1	古代から中世にかけてのヨーロッパ・ブリテン島及びイギリスの歴史を概観する。	詳細 事前 事後
3	ヨーロッパ・ブリテン島及びイギリスの歴史-2	近代から現代にいたるヨーロッパ・ブリテン島及びイギリスの歴史を概観する。	詳細 事前 事後
4	インドヨーロッパ(祖語からゲルマン語まで) 古英語概説	現在のヨーロッパ諸言語その他の祖語であるインド・ヨーロッパ祖語から、英語のルーツであるゲルマン語までの歴史を概観する。 古英語(700-1100)の語彙、形態、統語について概説し、具体的なテキストを読む。現代英語で文法的な例外とか特殊な用法とか説明されるものも、古英語からの変遷であるとなぜそうなるかが明確に説明できるものが多い。現代英語をより良く理解し、また説明する力をつけるためにも、現代英語との関連を視野に入れる。	詳細 事前 事後
5	中英語概説-1	中英語(1100-1500)の語彙、形態、統語について概説する。中英語の場合も、古英語と同じように、現代英語との関連でみるとよく理解でき、また説明できる文法事象や用法があるので、現代英語との関連を視野に入れる。	詳細 事前 事後
6	中英語概説-2	中英語(1100-1500)時代の詩人Chaucerの作品の一部や、他のロマンスや抒情詩を実際に読み、鑑賞し、中英語をより深く理解する。	詳細 事前 事後
7	近代英語概説-1	近代英語(1500-1900)の語彙、形態、統語について概説する。近代英語時代はイギリスの文学隆盛期でもあるので、当時の代表的な作家たちの作品にも触れ、ある意味英語が完成したともいえる近代英語をより深く理解する。	詳細 事前 事後
8	近代英語概説-2	初期近代英語(1500-1700)時代の代表的な作家Shakespeareの劇や、後期近代英語(1700-1900)時代の代表的な作家Dickensの小説の一部を実際に読み、また鑑賞し、近代英語をより深く理解する。	詳細 事前 事後
9	英語の語彙・綴り字・発音の変遷通観	英語の語彙・綴り字・発音の変遷を、古英語、中英語、近代英語、現代英語と通観し、英語が語彙の変遷からみても個性豊かな言語であるか観察するとともに、現代英語の特質の理解を深める。	詳細 事前 事後
10	英語の形態・統語の変遷通観	英語の形態・統語の変遷を、古英語、中英語、近代英語、現代英語と通観し、現代英語の特質の理解をさらに深める。	詳細 事前 事後
11	英語の地理的拡張と多様性-1	イギリス英語、ロンドン英語、アメリカ英語、オーストラリア英語について概説する。語彙、発音、文法などの観点からそれぞれを比較し、英語の多様性を理解する。	詳細 事前 事後
12	英語の地理的拡張と多様性-2	ビジン英語、クレオールについて概説し、英語の地理的拡張と多様性の最先端を観察する。	詳細 事前 事後
13	英語の使用領域の拡張と多様性	科学英語からメールの英語まで、英語の使用領域の広がり、それに伴う英語の変化、多様性を観察する。	詳細 事前 事後
14	英語の使用領域の拡張と多様性	科学英語からメールの英語まで、英語の使用領域の広がり、それに伴う英語の変化、多様性を観察する。	詳細 事前 事後
15	まとめ&筆記試験	授業全体のまとめ+筆記試験。	詳細 事前 事後

キーワード ヨーロッパの歴史、ブリテン島・イギリスの歴史、古英語、中英語、近代英語、現代英語、英語の地理的拡張、英語の使用領域の拡張

テキスト プリント及び視聴覚教材使用

参考文献 授業中に随時紹介する。

文字列を複製して、もうリンクすると図書館の検索ができます

オフィス・アワー 研究室にいる時間帯(いつでも対応する)。

担当教員への連絡方法 E-mail: skuma@kumamoto-u.ac.jp

担当教員からのメッセージ 現在に至る英語の歴史的变化を通して、英語を多面的に理解することで、現在の英語の様々な事象もよく分かるので、自分の英語力のアップ、説明力のアップを目指す人は積極的に参加してください。

(出典：平成30年度 WEB 上シラバスから抜粋)

資料 A-1-1-2-②-1：社会対応科目

学部共通科目	7 科目	文章作成演習 情報処理 A 情報処理 B キャリア支援 A キャリア支援 B インターンシップ ジェンダー入門
コミュニケーション 情報学科	10 科目	情報社会論 メディア論 情報技術応用演習 コミュニケーション論 キャリアデザイン実習 A キャリアデザイン実習 B コミュニケーション情報学演習 情報・ビジネスコミュニケーション マーケティング・コミュニケーション スピーチコミュニケーション

(出典：平成 30 年度『学生便覧』を基に作成)

資料 A-1-1-2-②-2：文学部関連進路支援活動スケジュール

4・5月	
6月	第 1 回進路・就職ガイダンス（学部 3 年生対象） 就職活動を終えた 4 年生の体験談と質疑応答を中心に、今後の進路について考えてもらいます。
7月	就職基礎講座（学部 2，3 年生対象） 働いて生きることを考えてもらい、自分のキャリアプランを構想する手がかりを与えます 公務員養成講座開講（全学）
8月	就職講座「基礎編」開講（全学） インターンシップ（希望者のみ） 行政機関や企業で実際に仕事を体験します
9月	KUMANAUI 登録説明会
10月	第 2 回進路・就職ガイダンス（学部 3 年生対象） 就活本番に向けての具体的なアドバイスと、熊本大学で提供されているキャリア支援に関するサービスの説明が中心です。従来のメルマガに代えて、2012 年度から KUMANAUI が利用できるようになりました。 個人面談（学部 2，3 年生、修士 1 年生対象） 分野毎に、指導の先生と進路に関する話をし、先生からアドバイスをもらいます。

	進路状況調査（学部4年生、修士2年生対象）
11月	キャリア・セミナー〔卒業生との懇談会〕 キャリア支援ユニットと学生の共同企画です。それぞれの職種で活躍している卒業生をお招きし、仕事内容や採用試験の突破法などについて話してもらいます。
12月	教職支援講座（学部2,3年生、修士1年生対象） 教員をめざしている学生を対象に、現役の先生に来ていただき、仕事の内容や、採用試験の突破法などについて話をしてもらいます。
1月	就職活動調査（4年生対象）
2月	
3月	進路調査（卒業生修了生対象） ※卒業式の前後に実施・

（出典：文学部 HP「進路・キャリア支援」）

資料 A-1-1-2-②-3：文学部学生インターンシップ参加状況

年度	①文学部 教務担当 把握分	②就職支援課 把握分（大学 コンソーシア ム熊本インタ ーンシップ）	③就職支 援課把握 分（キャリ ア科目 51）	④就職支援課把 握分（大学で取 りまとめて応募 したインターン シップ）	⑤就職支援課 把握分（イン ターンシップ参 加届け出開始）	①～⑤ 合計
H27年度	1	17	0	0		18
H28年度	2	14	1	0		17
H29年度	5	5	4	6	32	52

※教育実習は含めず、企業や官公庁での就業体験のみを計上。// ⑤の就職支援課への届け出制は H29 年度から開始で、それ以前の届け出なしの参加数はこの表には出ていない。

（出典：就職支援課資料）

資料 A-1-1-2-②-4：文学部教員による授業開放科目実施状況

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
教養科目	13	12	2				27
学部専門科目	16 (22名)	12 (17名)	16				44
大学院科目	6	3	3				12
放送大学科目	4	4	4				12
計	39	31	25				95

* 学部専門科目の括弧内数値は受講生数合計。

（出典：人文社会科学系事務課資料）

資料 A-1-1-2-②-5：第3年次編入学生受け入れ状況

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	合計

総合人間学科	0/3	0/3	1/2				
歴史学科	0/0	2/2	0/1				
文学科	0/2	0/4	0/3				
コミ情学科	1/3	0/2	0/1				
合計	1/8	2/11	1/7※				

※H27年度：受験者7名、合格者0名/ ※H30年度1名合格したが入学辞退のため、最終的な編入者は0名
(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-6：転学部・転学科・転コース申請及び受入れ状況

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
転学部	3 (教 1/2、法 1/1、 工 1/2)*	0	3 (法 1/1、薬 1/1、 工 1/4)	
転学科	1 (総人→文)	0	0	
転コース	3 (欧米→超域 2名、 欧米→東ア 1名)	0 (人間→社人 1名)	0	

*1/2=希望者2名のうち1名受入れ

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-7：学部学生が関わる海外交流協定大学
(大学間学生交流協定大学)

大 学 名 (国名)	派遣学生	留学予定期間	必要な語学能力等
モンタナ州立大学 (アメリカ)	3名以内	8月～翌年5月	6.0点 (IELTS) 71点 (TOEFL-iBT)
ニューカッスル大学 (オーストラリア)	3名以内	2月～11月	6.0点 (IELTS) 80点 (TOEFL-iBT)
リーズ大学 (イギリス)	5名以内	9月～翌年6月	6.0点 (IELTS) *事前語学研修 5.5点 (IELTS)
ダラム大学 (イギリス)	5名以内	9月～翌年6月	6.5点 (IELTS) *事前語学研修 6.0点 (IELTS)
シドニー工科大学	4名以内	3月から最大1学年度	6.0点 (IELTS) 79点 (TOEFL-iBT)
ザールラント大学 (ドイツ)	5名以内	9月または3月 から最大1学年度	ドイツ語能力証明書
ボルドー大学連合 (フランス)	5名以内	9月または1月 から最大1学年度	フランス語能力証明書
ワルシャワ大学 (ポーランド)	2名以内	10月から最大1学年度	
培材大学校 (韓国)	5名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書
東亜大学校 (韓国)	4名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書

ソウル市立大 学校 (韓国)	5名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書
同済大学 (中国)	3名以内	9月または2月から 最大1学年度	中国語能力証明書
上海師範大学 (中国)	2名以内	9月または3月から 最大1学年度	中国語能力証明書
南台科技大学 (台湾)	5名以内	9月から最大1学年度	
コンケン大学 (タイ)	3名以内	11月または6月から 最大1学年度	
スラバヤ工科大学連合 (インドネシア)	協議の基に 決定	8月から最大1学年度	
ガジャマダ大学 (インドネシア)	3名以内	8月または2月から 最大1学年度	

* 募集期間：7月～11月、選考会：12月、候補者決定：1月
(部局間交流協定大学)

大 学 名 (国名)	派遣学生	留学予定期間	必要な語学能力等
ボン大学 (ドイツ)	4名以内	4月または10月から1年以内	ドイツ語能力証明書
チューリヒ大学 (スイス)	2名以内	4月または10月から1年以内	独語検定1級程度
杭州師範大学 (中国)	5名以内	3月または9月から1年以内	中国語能力証明書
淡江大学 (台湾)	2名以内	2月または9月から1年以内	中国語能力証明書
コペンハーゲン大学 (デンマーク)	平成30年度締結		

(出典：平成30年度『学生便覧』93～94頁を基に作成)

資料 A-1-1-2-②-8：交流協定大学への留学状況

大学 (国名)	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	計
リーズ大学 (イギリス)	1	4					
ダラム大学 (イギリス)	3	1					
ボルドー大学連合 (フランス)	3	2					
ザールラント大学 (ドイツ)	1	1					
モンタナ州立大学 (アメリカ)	1	1					
同済大学 (中国)	1						
深圳大学 (中国)	1						
ニューカッスル大学 (オーストラリア)	1	1					
ハノイ貿易大学 (ベトナム)		2					
東亜大 学校 (韓国)		1					
マカオ大学 (中国)		1					
ソウル市立大 学校 (韓国)		2					
シドニー工科大学 (オーストラリア)		2					
ボン大学 (ドイツ)		2					
チューリッヒ大学 (スイス)		1					
計	12	21					

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-9：国際奨学事業の利用状況

年度	申請者数	採用人数	研修先
H28	3	3※	ドイツ、モンゴル
H29	5	3	トルコ、中国、イタリア
H30	4	4	カンボジア、モンゴル、ウガンダ・ルワンダ、中国
計	12	10	

※採用人数は3名だったが1名辞退のため結果2名採用となる。

(出典：国際交流委員会資料)

資料 A-1-1-2-②-10：他大学での取得単位互換状況

(国内)

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
先方大学名	—	—	千葉大学国際 教養学部			
授業科目名	—	—	博物館で歴史 を読み解く			
読替単位	—	—	1			

(国外)

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
ボン大学	4					
ダラム大学		2				
モンタナ州立大学		4				

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-11：研究生・科目等履修生（日本人）入学/期間延長状況

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
研究生	0	0	0				0
科目等履修生	2	1	3 (2/1)				6
計	2	1	3				6

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-12：国費・私費外国人留学生の受入状況

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	計
国費（特別聴講学生） （大使館推薦） （大学推薦）	1 (1)	4 (2) (2)					
私費 （学部学生） （研究生） （特別聴講学生） （科目等履修生）	54 (4) (0) (50) (0)	53 (3) (2) (48) (0)	4 (2) (2)				
合計	55	57	4				

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-13：国費外国人留学生の国別人数

H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インドネシア (1)	インド (1) ブラジル (1) ルーマニア (1) タイ (1)				
1	4				

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-②-14：私費外国人留学生の身分別・国別人数

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
学部学生	マレーシア (1) 中国 (2) 韓国 (1)	中国 (3)	中国 (2)			
研究生		中国 (2)	中国 (2)			
特別聴講 学生	インドネシア (3) 韓国 (11) 台湾 (6) 中国 (26) タイ (1) トルコ (1) ドイツ (2)	韓国 (8) 台湾 (5) 中国 (22) フィリピン (1) イタリア (1) インドネシア (2) タイ (2) フランス (2) ドイツ (3) スイス (2)				
科目等履 修生						
合計	54	53	4			

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-③-1：英語運用力向上を目的とする授業科目

学部共通科目	2 科目	実践英語 英語コミュニケーション
コミ情学科	7 科目	専門基礎英語 I 専門基礎英語 II 英会話 I 英会話 II 英作文 I 英作文 II 英語コミュニケーション論

(出典：平成 30 年度『学生便覧』を基に作成)

資料 A-1-1-2-③-2：外国語・英語による授業科目数

	学部								
	文	教育	法	理学	医	薬	工	教養	合計
外国語による授業科目数	51	20	1	10	13	15	7	64	181

英語による授業科目数	31	20	1	10	13	15	7	64	161
シラバスシステムにおいて、使用言語が「英語講義＋英語テキスト」、「英語講義＋日本語テキスト」及び「日本語講義＋英語テキスト」となっている授業科目数	30	19		10		8	7	67	141

(出典：国際戦略課・国際教育課資料)

資料 A-1-1-2-③-3：「異文化コミュニケーション論実習」実施状況

年度	参加人数	留学先(国)	期間
H28年度	1	オーストラリア	3週間
H29年度	9	カナダ4、イギリス1、ニュージーランド1、中国1、フィリピン1	2～5週間
H30年度			
H31年度			

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-1-1-2-③-4：教員引率による短期海外研修

年度	行先(国)	参加人数	期間(日)	備考
28年度(27名)(*院生1)	韓国	14	3	対馬での実習発掘終了後、韓国釜山市を訪問。東三洞博物館、海洋博物館、釜山市立博物館などを見学、研修を行った。
	イタリア	13(*院生1)	8	西洋の歴史や文化に関する現地での知見の深化。
29年度(11名)	スペイン	11	7	西洋の歴史や文化に関する現地での知見の深化。
30年度				
31年度				
計				

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-1-1-2-③-5：学生の国際化アップのための指導・工夫

<p>【H28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル教育カレッジ教員・学生との日常的交流促進(互いの授業への参加)(総合人間学科) ・留学希望学生(2名)に、フランス語及び2次面接の指導(ボルドー大学へ入学)(文学科) ・ドイツの大学が提供する夏季・冬季語学研修への学生の派遣、事前・事後指導の授業化(JASSO奨学金を獲得)(文学科) ・フランス国民教育省のフランス語資格試験「DELFDALF」に関する特別授業を実施(文学科) ・ドイツ語研究会(中級独会話クラス)を開催(夜間、隔週)(文学科) ・留学英語勉強会を一年間に約40回(1回4時間)実施(コミ情学科) ・学科でのTOEIC勉強会を一年間で約40回(1回3時間)実施(コミ情学科) ・宮崎県立福島高等学校で、合同でのTOEIC勉強会を1回実施した(コミ情学科)

【H29 年度】

- ・グローバル教育カレッジ教員・学生との日常的交流促進（互いの授業への参加）（総合人間学科）
- ・グローバル教育カレッジにて英語で発表・討論（総合人間学科）
- ・フランス国民教育省のフランス語資格試験「DELTA/DALF」に関する特別授業を実施（文学科）
- ・留学英語勉強会を一年間に約 40 回（1 回 4 時間）実施（コミ情学科）
- ・長崎国際大学で、合同での TOEIC 勉強会を 1 回実施（コミ情学科）

（出典：自己評価委員会・各学科収集資料）

資料 A-1-1-2-③-6：休暇や休学を利用しての学生の海外渡航状況

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	計
総合人間学科	ベトナム、韓国、セルビア（2）、チェコ（2）、ドイツ（2）、リトアニア、イギリス（2）、マレーシア、カンボジア（2）、フランス、米国、タンザニア、英国、インドネシア	台湾、タイ、韓国、フランス、米国、タンザニア、英国、インドネシア			27
歴史学科	モンゴル（2）、タイ、台湾、中国、フィリピン、アメリカ（2）	コスタリカ、韓国（2）、台湾（3）、中国、グアム、中国（2）、タイ（2）、ラオス（2）			22
文学科	イスラエル（1年間）				1
コミ情学科	フィリピン、イギリス、フランス、台湾	フィリピン、英国、香港（3：海外インターンシップ）			9
計	32	24			59

*括弧の中の数値は人数。括弧なしは 1 名。

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

資料 A-1-1-2-④-1：教養教育の授業形態別科目数

授業形態の種類	H28 年度	H29 年度	H30 年度	計
講義	371	315	318	1321
演習	784	617	493	2794
実習及び実技	2	1	5	8
実験	14	12	16	56
その他	125	81	34	372
実習	7	2	3	19
実技	1	1	1	4
講義・演習	485	429	271	1560

（出典：学生支援部・教育支援課資料）

資料 A-1-1-2-④-2：学部専門教育の授業形態別科目数

授業形態の種類	H28年度	H29年度	H30年度	計
講義	229	223	191	884
演習	357	294	212	1215
実習及び実技		2	1	3
実験	6	3	3	18
その他	79	62	34	272
実習	43	38	29	150
実技	4	1	1	6
講義・演習	61	60	59	238

(出典：学生支援部・教育支援課資料)

資料 A-1-1-2-⑤-1：学生生活実態調査結果

大学生生活の目的(複数回答)

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部		薬学部	工学部	合計
					医学科	保健学科			
専門的研究をする	12	98	27	26	57	48	47	194	509
	52.2	43.9	38.6	54.2	35.2	43.6	66.2	64.9	50.6
教養を身につける	13	99	40	29	83	52	37	126	479
	56.5	44.4	57.1	60.4	51.2	47.3	52.1	42.1	47.6
友達をつくる	3	65	28	18	57	33	17	105	326
	13.0	29.1	40.0	37.5	35.2	30.0	23.9	35.1	32.4
就職を有利にする	10	61	30	14	18	39	24	148	344
	43.5	27.4	42.9	29.2	11.1	35.5	33.8	49.5	34.2
人格形成を図る	6	68	20	12	41	19	13	64	243
	26.1	30.5	28.6	25.0	25.3	17.3	18.3	21.4	24.2
ボランティア活動の担い手となる	-	9	-	-	-	-	1	3	13
	-	4.0	-	-	-	-	1.4	1.0	1.3
学歴・資格を得る	14	157	39	26	129	90	53	134	642
	60.9	70.4	55.7	54.2	79.6	81.8	74.6	44.8	63.8
クラブ活動に力をいれる	2	35	4	6	23	10	2	19	101
	8.7	15.7	5.7	12.5	14.2	9.1	2.8	6.4	10.0
遊ぶこと	5	41	11	6	20	14	11	60	168
	21.7	18.4	15.7	12.5	12.3	12.7	15.5	20.1	16.7
わからない	1	5	3	-	1	1	-	4	15
	4.3	2.2	4.3	-	0.6	0.9	-	1.3	1.5
その他	1	6	1	-	3	1	-	5	17
	4.3	2.7	1.4	-	1.9	0.9	-	1.7	1.7
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23	223	70	48	162	110	71	299	1006
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

授業内容の理解方法(複数回答)

上段 人数
下段 (%)

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部		薬学部	工学部	合計
					医学科	保健学科			
教室で質問する	5 21.7	37 16.6	20 28.6	6 12.5	27 16.7	16 14.5	9 12.7	32 10.7	152 15.1
オフィスアワーを利用して、教員に相談したり、クラス担任、学習相談員又は学習・研究悩み事相談員に相談する	- -	10 4.5	7 10.0	1 2.1	3 1.9	4 3.6	6 8.5	16 5.4	47 4.7
上記2以外で教員に個人的に質問する	4 17.4	16 7.2	7 10.0	1 2.1	9 5.6	8 7.3	4 5.6	15 5.0	64 6.4
先輩・友人等に教わる	15 65.2	127 57.0	35 50.0	25 52.1	67 41.4	48 43.6	35 49.3	168 56.2	520 51.7
友人同士で議論する	8 34.8	117 52.5	24 34.3	24 50.0	50 30.9	57 51.8	28 39.4	130 43.5	438 43.5
参考書などで調べる	13 56.5	105 47.1	42 60.0	38 79.2	124 76.5	80 72.7	49 69.0	190 63.5	641 63.7
そのまま放っておく	1 4.3	21 9.4	2 2.9	1 2.1	17 10.5	3 2.7	5 7.0	20 6.7	70 7.0
その他	- -	1 0.4	-	-	1 0.6	-	-	2 0.7	4 0.4
無回答	- -	-	-	-	2 1.2	-	1 1.4	2 0.7	5 0.5
合計	23 100.0	223 100.0	70 100.0	48 100.0	162 100.0	110 100.0	71 100.0	299 100.0	1006 100.0

(出典：学生支援部・学生生活課学生支援チーム・(生活支援担当)資料)

資料 A-1-1-2-⑤-2：学生の自主学習状況(「授業改善のためのアンケート」結果)
(平成29年度前学期)

Q7	あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。	1 十分に 達成できた	2 少し達成 できた	3 あまり達成 できなかった	4 全く達成 できなかった	無効	平均
		635	1581	320	38	0	1.91

Q9	大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献講読、レポート作成など)をしましたか。	1 3時間 以上	2 2時間以上 3時間未満	3 1時間以上 2時間未満	4 1時間 未満	5 全くしな かった	無効	平均
		260	285	617	972	440	0	3.41

(平成29年度後学期)

Q7	あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。	1 十分に 達成できた	2 少し達成 できた	3 あまり達成 できなかった	4 全く達成 できなかった	無効	平均
		498	1042	211	23	0	1.86

Q9	大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献講読、レポート作成など)をしましたか。	1 3時間以上	2 2時間以上 3時間未満	3 1時間以上 2時間未満	4 1時間未満	5 全くしなかった	無効	平均
		240	276	510	496	252	0	3.14

(出典：FD委員会資料)

資料 A-1-1-2-⑤-3：学部履修ガイダンス

1月	各学科のコース分けガイダンス (1年次生対象)
4月	入科式・新入生ガイダンス (新入生対象)
	各コース履修ガイダンス (新2・3年次生対象)
	各履修モデル履修ガイダンス (新2・3・4年次生対象)

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-2-⑥-1：各学科学生研究室のパソコン台数 (H29年度実績)

学科 (学年定員：学生研究室配置数)	台数	計
総合人間学科 (55:4)	65	144
歴史学科 (35:5)	11	
文学科 (50:6)	26	
コミュニケーション情報学科 (30:2)	42	

*H27年度=計118台

(出典：各学科評価委員収集データ)

資料 A-1-1-2-⑥-2：図書室・雑誌室利用

	平成28年度			平成29年度			伸び率 (%)
	学生	教員	計	学生	教員	計	
貸出点数	587	62	649	748	57	805	24
図書	505	26	531	614	28	642	21
雑誌	82	36	118	134	29	163	38
図書室開館日数	191			242			

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-1-1-2-⑥-3：ボランティア学生によるノートテイク等の支援活動状況

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	計
	文	全学部	文	全学部	文	全学部		
ノートテイク	11	20	16	28	6	14		
マップ作成	—	—	—	—	3	7		
計	11	20	16	28	9	21		

*「バリアフリーマップ作成」(H30年1月より活動開始): キャンパス内のバリアフリー状況を調査し、地図を作成。危険箇所改善や、利便性向上のため、今後大学に対して施設改修要求を想定してデータ収集を行う。

(出典: 障がい学生支援室資料)

資料 A-1-1-2-⑥-4: 留学生のための指導教員・学生チューター

年度(部局間協定校のみの留学生数)	H28(16)	H29(19)	H30()	H31()	H32()	H33()	計
指導教員	4	8					
学生チューター(学部生/院生)	12(12/0)	16(10/5)					
計	19	26					

*文学部で受け入れている留学生数は毎年50名前後であるが、H28年度から、大学間協定校による留学の学生に対する同種のサポートはグローバル教育カレッジが行っている。

(出典: 人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-1-1-2-⑥-5 : WEB 上英語シラバス例

back Kumamoto University Syllabus System print English Japanese

Course Title : 英語学概論(jpn.) / Outline of English Language I (eng.)
As to the blanks, please refer to the Japanese version.

Basic Information

Course Coding	LLI2-032-32-1	Eligible Student Year	2year
Year and Semester	2018 spring	Weekday and Period	thu 4th period
Instructor(s)	KUMAMOTO Sadahiro	Credits	2credits
Elective/Compulsory		Scheduled Class	15
Faculty Offering Course	Faculty of Letters (05)	Course Registration Code	71800

Goals with their ratio

1. Broad and Deep General Education with Autonomous Learning Ability	20%
2. Excellent Academic/Professional Knowledge and Skills	70%
3. Creative Intelligence	0%
4. Willingness to Contribute to Society	0%
5. Global Perspectives Equipped with Foreign Language Competence	10%
6. Efficient Use of Information and Communications Technology	0%
7. Solid Basic Knowledge and Skills for Research and Work	0%

Detailed Information

Detailed Course Title Observe English from historical perspective

Language Used in Instruction Japanese

Textbook/Material Language Combination of Japanese and English

Type of Class Lecture

Teaching Method Lecture, using handouts and audiovisual aids

Course Goals To understand better the various aspects of present-day English by learning how it came to be the current state in vocabulary, spelling, pronunciation and syntax. It has been about 1,500 years since the language which was a mere dialect spoken along the North Sea coast of the northernmost part of Germany and the Netherlands crossed the channel to the Britain Isles. It has currently grown to be the 'international language' people all over the world use as a communication tool between them. This lecture provides an overview of the 1,500-year history of English, touching on vocabulary, spelling, pronunciation and syntax, taking into consideration its historical, social and cultural backgrounds.

Outline

Course Achievement Targets For the students, to understand the historical change of English and, through it, to understand present-day English better, and further to acquire the skill to explain its various aspects properly.

Assessment Methods and Criteria Make an assessment by the end-term written test and the mid-term paper.

Enrollment Prerequisites Nothing particular.

Details for Individual Classes

Scheduled Class	Theme of Course	Brief Outline of Course	Detailed Description of Course Required Preview Required Review
1	Introduction	Explanation about the course content.	Detail Pre Post
2	The history of Europe, Britain and England-1	Have an overview of the history of ancient-to-medieval Europe, Britain and England.	Detail Pre Post
3	The history of Europe, Britain and England-2	Have an overview of the history of modern-to-contemporary Europe, Britain and England.	Detail Pre Post
4	From Proto-Indo-European to Germanic languages	Have an overview of the history from Proto-Indo-European to Germanic languages.	Detail Pre Post
5	The outline of Old English	Give an outline of Old English (700-1100) with respect to its vocabulary, inflections and syntax, and actually read some Old English texts.	Detail Pre Post
6	The outline of Middle English-1	Give an outline of Middle English (1100-1500) with respect to its vocabulary, inflections and syntax.	Detail Pre Post
7	The outline of Middle English-2	Read actually Chaucer's texts, anonymous Middle English romances and lyrics, to understand Middle English better.	Detail Pre Post
8	The outline of Modern English-1	Give an outline of Modern English (1500-1900) with respect to its vocabulary, inflections and syntax.	Detail Pre Post
9	The outline of Modern English-2	Read actually Shakespeare's and Dickens's texts to understand Modern English better.	Detail Pre Post
10	General survey of English vocabulary, spellings and pronunciation	Make a general survey of English vocabulary, spellings and pronunciation from Old English through Middle English to Modern English, to understand better the nature of present-day English.	Detail Pre Post
11	General survey of English inflections and syntax	Make a general survey of English inflections and syntax from Old English through Middle English to Modern English, to understand better the nature of present-day English.	Detail Pre Post
12	Geographical extension and diversity of English-1	Make a general survey of British English, London English, American English and Australian English, comparing them from vocabulary, pronunciation, grammar, etc.	Detail Pre Post
13	Geographical extension and diversity of English-2	Make a general survey of pidgin English and creole and look into the frontier of extending English.	Detail Pre Post
14	Extension and diversity of English in register	Observe the extension and diversity of English in register, from scientific English to e-mail English.	Detail Pre Post
15	Summary & Written test	Summary of the lecture contents + Written test.	Detail Pre Post

Keywords History of Europe/Britain/England, history of English, Old English, Middle English, Modern English, present-day English, extension and diversity of English

Textbooks/Materials Use handouts and audiovisual aids, as needed.

Reading List Will be introduced during class.

Office Hours Anytime when I am in my office.

Contact Information E-mail: skuma@kumamoto-u.ac.jp

Message from Instructor Anyone is welcome who wishes to know the details of the history of English, and improve through it the explanation-skill of English.

(出典 : WEB 上シラバスから抜粋)

資料 A-1-1-2-⑥-6：その他留学生に対する学習支援

<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生向け授業として「Contemporary Ethical Thought」と「Advanced Ethics」を開講（総合人間学科） ・留学生の文化史課題研究ゼミへの任意参加、『課題研究報告集』への日本語小論文の投稿推進（歴史学科） ・ドイツ語研究（中級独会話クラス）を開催（学生・留学生・社会人対象）（夜間、隔週）（文学科） ・担当教員による留学中の国費留学生への学習・研究支援（コミ情学科） <p>-----</p> <p>【平成 29 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の文化史課題研究ゼミへの任意参加、『課題研究報告集』への日本語小論文の投稿推進（歴史学科） ・担当教員による留学中の国費留学生への学習・研究支援（コミ情学科）
--

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-1-1-2-⑥-7：その他教員による正規授業以外の課外教育活動

<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化史研究室所属学生のための読書案内（「文化史の扉」）を作成・配付（歴史学科） ・研究室夏合宿 ・ドイツ語研究会（中級独会話クラス）をの開催（夜間、隔週）（学生・留学生・社会人対象）（文学科） ・連歌会の開催（隔週、学部生・院生対象）（文学科） ・森鷗外訳『即興詩人』読書会（ほぼ毎週、学部学生・大学院留学生参加）（文学科） ・学生研究室でお弁当を食べる会を実施（ほぼ毎週火曜日）（文学科） <p>-----</p> <p>【平成 29 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化史研究室所属学生のための読書案内（「文化史の扉」）を作成・配付（歴史学科） ・研究室夏合宿 ・連歌会の開催（隔週、学部生・院生対象）（文学科） ・森鷗外訳『即興詩人』読書会（ほぼ毎週、学部学生・大学院留学生参加）（文学科） ・学生研究室でお弁当を食べる会を実施（ほぼ毎週火曜日）（文学科）
--

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-1-1-2-⑥-8：入学料・授業料免除実績

年 度	入学料 (円)	授業料 (円)	区分	申請者 数	全学 免除者数	一部(半額) 免除者数	免除総額合 計(円)	
H 28 年 度	282,000	535,800	入学料免除者	10	0	2	282,000	
			一般枠授業料免 除者	前期	124	48	30	16,877,700
				後期	136	48	33	17,279,550
			熊本地震特別枠 授業料免除者	前期	32※1	1	31	4,420,350
後期	23※2	2		7	1,473,450			
H 29	282,000	535,800	入学料免除者	17	0	3	423,000	
			熊本地震特別枠	6	3	2	1,128,000	

年 度			入学料免除者					
			一般枠授業料免除者	前期	123	47	27	16,207,950
				後期	121	43	38	16,609,800
			熊本地震特別枠授業料免除者	前期	16※3	10	4	3,214,800
後期	15※4	10		4	3,214,800			
			入学料免除者					
			熊本地震特別枠入学料免除者					
			一般枠授業料免除者	前期				
				後期				
熊本地震特別枠授業料免除者	前期							
	後期							
			入学料免除者					
			熊本地震特別枠入学料免除者					
			一般枠授業料免除者	前期				
				後期				
熊本地震特別枠授業料免除者	前期							
	後期							

※1 一般枠との併願者 2 名を含む（2 名ともに熊本地震枠での免除：全額 1 名、半額 1 名）

※2 一般枠との併願者 13 名を含む（熊本地震枠での免除：半額 7 名、他 6 名は一般枠での免除：全額 6 名）

※3 一般枠との併願者 9 名を含む（9 名いずれも熊本地震枠での免除：全額 5 名、半額 4 名）

※4 一般枠との併願者 9 名を含む（9 名いずれも熊本地震枠での免除：全額 5 名、半額 4 名）

（出典：人文社会科学系事務課資料）

資料 A-1-1-2-⑥-9：「日本学生支援機構」その他の奨学金制度利用状況

年 度	奨学金団体	在学採用 申請者数(人)	奨学金給 付区分	在学採 用数	予約採 用数	貸与額(円)
H 28 年 度	日本学生支援機構	25	第一種	9	28	3,4,5,5.1 万から選択
			第二種	13	22	3,5,8,10,12 万から選択
			併用	2	7	
	その他	2	—	2	0	
H 29 年 度	日本学生支援機構	21	第一種	11	43	3,4,5,5.1 万から選択
			第二種	8	19	3,5,8,10,12 万から選択
			併用	1	9	
	その他	12	—	9	0	

（出典：学生生活課経済支援係資料）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

・学部教育課程に関する種々の情報が適切に公表されている（学位授与方針、カリキュラム編成方針、卒業要件単位数、専門科目の構成・単位数、卒業要件単位表、履修モデル単位表、年度開講の授業科目一覧、履修手続要領、行事予定表、授業日カレンダー、開講科目時間割、シラバス、厳格な成績評価・単位認定方法等）。

・学生のよりよい学習効果のための様々な工夫が適切に行われている（2度の進級基準の設定、教養教育から専門課程へと継続する形の段階的履修構成；講義、演習だけでなく、実習、フィールドワーク、実技科目、インターンシップなど、アクティブラーニング要素を含むバランスの取れた授業形態；十分な数の社会対応科目等）。

・学外からの学生・社会人受講生の受入れ体制が適切に整っている（「研究生・科目履修生」「特別聴講学生」の受入れ、授業開放科目の実施等）。外国人留学生の受け入れ数は全学部中最も多く、活発である。

・国際通用性を高めるべく、適切な教育課程・支援を整えている（英語の実践力・運用力強化のための多数の授業科目、全学部中最も多い英語による授業；授業の一環としての海外研修、教員引率による短期の海外研修；学科個別の勉強会；学部独自の留学ガイダンス；学部図書室の「国際交流図書コーナー」の設置等）。その結果、交流協定大学への留学生数は平成28・29年度ともに大幅に増加傾向にある。その他、休暇や休学を利用して、専門研究、語学研修、海外インターンシップ、異文化体験など様々な目的で海外渡航している学生も多く、学生自ら国際力の向上を目指した活動を行っている。

・学生の学習支援のための適切な学習環境を整備するとともに、様々な面で学習・生活のサポートをしている（履修モデル毎に設置された学生研究室（全22室）、学生数に対応した数のパソコン設置；各履修モデル専用の書架に約7万冊の図書が配架された文学部図書室；卒論作成時期の雑誌室の利便性を高めるための受付設置（平成27年度から）；学生の自習室兼サロンとしてロビー学生室、学習・生活・進路相談のための学生相談室の設置；学部学生の利用も可能な「武夫原サロン」の開設（平成29年度）；担任制（各学科の教務委員、学生委員、1年次授業担当者）；障がいのある学生への学習支援としての「合理的配慮」の徹底、ボランティア学生によるノートテイク、バリアフリーマップ作成活動（平成29年度から）；外国人留学生のための指導教員、学生チューターの配置、英語によるシラバス情報提供、歓迎パーティの開催等）。

以上の観点から、教育内容・教育方法は多くの面において極めて適切であるという点において優れており、期待される水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

（観点到に係る状況）

学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は資料 A-2-2-1-①-1 の通り（学科・コースの方針については資料 A-1-1-2-①-1 参照）。それに沿って各コースが目指す学習成果が掲げられている（資料 A-2-2-1-①-2）。

成績評価の基準・方法は個々の授業シラバスで具体的に明示され、厳格な評価が行われている（シラバスの具体例は資料 A-1-1-2-①-8 参照）。

学位論文の審査・評価は「文学部論文試験細則」に従って行われる（『文学部規則集』71頁、『学生便覧』37頁）。基本的に履修モデル（分野）の教員全員が参加し、論文審査及び口述試験、また論文作成中の作業状況などを総合的に判断して評価される。

成績評価に関する学生の異議申立ては所定の手続きを経て行うことができることが明示・周知されている（『学生便覧』142～143頁）。ただ、「異議申立て書」を提出しているケースは H28・29年度とにもない。異議申立て期間の前に質問及び疑問の受付期間が設定されているため、その期間に直接教員に確認し解決しているものと思われる。

学生の単位取得状況（単位取得率）は平成27年度と比べ、平成28・29年度ともに上昇傾向にあり良好である（資料 A-2-2-1-①-3）。成績評価は「秀」「優」の割合が高く、学生の授業の取り組み方は非常に良好であり、それに伴い GPA のポイントも良好な数値を示している（資料 A-2-2-1-①-4・5）。

学生の進級状況は休学者が他学部と比べていくらか高い数値となっているが、それは留

学中の学生も入れた数値である。逆に退学者・除籍者・留年者は低い数値となっており、良好な状況と言える（資料 A-2-2-1-①-6・7）。卒業者の就業年数は4年次での卒業が8割を超えていて良好であるが、その残りの多くも5年目には卒業している（資料 A-2-2-1-①-8）。標準就業年内（4年）の卒業率だけを取り出すと資料 A-2-2-1-①-9 の通り。

各年度の学位授与数は資料 A-2-2-1-①-10 の通りで、審査に合格した学位論文題目（H29 年度例）は資料 A-2-2-1-①-11 の通り。

その年度の卒業生対象に、GPA スコアによってその年度の学業成績優秀被表彰者が決定される（資料 A-2-2-1-①-12）。被表彰者は学位授与式当日に学長から表彰状と記念品が授与され、また『熊大通信』により公表される。

外国人留学生への学位授与状況は資料 A-2-2-1-①-13 の通り。

学部で取得できる資格・修了証書は、「教育職員免許状」、「学芸員資格」、「社会調査士資格」、「認定心理士資格」、「日本語教育課程修了証書」（平成 29 年度入学生まで）、「グローバルリーダーコース修了証書」（平成 29 年度入学生から）があるが、さらに現在、心理学講座を中心に、「公認心理師」の資格設置を目指してカリキュラム準備中。これらの資格の取得状況は、H29 年度の「社会調査士」の取得者数が低い数値を示している点を除いて、全体において良好である（資料 A-2-2-1-②-1）。

学科で収集されているデータとしての語学資格試験取得スコア状況は資料 A-2-2-1-②-2 の通りだが、実際にはもっと多くの学生が受験しているものと思われる。この限られたデータだけでも、IELTS 6.5 が 3 名、TOEIC 700 点台 6 名、800 点台 8 名、900 点台 2 名と高水準のスコアを示している。

学生の学会発表状況及び受賞状況は資料 A-2-2-1-②-3・4 の通り。これも学科収集資料として入手できた分に限られることを断っておく。

「授業改善のためのアンケート」の結果は資料 A-2-2-1-③-1 の通りで、授業の満足度に関しては、90%以上の学生が授業は有意義だったと答え、良好な成果を示している（実施状況については資料 A-1-1-1-⑤-1 参照）。

文学部学生は、学外（地域社会）で広範にわたる様々な活動を行っている。それは学部の教育活動の延長でもあり、またその成果でもある（資料 A-2-2-1-④-1）。

（中期計画番号 13）

資料 A-2-2-1-①-1：学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び 21 世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、本学が定める学習成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した人に学士（文学）の学位を授与します。

（出典：平成 30 年度『学生便覧』4 頁）

資料 A-2-2-1-①-2：各コースが掲げる学習成果

● 総合人間学科・人間科学コース

【豊かな教養】

・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

【確かな専門性】

・人間科学（哲学・心理学）の基本的理念・概念について説明することができる。

・人間科学（哲学・心理学）における研究手法を使用することができる。

・人間科学（哲学・心理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

【創造的な知性】

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

【社会的な実践力】

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

【グローバルな視野】

- ・外国語の文献を読解することができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

●総合人間学科・社会人間学コース

【豊かな教養】

- ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

【確かな専門性】

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）における研究手法を使用することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

【創造的な知性】

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

【社会的な実践力】

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

【グローバルな視野】

- ・外国語の文献を読解することができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

●総合人間学科・地域科学コース

【豊かな教養】

- ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っています。

【確かな専門性】

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における研究手法を使用することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

【創造的な知性】

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における知見を用いて現実の課題を見出し解決法を提案することができる。

【社会的な実践力】

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

【グローバルな視野】

- ・外国語の文献を読解することができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

●歴史学科・歴史資料学コース**【豊かな教養】**

- ・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
- ・自然・生命に関する基本的な知識および関心を持っている。

【確かな専門性】

- ・歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・日本史学・考古学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・日本史学専攻者については古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・考古学専攻者については遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。
- ・日本史学・考古学に関する確かな専門性にに基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力の

ある表現を用いて学術的文章を作成することができる。

【創造的な知性】

・歴史学全般および日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

【社会的な実践力】

・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
・文化財の保護・活用および博物館活動に寄与することができる。

【グローバルな視野】

・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

【情報通信技術の活用力】

・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

【汎用的な知力】

・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。
・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。

●歴史学科・世界システム史学コース

【豊かな教養】

・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解を持っている。
・自然・生命に関することに関心と基本的な理解・知識を持っている。

【確かな専門性】

・歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。
・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）における研究手法を使用することができる。
・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）に関連した抽象度の高い学術論文を読解することができる。
・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）研究に必要な外国語文献（英語、漢籍、中国語等）を読解できる。

【創造的な知性】

・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の知識や思考方法を参照しつつ、自ら

課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。

【社会的な実践力】

- ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心を持つことができる。

【グローバルな視野】

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業（議論）によって、問題解決を図ることができる。

●文学科・東アジア言語文学コース

【豊かな教養】

- ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
- ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

【確かな専門性】

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理念・概念について説明することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

【創造的な知性】

- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

【社会的な実践力】

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

【グローバルな視野】

- ・外国語の文献を読解することができる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットやeメールを含むITを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。

- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- 文学科・欧米言語文学コース
 - 【豊かな教養】・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
 - ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。
 - 【確かな専門性】
 - ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の基本的理論・概念について説明することができる。
 - ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）における研究手法を使用することができる。
 - ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。
 - 【創造的な知性】
 - ・欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）を応用して、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
 - 【社会的な実践力】
 - ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
 - 【グローバルな視野】
 - ・外国語の文献を読解することができる。
 - 【情報通信技術の活用力】
 - ・インターネットやeメールを含むITを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。
 - 【汎用的な知力】
 - ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
 - ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- 文学科・超域言語文学コース
 - 【豊かな教養】
 - ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
 - ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。
 - 【確かな専門性】
 - ・人間のコミュニケーション能力に関する基本的理解と広い視野を持っている。
 - ・比較文学・言語学・外国語教育学の基本的理論・概念について説明することができる。
 - ・比較文学・言語学・外国語教育学における研究手法を使用することができる。
 - ・文学・言語学・外国語教育学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。
 - 【創造的な知性】
 - ・比較文学・言語学・外国語教育学における現実の課題を見出し解決法を提案することができる。
 - 【社会的な実践力】
 - ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
 - ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

【グローバルな視野】

- ・複数の外国語による文献を読解することができる。
- ・外国語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

【情報通信技術の活用力】

- ・インターネットや e メールを含む IT を使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。

【汎用的な知力】

- ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

●コミュニケーション情報学科・コミュニケーション情報学コース

【豊かな教養】

- ・人や社会、自然や生命に対する幅広くかつ深い関心を持っている。

【確かな専門性】

- ・コミュニケーション情報学の基本的な理論及び概念を説明できる。
- ・コミュニケーション情報学における研究手法を使用することができる。
- ・コミュニケーション情報学の最新動向について自律的に学ぶことができる。
- ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。
- ・文献や記事を読んで内容を理解し、論点を論理的かつ簡潔に要約できる。
- ・調査の企画、調査対象者との交渉、実行、報告書作成など一連の作業ができる。
- ・相手に分かり易く、平易な論理で、相手の関心に沿った話し方で情報や意見を伝えることができる。

【創造的な知性】

- ・複眼的・多面的な視点で柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討できる。
- ・社会で生じる諸問題に関する理解と関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。

【社会的な実践力】

- ・自主的に社会や組織に積極的に参加し、自分の位置を見つけ、貢献できる。
- ・共通の課題に対してグループで取り組み、互いの意見を尊重しながら、問題を解決できる。
- ・明晰な論理と説得力のある表現を用いて、ビジネス現場で通用する文章を作成できる。

【グローバルな視野】

- ・日本文化に対する理解を深めるとともに、異文化理解や異文化交流、国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・国際社会で生じる諸問題に関する基本的な理解と関心を持っている。
- ・英語の文献やニュース、記事を読解し、情報の収集・分析に足る基本的な英語運用能力がある。

・英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。

【情報通信技術の活用力】

・ビジネス現場で要求されるレベルで、情報通信機器及びソフトを使いこなすことができる。
・最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。

・最新の情報メディア技術を活用し、文字に加え音声・映像による情報の作成、発信ができる。

【汎用的な知力】

・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。

・向上心を常にもち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。

(出典：平成30年度『学生便覧』4～12頁)

資料 A-2-2-1-①-3：単位取得状況（単位修得率の推移）

学部等名	単位取得率					
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
文学部	87.4%	88.5%	95.3%			
教育学部	91.7%	93.2%	98.8%			
法学部	78.8%	80.6%	88.7%			
理学部	81.9%	83.7%	99.2%			
医学部	98.3%	97.1%	86.9%			
薬学部	93.8%	95.7%	99.3%			
工学部	81.4%	82.6%	97.3%			

(出典：『2018 熊本大学データ集』51頁)

資料 A-2-2-1-①-4：成績評価の状況（分布）

年度	秀	優	良	可	合格	不可	X
H27年度	1594(18.0%)	4122(46.6%)	2028(22.9%)	792(9.0%)	253	303(3.4%)	920
H28年度	1528(17.1%)	4281(47.8%)	2063(23.0%)	753(8.4%)	262	327(3.7%)	773
H29年度	1339(16.2%)	3901(47.3%)	2033(24.6%)	751(9.1%)	78	231(2.8%)	801
H30年度							
平均(%)	17.1%	47.2%	23.5%	8.8%		3.3%	

*「%」は「秀」「優」「良」「可」「不可」の総数を母数として計算している。

*「合」は「英語コミュニケーション」と「文学部入門」（H28年度まで）の評定。

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-5：GPA の推移

年度	GPA
H27年度	2.557
H28年度	2.565
H29年度	2.604
H30年度	
平均	2.574

*条件は、文学部の学部学生が受講した全ての科目、教養、他学部聴講、教職関連科目も含む。

*成績対象評語は「秀」「優」「良」「可」「不可」で「H」「S」「X」「Null」「認定」「合格」「不合格」は対象外。

*成績換算は「秀」4P、「優」3P、「良」2P、「可」1P、「不可」0Pで計算。

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-6：進級状況（休学者・退学者・除籍者・留年者）

<休学者>

学部・研究科等名	課程区分	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
文学部		↓ 14	↓ 15	↑ 24	↑ 22	↔ 20	↓ 15
教育学部		↓ 8	↔ 16	↑ 19	↔ 16	↔ 12	↔ 16
法学部		↑ 29	↑ 27	↔ 24	↓ 18	↔ 22	↓ 19
理学部		↑ 5	↔ 3	↔ 4	↑ 5	↑ 5	↓ 1
医学部医学科		↔ 13	↔ 11	↓ 8	↓ 9	↓ 8	↑ 22
医学部保健学科		↑ 14	↑ 15	↑ 15	↓ 6	↔ 8	↓ 7
薬学部		↓ 4	↔ 6	↔ 8	↑ 14	↑ 12	↔ 9
工学部		↔ 35	↔ 41	↓ 33	↑ 47	↓ 31	↔ 35
合計		↔ 122	↑ 134	↑ 135	↑ 137	↓ 118	↔ 124

※各年5月1日現在

(出典：『2018 熊本大学データ集』33頁)

<退学者・除籍者>

学部・研究科等名	課程区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
文学部		↔ 7	↔ 5	↓ 3	↑ 9	↔ 7	↑ 8
教育学部		↔ 12	↔ 10	↑ 14	↓ 9	↔ 11	↔ 12
法学部		↔ 9	↔ 14	↑ 17	↑ 16	↔ 12	↓ 6
理学部		↓ 15	↔ 21	↑ 30	↔ 18	↓ 15	↔ 19
医学部医学科		↔ 1	↑ 2	↓ 0	↑ 2	↔ 1	↔ 1
医学部保健学科		↑ 15	↓ 5	↓ 6	↔ 11	↔ 7	↔ 7
薬学部		↑ 7	↔ 5	↔ 6	↔ 6	↓ 4	↑ 7
工学部		↓ 46	↓ 44	↓ 43	↔ 56	↔ 50	↑ 61
合計		↔ 112	↓ 106	↔ 119	↑ 127	↓ 107	↔ 121

※年度実績

(出典：『2018 熊本大学データ集』34頁)

<留年者>

学部・研究科等名	課程区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
文学部		↔ 41	↔ 40	↓ 35	↓ 35	↑ 46	↑ 44
教育学部		↑ 51	↔ 32	↓ 27	↑ 47	↔ 38	↓ 30
法学部		↔ 67	↑ 77	↔ 70	↑ 71	↔ 55	↓ 45
理学部		↔ 47	↔ 55	↑ 64	↓ 25	↔ 53	↔ 51
医学部医学科		↔ 34	↑ 43	↓ 29	↔ 32	↓ 29	↔ 34
医学部保健学科		↑ 37	↔ 24	↓ 15	↔ 21	↔ 21	↓ 13
薬学部		↔ 15	↓ 10	↔ 19	↑ 27	↑ 30	↔ 20
工学部		↔ 163	↓ 149	↔ 164	↑ 180	↓ 152	↔ 159
合計		↑ 455	↔ 430	↓ 423	↔ 438	↓ 424	↑ 396

※年度実績

(出典：『2018 熊本大学データ集』35頁)

資料 A-2-2-1-①-7：学年進級状況（休学者・退学者・除籍者・留年者）

年度	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	計 ¹	計 ²
H28年度	休学者数	1	0	4	17	22	75
	退学者数	0	1	2	1	4	
	除籍者数	1	0	1	1	3	

	留年者数	10	0	6	30	46	
H29年度	休学者数	2	0	4	14	20	72
	退学者数	1	2	2	3	8	
	除籍者数	0	0	0	0	0	
	留年者数	9	0	8	27	44	
H30年度	休学者数	2	0	4	9	15	
	退学者数						
	除籍者数						
	留年者数						
H31年度	休学者数						
	退学者数						
	除籍者数						
	留年者数						

※休学者数については各年5月1日現在

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-8：卒業者の就業年数別人数

就業年数	H27年度	H28年度	H29年度
4年	145(86.3%)	143(80.3%)	144(82.3%)
5年	14(8.3%)	27(15.2%)	21(12.0%)
6年	5(3.0%)	5(2.8%)	6(3.4%)
7年	1(0.6%)	3(1.7%)	2(1.1%)
8年	3(1.8%)	0(0.0%)	2(1.1%)
計	168	178	175

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 A-2-2-1-①-9：標準就業年限内の卒業率

年度	標準就業年限内の卒業率
H25年度	84.70
H26年度	80.42
H27年度	86.30
H28年度	80.33
H29年度	82.28

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-10：学位授与数

年度	学位名称	授与数	計
28年度	学士(文学)	178	
29年度	学士(文学)	175	
30年度	学士(文学)		
31年度	学士(文学)		

(出典：『熊本大学データ集』)

資料 A-2-2-1-①-11：審査に合格した学位論文（平成 29 年度例）

●総合人間学科【人間科学コース】1970年代のロックミュージックと社会の動態/自己運動時の視覚情報処理に関する実験的研究/日本語促音認知の日韓比較/自己と他者との身体近傍空間の共有表現に関する実験的研究/C.D.フリードリヒ研究/ゲームが描こうとする美しさとは何か/視触覚の連合学習に関する実験的研究/東洋人における顔情報の無意識の処理に関する実験的研究/視聴覚ベクションに関する実験的研究/ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ「椿姫」におけるヒロイン像の考察/無意識の体動同期現象に二者間の人間関係が与える影響についての実験的研究/日本における吹奏楽活動の歴史と特徴/身体所有感に関する実験的研究/恐れ表情観察時におけるVRT(Visual Remapping of Touch)効果に関する実験的研究/美人画からみる日本における美人像/日本における「アイドル楽曲」の特質に関する研究/顔の印象操作が再認課題に与える影響—感情の2つの次元と他人種効果の観点より—//【社会人間学コース】「スクールカースト」と社会のハイパー・メリトクラシー化/「台湾人」とは何か—台湾人意識の歴史と現在—/売春業従事者が抱えている諸問題の研究及び売春合法化の論争考察/美容実践はどこまで許されるのか/何が人々を名誉殺人へと駆り立てるのか/思春期の子どもに対する母親の役割について/熊本地震と贈与/日本人本来の信仰心はあるか/女性の社会進出と家事労働/憑依から見る変身の構造とその魅力/健康食品に関する社会学的考察/アイドルとは何の偶像なのか/「心のノート」の社会学的考察/和食のグローバル化と伝統の創造/アーシュラ・K・ル=グウィンと人類学的想像力—ゲド戦記に見るネイティヴ・アメリカンの生き方—/なぜ普通の人々が戦争において人を殺せるのか/わが国の子どもの自己評価に関する考察/日本における安楽死の問題点/カフェとテラスの社会学—日本における第三空間の研究—/キャラとスクールカースト/演技性パーソナリティ障害について/料理とは何か—レヴィ=ストロースの『神話論理□生のもものと火を通したもの』から考える—/「四国八十八箇所霊場と遍路道」における徒歩巡礼は宗教的なのか—世界遺産登録に向けて—/道徳と規範性—要求されるわたしたち—/母子家庭の養育費確保に関する社会学的研究/動機とミステリ小説/家庭教育の変容に関する社会学的考察//【地域科学コース】「常」の平面 中期柳田読解/「女子力」からみる男女観/方言のキャラクター性/性的少数派の人々/髪型が与える人格—現代の束髪とそのキャラクター性—/地域文化の変容についての考察 —杵築市大田「おせったい」を例に—/熊本銭湯がつなぐ物語—危機の中での銭湯—/金海山釈迦院と「日本一の石段」における地域行事/観光化する神社と庶民信仰/七五三と七草祝—鹿兒島の通過儀礼—/猫と生きる人々—人と猫の心地よい関係性—/子どもの居場所に関する地域社会学的研究/高齢者からみた老いと死—吉富町の高齢者聞き取り調査から—/女性オタクの台頭と変容/白川水害から見る白川と人々の関わり/訪日韓国人ワーキングホリデー参加者の地域選択傾向

●歴史学科【歴史資料学コース】沓崎島の小規模城館/幕末期熊本藩の惣庄屋について/対馬における縄文時代の石器について/豊臣秀吉の朝鮮出兵における補給と略奪/服装からみる近世百姓—揆の性格/南島爪形文土器の研究/戦国期における大名領国制と村落/九州におけるナイフ形石器文化終末期に関する—考察—熊本県瀬田池ノ原遺跡を中心に—/民権私塾と明治10年代の思想/宝暦期における熊本藩「刑法草書」の成立/日本災害史における明治熊本震災の歴史的意義/熊本県における弥生時代甕棺墓の研究—嘉島町上官塚遺跡を中心に—/筑後国府の考古学的一考察/長州藩における近世後期の人口変動とその社会要因/熊本藩における恩赦と除墨制度の関係性/「明治・大正期の熊本における障がい者教育」/九州における中世銭貨の考古学的研究/絵画資料からみる外国人の日本認識/島原天草—揆にみるキリシタンイメージ//【世界システム史学コース】イギリス産業革命期における児童労働者の健康状態/「ポピュラー音楽へのまなざし—ロック音楽を中心として—」/「21世紀の日本における韓流コンテンツの展開」/ベースボールにみるアメリカのグローバリゼーション—20世紀前半における日本への野球普及を中心—/絶対王政期・フランス革命期における化粧品文化の誕生と展開/アメリカン・ヒーロー・コミックスに見るヒロイズム/原爆開発と科学者/聖人王ルイ9世の構築とその利用/木村伊兵衛研究/19世紀ロンドンのオペラとエリート文化/日本における魚観賞文化の研究/スポーツとイタリア系アメリカ人のアイデンティティ形成—20世紀前半の移民第1、第2世代を中心に—/キリスト教徒の中のムスリム—中世イタリア都市ルチェーラにおける両者の関わり—/「LGBTブーム」の幻想/「宮崎駿研究—原作『風の谷のナウシカ』を中心に—」/近世ヨーロッパにおける酒場の社会的機能と酒場文化—ベルン並びにバイエルンを中心として—/革命期を生き延びた王妃の権威と役割—アンリエッタ・マリアとマリー・アントワネットの比較—/満州移民の渡満動機に関する研究/アメリカ独立革命期におけるフリーメイソン/残存する魔女信仰—啓蒙運動期のスコットランド社会と民間信仰—/学生刊行物から見る「小さな世界」のアイデンティティ—1850-1920年におけるオックスブリッジの学生文化—/アニマルコンパニオンと18世紀イングランド社会における価値観の変化

●**文学科【東アジア言語文学コース】**『住吉物語』について/『枕草子』における不快感を表す形容詞/現代日本語における「マジ」と「ガチ」の比較/九州三都市における方言景観の分析—熊本における事例を中心に—/イーユン・リー研究—『独りでいるより優しくて』を中心にして—/漫画版『風の谷のナウシカ』における母性についての考察/百人一首の研究/紫の上研究/現代テレビドラマのタイトル構造分析/『とはずがたり』論/若者言葉「アツイ」について/平家物語における女人往生/天理教における「まこと」について/夏目漱石『坑夫』研究/漫画における女ことばの実態/形容詞「ふがいない」「なさない」の意味分析//**【欧米言語文学コース】**Emily Brontë's Writing Style in *Wuthering Heights*/ Harmonization of the Counterpart in Sylvia's Lovers/ I・パッハマンの『三十歳』について/ Intercultural Perspectives as Seen in Ursula K le Guin's "Earthsea Trilogy"/ ドイツ文学における幽霊描写の比較分析/ Hitting "the holy road": The Geographic Imagination of Friendship in Jack Kerouac's *On the Road*/ The Idea and Forms of Love in "*A Farewell to Arms*"/ Theodor Storm の作品に見る北ドイツへの郷愁/ ドイツのことわざについて/ 現代フランス語の音声研究/ 日本人学生に対する発音改善の試み/ V.E.フランクルのロゴセラピーと「生きる意味」について考察/ ミヒャエル・エンデの『モモ』に於ける「時間」について/ ドイツ語における話法の表現形式について/ O.Wilde's World View as Seen in His Works/ "Somewhere he owned a room": Joel's Self-recognition through Space and Objects in *Other Voices, Other Rooms*/ L.v.ベートーヴェン「歓喜の歌」をめぐる/ A Study of Evaluative Words in J. Austen's *Pride and Prejudice*/ ナチズムへの抵抗/ John Irving's "*The World According to Garp*": A Feminist Perspective Similarities between Conrad and Marlow in *HEART OF DARKNESS*/ Goethe『Faust』について/ "no more pages in the red notebook": Self and Other, and Language in Paul Auster's *New York Trilogy*/ Hester's Ambiguous Expression of Love and Faith in *The Scarlet Letter*/ ローレライ伝説 Lorelei Sage/ ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』研究/ 日独の人名の比較研究/ モリエールの劇作品における病/ International Haiku in English: The Nature and Image of the "Sea" and "Sky"/ ヴォルテール『カンディード』研究//**【超域言語文学コース】**鹿児島方言における若者言葉/ 日本語の談話における条件形式の語用論的機能について/ ヨーゼフ・ロート作品における聖書のモチーフ/ 日本の「鬼」と西洋の「怪物」の表象比較/ 角田光代作品研究/ チェーホフ『ねむい』に関する比較文学的考察/ シェイクスピア作品における宮廷風恋愛の表象/ アメリカにおけるジブリ作品の評価～ディズニー作品との比較を通して～/ マスメディアの皇室報道における敬語使用の分析/ 『ニーベルンゲンの歌』におけるクリームヒルト像—ジークフリート伝承との比較から—/ 宮沢賢治と音楽/ オスカー・ワイルド作品における色彩についての考察/ A・A・ミルンのプー物語研究/ 可能表現とモダリティーについての日中対照分析

●**コミュニケーション情報学科【コミュニケーション情報学コース】**遠距離友人との関係維持におけるケータイ・コミュニケーションがもたらす効果/ LINE コミュニケーションに対する一考察/ 星野道夫の生き方～20年後の私たちへ～/ 差別感情と向き合う/ 動物が見つめる先に/ 英雄の旅とヴォルデモートの死/ *Strange Love Or: How We Learned to Stop Worrying and Use the Kids*/ Globalisation and Intercultural Education/ *The Eastern Gods Wake Up and Split: Rhetorical Analysis on Mythology of Masses' Divinities*/ 「日本のセクシャル・ハラスメントを減少させるために」～日本とアメリカのセクハラについての認識・事例の差異を通して学べること。～/ 選択の醜学/ 日南市油津商店街にみる官民連携のまちおこしイノベーション/ つながりがもたらす幸福/ 人間の「露わさ」や「逸れ」について/ 紛争解決学的手法による北朝鮮問題の分析/ 一般紙とスポーツ紙におけるプロ野球報道の比較研究/ 現代日本社会のなかでよく生きるということ/ 早期離職問題に対する学生団体の就職支援活動/ 新聞記事にみる被災中心市街地コミュニティ再生の物語分析/ *A Study of Inbound Tourism in Japan -Focusing on Repeat Visitors and Experiential Services in Regions of Japan-*/ 本格焼酎メーカーにおけるチャンネル戦略とプロモーション戦略の比較研究/ 隠岐島前高校における協働とコンフリクトを通じた地元の高校生の成長/ 学生寮における寮生の「居場所」喪失に関する研究/ 熊本地震にみる全国紙と地方紙のディスコースの差異に関する研究/ 訪日外国人観光客誘致における「らしさ」の創出—観光パンフレットの言説分析を通して—/ 当事者としての語りから考える障害者エンパワメントのあり方—NHK番組「バリバラ」を例として—/ 着地型観光生成における「学びのプラットフォーム」についての研究～熊本県山鹿地域を対象に～/ 感情と知性: ニジンスキー『春の祭典』を中心に/ 大学生の英単語の学び方—学習者の英語語彙サイズとの関係を中心に—/ 「不思議の国のアリスにみるキャラクターの狂気」/ 熊本地震における新聞報道の分析—ストーリーテリングがもたらす効果と課題—/ ゲーム批判を取り巻く議論に潜む真の闇—ゲーム性に支配される現実社会の本質的問題に迫る—/ 既婚女性の墓の選択の希望と

現実/ ももいろクローバーZにみるアイドルファンの虚構消費とファン心理/ ゆるしについて/ 新聞言説から見る日本における貧困問題への軽視と再認知、その変容

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-12：GPA による学業成績優秀被表彰者

年度	被表彰者数	学科 (コース)	GPA スコア
H27 年度	1	文学科 (超域言語文学コース)	3.421
H28 年度	1	文学科 (東アジア言語文学コース)	3.532
H29 年度	1	文学科 (欧米言語文学コース)	3.634

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-①-13：外国人留学生の学位授与数

年度	学科	学位授与数	計
H28 年度	総合人間学科	2	4
	歴史学科	0	
	文学科	1	
	コミュニケーション情報学科	1	
H29 年度	総合人間学科	1	2
	歴史学科	0	
	文学科	1	
	コミュニケーション情報学科	0	

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-②-1：資格・修了証書取得状況

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	計
教育職員免許状 (中学校)	9	12	7	28
〃 (高校)	27	23	23	73
学芸員資格	17	27	21	65
社会調査士資格	14	15	4	33
認定心理士資格	—	—	—	—
日本語教育課程修了証書 (H25 年度入学生～H29 年度入学生まで)	—	18	8	26
グローバルリーダーコース修了証書 (H29 年度入学生から)	—	—	—	—
計	67	95	63	225

* 認定心理士資格の認定申請は卒業した後、資格取得希望者が個人的に申し込むためデータなし。

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 A-2-2-1-②-2：語学資格試験受験状況 (学科で収集された分に限る)

	H28 (人数)	H29 (人数)	計
IELTS	6.0 (3) 6.5 (3)	5.5 (2)、6.0 (6) 6.5 (1)	14 名
TOEIC	600 点台 (1) 700 点台 (6) 800 点台 (8) 900 点以上 (2)		17 名

DELFL	A2 (1)		1名
DALFL		C1 (1)	1名
Goethe Zertifikat	B2 (1) C1 (1)		2名
独語検定試験	3級 (1) 4級 (2)		3名
中国語検定試験		準2級 (1)	1名
計	30名	9名	39名

IELTS=International English Language Testing System/ DELFL=デルフ・フランス語学力資格試験/
DALFL=デルフ・フランス語学力資格試験 (出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-2-2-1-②-3：学生の学会発表状況

<p>【H28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地理学会冬季研究発表大会 (1名) (総合人間学科) <p>【H29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地理学会冬季研究発表大会 (4名) (総合人間学科)

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-2-2-1-②-4：学生の受賞状況

<p>【H28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第1回ドイツ語スピーチコンテスト九州」にて総合優勝 (文学科) <p>【H29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第1回九州地域ブランド総選挙」(九州経済産業局・特許庁主催)にて「ベストブランドストーリー賞」を受賞 (コミュニケーション情報学科)
--

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 A-2-2-1-③-1：授業改善アンケート結果 (授業の有意義度)

		非常に有意義	有意義	あまり有意義でなかった	全く有意義でなかった
H29年度	前学期	1,044 (40.6%)	1,327 (51.5%)	169 (6.6%)	34 (1.3%)
	後学期	762 (43.0%)	865 (48.8%)	118 (6.6%)	29 (1.6%)
平均 ¹		41.8%	50.2%	6.6%	1.5%
計平均 ²		91.8%		8.1%	

(出典：FD委員会資料)

資料 A-2-2-1-④-1：学部学生による学外 (地域社会) での様々な活動

<p>【平成28年度】</p> <p>《総合人間学科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KAFS (熊本人類学映画会でのドキュメンタリー映画) 上映、写真撮影会、展示会、一人芝居「天の魚」上演準備など ・高齢者を対象とした「レトロコンサート」の企画運営 (くまもと県民交流館パレアホール) ・熊本地震ボランティア ・自主的なフィールドワーク ・ゼミ合宿

《歴史学科》

- ・古文書整理の勉強会（目録作成方法の学習）
- ・九州大学日本史学研究室との合同ゼミ
- ・研究室夏合宿での学生による共同研究発表
- ・九州西洋史学会若手部会への参加及びその運営（九州・関西の大学間合同勉強会、年2回）
- ・震災ボランティア
 - －佐賀県、福岡県、大分県での募金活動ボランティア
 - －福岡県、大分県での救援物資の仕分け作業
 - －熊本大学内避難所でのボランティア
- ・大分県日田市介護施設でのヨサコイボランティア活動（所属サークル活動の一環）
- ・江津湖清掃活動（所属サークル活動の一環）

《文学科》

データなし。

《コミュニケーション情報学科》

- ・「Kumarism」（熊本地震後に熊本の魅力等を発信し、熊本の活性化を行う団体）の代表として当学科学生が活動。日本語と英語で SNS 情報発信するとともに、県内の高校に出向いて移動大学の活動（「熊大移動大学みらいずむ」）を行う（本学 HP「熊本大学 COC 地（知）の拠点整備事業（HugKum）」で紹介）。COC・COC+にも貢献。学生支援部の「きらめきユースプロジェクト」に選出。日経グローバル 343 号（H30 年 7 月 2 日発行）で紹介。
- ・地元百貨店のブランディング活動、イベント制作への参加（名作童話をベースとした未就学児向けの英語体験イベント制作、情報発信用 Web サイトの運営）
- ・TOEIC 勉強会のメンバーが、大分県臼杵高校で出前授業実施（オリジナルテキストを作成し、生徒の英語能力を向上させる指導に活用）
- ・TOEIC 勉強会のメンバーが、「きらめきユースプロジェクト」による財政支援を受け、オリジナルグッズを企画・制作。グッズの配布を通して熊大の活動を広報するという広告コミュニケーションの教育的実践ともなった。
- ・熊本地震ボランティア
 - －地震被害の大きかった益城地区の小学生を対象にしたタウン誌制作ワークショップを、印刷会社、IT 企業と共同し、設計・実施

【平成 29 年度】

《総合人間学科》

- ・KAFS（熊本人類学映画会でのドキュメンタリー映画）上映、写真撮影会、展示会、一人芝居「天の魚」上演準備など
- ・高齢者を対象とした「レトロコンサート」の企画運営（くまもと県民交流館パレアホール）
- ・自主的なフィールドワーク
- ・ゼミ合宿
- ・演劇活動（「座・高円寺」の公演『ひとつの机とふたつの椅子と越境者たち』に出演（東京）

《歴史学科》

- ・古文書整理の勉強会（目録作成方法の学習）
- ・九州大学日本史学研究室との合同ゼミ
- ・研究室夏合宿での学生共同研究発表
- ・九州西洋史学会若手部会への参加及びその運営（九州・関西の大学間合同勉強会、年2回）
- ・九州西洋史学会若手部会への参加（年2回）
- ・グローバル・カレッジ主催の留学生との交流会や支援活動への参加（2回）
- ・震災ボランティア
 - －江津湖清掃活動（シグマ祭実行委員会の活動の一環）（毎月2回）

・国際的なボランティア活動
 ーラオスとバングラディッシュの子ども達の支援団体「Study For Two」に参加し、活動（2回）

ーラオス現地での支援活動（農村視察、交流、支援活動）

《文学科》

データなし。

《コミュニケーション情報学科》

・「Kumarism」（熊本地震後に熊本の魅力等を発信し、熊本の活性化を行う団体）の代表として当学科学生が活動。日本語と英語で SNS 情報発信するとともに、県内の高校に出向いて移動大学の活動（「熊大移動大学みらいずむ」）を行う（本学 HP「熊本大学 COC 地（知）の拠点整備事業（HugKum）」で紹介）。COC・COC+にも貢献。学生支援部の「きらめきユースプロジェクト」に選出。日経グローバル 343 号（H30 年 7 月 2 日発行）で紹介。

・地元百貨店のブランディング活動、イベント制作への参加（名作童話をベースとした未就学児向けの英語体験イベント制作、情報発信用 Web サイトの運営）

・「第 1 回九州地域ブランド総選挙」（九州経済産業局・特許庁主催）に出場。「小国杉チーム」として「ベストブランドストーリー賞」を受賞

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

・学生の学習成果指針、成績評価の厳格さ・公正さが適切に明示・公表されている（各学科・コースが目指す学習成果；成績評価の基準・方法；学位論文の審査・評価；成績評価に関する学生の異議申立ての手続き等）。

・学生の進級・単位取得・資格取得状況が良好である（退学者・除籍者・留年者が他学部より低い数値を示している；単位取得率が H28・29 年度ともに上昇傾向にある；「秀」「優」の割合が高い；卒業者の就業年数は 4 年次での卒業が 8 割を超え、残りの 2 割もほとんどが 5 年目には卒業している；「教育職員免許状」「学芸員資格」「社会調査士資格」「日本語教育課程修了証書」の取得状況は良好）。

・学部で取得できる資格の増加を目指してカリキュラムを整備している（現在の「教育職員免許状」「学芸員資格」「社会調査士資格」「認定心理士資格」に加え、現在「公認心理師」資格のためのカリキュラム編成準備中）。

・学生の学業の良好な成果が見られる（語学資格試験に関して、学科収集分データに限っても、IELTS 6.5 が 3 名、TOEIC 700 点台 6 名、800 点台 8 名、900 点台 2 名と高スコアを獲得；また学生の学会発表が 5 件/5 名、受賞が 2 件/1 名・1 学科グループと活躍している；その他、地域社会で広範にわたる様々な活動を行っている；「授業改善のためのアンケート」の結果、約 9 割の学生が授業を「有意義」と答えている）。

以上の観点から、学業の成果は多くの点において良好であり、期待される水準にあると判断する。

観点 進路・就職の状況

（観点到に係る状況）

学生の卒業後の進路（進学、就職他）の H29 年度実績は資料 A-2-2-2-①-1 の通りで、進学率、就職率の推移は資料 A-2-2-2-①-2～3 の通り。就職率は他学部と大きな差異はないが、進学率がいくらか減少傾向にある。これまで学部と大学院社会科学部が別組織となっていたのを、H29～31 年度に、教員組織としての「大学院人文社会科学部」、教

育部としての文学部、大学院社会文化科学教育部に改組し、三者を統合することで進学率の改善を図る。就職先の産業別分布、就職先地域分布は資料 A-2-2-2-①-4・5 の通り。

正規学部留学生の卒業後の進路状況（就職、進学等）は資料 A-2-2-2-①-6 の通り。

卒業生の社会での活動・活躍などについての情報としては資料 A-2-2-2-①-7 のような情報が入手されているが、その網羅的な収集は不可能であるため、学科から提出された一部の情報であることを断っておく。

H26 年 2 月に、文学部将来構想委員会が H20～24 年度卒業生を対象に「文学部への満足度に関する卒業生調査」を行った。その結果、約 9 割の卒業生が文学部での学業に満足していること、その他全項目で学生の高い満足度が示された（資料 A-2-2-2-②-1）。

学部のサポーター企業対象のアンケート（H23 年）、また全学対象のステーク・ホルダー別アンケート調査の結果、文学部学生に求めるものが「幅広い教養と視野」「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」、また「創造性」「自責・自発型」「行動力」「社会的問題の発見」等であることが示された（資料 A-2-2-2-②-2・3）。（この結果及び他の状況を踏まえた社会対応科目増設については資料 A-1-1-2-②-1 参照）。

資料 A-2-2-2-①-1：卒業後の進路（平成 29 年度実績）

学部名	卒業生 数 (人) (A)	進学		就職			その他(人)(D)				
		進学者 数(人) (B)	進学率 (%)	就職希 望者数 (人)	就職者 数(人) (C)	就職率 (%)	専修学 校・外 国の学 校等	進学 準備	就職 準備	不 詳・ 死亡	その 他(研 修医)
文学部	175	7	4.0	153	145	94.8	1	2	14	2	4
総合人間学科	54	2	3.7	48	43	89.6		2	7		
歴史学科	37	4	10.8	30	28	93.3			3	1	1
文学科	50	1	2.0	41	40	97.6	1		4	1	3
コミュニケーション 情報学科	34		0.0	34	34	100.0					
教育学部	296	29	9.8	244	235	96.3	3	2	12	2	13
小学校教員養成課 程	106	13	12.3	87	84	96.6	1		4		4
中学校教員養成課 程	75	12	16.0	55	54	98.2		1	1	2	5
特別支援学校教員養 成課程	19	3	15.8	14	14	100.0		1			1
養護教諭養成課程	31		0.0	30	27	90.0			3		1
地域共生社会課程	26		0.0	23	21	91.3			3		2
生涯スポーツ福祉 課程	39	1	2.6	35	35	100.0	2		1		
法学部（法学科）	197	6	3.0	171	168	98.2	2	1	18	0	2
理学部（理学科）	178	95	53.4	73	68	93.2	1	1	8	0	5
医学部	243	17	7.0	115	112	97.4	0	3	7	3	101
医学科	105		0.0			0.0			4		101
保健学科	138	17	12.3	115	112	97.4		3	3	3	
薬学部	93	37	39.8	45	43	95.6	0	0	3	2	8

薬学科	57	4	7.0	44	42	95.5			2	2	7
創薬・生命薬学科	36	33	91.7	1	1	100.0			1		1
工学部	578	357	61.8	210	204	97.1	0	1	11	0	5
物質生命化学科	88	64	72.7	23	22	95.7			2		
マテリアル工学科	51	35	68.6	13	11	84.6		1	4		
機械システム工学 科	110	70	63.6	37	37	100.0					3
社会環境工学科	81	35	43.2	45	45	100.0					1
建築学科	67	32	47.8	34	33	97.1			1		1
情報電気電子工学 科	169	114	67.5	53	52	98.1			3		
数理工学科	12	7	58.3	5	4	80.0			1		
計	1,760	548	31.1	1,011	975	96.4	7	10	73	9	138

※平成 29 年度実績 / ※卒業生数 (A) = 進学者数 (B) + 就職者数 (C) + その他 (D) / ※その他は、一時的な仕事に就いた者 (雇用期間 1 年未満又は短時間勤務)、家事手伝い及び就職の意思のない者等。 / ※医学部医学科の「その他」には、臨床研修医 100 名を含む。 / ※就職希望者 = 就職者 + 教員採用試験準備者 + 就職活動継続者 (公務員試験準備者、国家試験準備者は除く) / ※就職率 = 就職者 ÷ 就職希望者 / ※進学率 = 進学者 ÷ 卒業生 (出典：『2018 熊本大学データ集』 68 頁)

資料 A-2-2-2-①-2：進学率の推移

進学率	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
文学部	10.6	7.9	5.4	7.3	4.0
教育学部	11.1	15.2	18.1	13.5	9.8
法学部	4.0	5.5	2.3	5.4	3.0
理学部	58.1	54.9	58.4	52.9	53.4
医学部	7.8	6.9	8.1	8.9	7.0
薬学部	37.6	44.9	46.3	41.4	39.8
工学部	61.2	65.7	59.8	60.2	61.8
計	31.7	33.1	32.1	31.0	31.1

※進学率 = 進学者 ÷ 卒業生 ※医学部は保健学科のみ計上 (医学科は進学者なし)

(出典：『2018 熊本大学データ集』 69 頁)

資料 A-2-2-2-①-3：就職率の推移

就職率	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
文学部	85.3	88.3	95.9	92.1	94.8
教育学部	90.4	90.8	92.8	88.8	96.3
法学部	95.0	96.4	94.4	96.3	98.2
理学部	84.2	94.6	97.1	98.6	93.2
医学部	98.5	97.8	96.9	97.2	97.4

薬学部	100.0	100.0	100.0	100.0	95.6
工学部	94.8	97.7	96.7	97.4	97.1
計	92.6	94.2	95.4	94.4	96.4

※就職率＝就職者÷就職希望者/ ※就職希望者＝就職者＋教員採用試験準備者＋就職活動継続者/
 ※医学部は保健学科のみ計上（医学科の研修医は、就職者に計上しないため）

（出典：『2018 熊本大学データ集』70 頁）

資料 A-2-2-2-①-4：就職先の産業別分布（H29 年度例）

<産業別分類>

（単位：人）

区分	文	教育	法	理	医	薬	工	計
農・林・漁業・鉱業・建設業	7	2	1	4			36	50
製造業	17	2	11	11		2	61	104
電気・ガス・熱供給・水道業			1				7	8
情報通信業、運輸業	24	3	19	7			24	77
卸売業・小売業	22	6	11	5		13	1	58
金融業・保険業	14	14	19	5			5	57
不動産・飲食・宿泊業	7	3	4	3			6	23
医療、福祉	6	2	5	1	112	24	2	152
教育、学習支援業	9	157	5	13			1	185
サービス業	17	9	15	10		4	22	77
公務	22	36	75	7			38	178
その他		1	2	2			1	6
計	145	235	168	68	112	43	204	975

（出典：『2018 熊本大学データ集』72 頁）

資料 A-2-2-2-①-5：就職先の地域別分布（平成 29 年度例）

区分	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	計
県内	36	93	48	12	48	17	47	301
九州	62	117	86	32	44	19	68	428
関西	8	0	5	6	13	2	13	47
東海	2	0	1	1	0	0	8	12
関東	31	13	25	14	3	4	55	145
その他	6	12	3	3	4	1	13	42
計	145	235	168	68	112	43	204	975

（出典：『2018 熊本大学データ集』72 頁）

資料 A-2-2-2-①-6：正規学部留学生の卒業後の進路状況（就職、進学等）

年度	進学	就職（日本国内）	就職活動継続	帰国	留学	（休学）	計
H28 年度（4 年次生 7 名）	0	1	1	1	0	3	7
H29 年度（4 年次生 6 名）	1	0	1	0	1	3	6
計	1	1	2	1	1	6	13

（出典：国際教育課・人材交流支援資料）

資料 A-2-2-2-①-7：卒業生の社会での活動・活躍状況（部分的情報）

【平成 28 年度】

- ・演劇活動：「不思議少年」代表、大迫旭洋氏（卒業生）、全国縦断公演（H28 年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業）（総合人間学科）
- ・卒業生の中谷惣氏（現在、大阪大学准教授）賞を受賞：フォスコ・マライーニ賞

【平成 29 年度】

- ・卒業生の中谷惣氏（大阪大学准教授）、賞を受賞：日本学術振興会賞、日本学士院学術奨励賞、天野和夫賞

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

資料 A-2-2-2-②-1：文学部への満足度に関する卒業生調査（H26 年実施）

「熊本大学文学部への満足度に関する卒業生調査」報告書

2014 年 2 月 12 日

熊本大学文学部将来構想委員会

I はじめに

「熊本大学文学部への満足度に関する卒業生調査」は、熊本大学文学部の現状での問題点を把握し、今後の目指すべき方向性や改善点を探るために、卒業生を対象に文学部への満足度を尋ねたものである。

II 調査概要

調査対象者	熊本大学文学部卒業生（2008 年度～2012 年度卒業） （2005 年の改組以降に入学し、卒業した学生）
調査方法	アンケート調査
調査票配布・回収方法	郵送法
調査票配布・回収期間	2013 年 8 月 13 日～9 月 30 日
調査票配布数	680 部
調査票回収数	80 部
回収率	11.8%
質問項目	

- （1）文学部への満足度
- （2）文学部で身についた能力
- （3）文学部が目指すべき方向性
- （4）大学生時代に打ち込んだもの
- （5）文学部で学んだことの意義・価値（自由記述）
- （6）文学部の改善案（自由記述）
- （7）フェイスシート

III 調査結果の分析

本調査の対象者は、2005 年の改組以降に文学部に入学し、卒業した学生全員であり、該当者は 680 人である。調査票の配布数 680 部にたいし、回収数は 80 部、回収率は 11.8%であった。回収率が低くなることはある程度事前に想定されたが、結果は予想以上の低さであった。この結果は、文学部と卒業生とのネットワークキングが組織的になされていないためであろうと思われる。長期的な視点に立った文学部運営を考えてゆく上で卒業生との関係の維持は重要であ

り、この点は今後の課題となると思われる。

以下、別表の「集計結果 グラフ編」および「集計結果 自由記述編」をもとに、回答結果を分析してゆく。

■問1 文学部への満足度

「とても満足」と「やや満足」とを合わせると、8割以上の卒業生が文学部に満足している。所属の学科やコース、履修モデルで見るとその割合は9割を超える。「授業内容」や「教員」などについてさらに細かく満足度を尋ねたが、全項目で「とても満足」と「やや満足」とが過半数を超えており、回答した卒業生の殆どが文学部に満足している。

「やや不満足」および「不満足」の割合が比較的高かった項目を順に示すと（カッコ内は「やや不満足」および「不満足」の割合の合計）、「文学部の施設・設備」（44%）、「就職や進学のための支援」（30,8%）、「所属履修モデル以外の文学部授業科目」（22,6%）などが挙げられる。前二者への不満は、自由記述欄でもみられた。

■問2 文学部で身についた能力

文学部が教育目的とする10の能力のうち、「身についた」および「少し身についた」の合計数値が高かったものを順に示すと、「幅広い教養」（91,3%）、「課題発見・解決力」（88,8%）、「文章表現力」（87,5%）、「論理的思考力」（87,4%）などであった。文学部が伝統的に重視してきた能力の育成に概ね成功していると言える。

「あまり身につかなかった」および「身につかなかった」の合計数値が高かったものを順に示すと、「リーダーシップ」（57,5%）、「市民感覚・倫理観」（40,1%）、「確かな専門知識」（30,1%）、「情報リテラシー」（28,8%）などであった。

・「リーダーシップ」や「市民感覚・倫理観」は、本調査の対象となった卒業生が在学していた頃には文学部の教育目的として明示されていなかったためであると思われる。現在ではこれらの能力を向上させるための授業科目も提供されており、その成果が学生にどのように受け止められているか、今後注視していく必要がある。

・「確かな専門知識」については、平成17年度の改組によってコース制を導入したことの結果として、「幅広い教養」の評価が9割を超した反面、「確かな専門知識」の評価が相対的に低くなったと考えられる。

■問3 文学部が目指すべき方向性

文学部が目指すべき方向性として、以下の二つについて尋ねた。

A. グローバル化や情報化など、時代の変化への対応力を高めるようなカリキュラムを、文学部に積極的に導入するべきだ。

B. 時代の変化に左右されず、文学部は社会的・文化的に意義のあることを追求するべきだ
「Aに近い」および「ややAに近い」が6割強、「Bに近い」および「ややBに近い」が4割弱であり、意見が分かれたが、AがBよりもやや多い。二つの方向性のバランスを取りつつ、新しい時代の要請に応える授業や教育体制をいっそう充実させる必要がある。

■問4 大学時代に打ち込んだもの

「部・サークル活動」（41,8%）、「勉強・研究」（29,1%）、「アルバイト」（13,9%）の順に高かった。「部・サークル活動」および「勉強・研究」の多さは、問1でのこれらにたいする満足度の高さを裏付ける結果となっている。

■問5 文学部で学んだことの意義・価値（自由記述）

問2で示された10の能力について具体的に述べた回答が多く見られた。その中でも回答が多かったのが、「幅広い教養」（7件）および「論理的思考力」（4件）である。文学部には多様な学問分野が存在し、それらを学ぶことで、物事を多角的に考える力がついたというのが、もっとも多い回答であった。また、出版社勤務の人など、幅広い教養が仕事に直接的に役に立っているという回答もあった。反対に「確かな専門的知識」を挙げた回答は、学校教員として働いている人の中に多く見られた。

その他の回答として、直接的には役に立つと否とに関わらず、興味のある学問を学んだこと

によって人生が豊かになったとする回答も4件あった。文学部が従来から行ってきた研究教育の重要性をあらためて認識させられる回答であった。

■問6 文学部の改善案（自由記述）

回答は、「授業の方法および内容」（11件）、「研究室・学科の内外での交流」（10件）、「設備（図書含む）」（6件）、「就職支援」（4件、反対意見2件）に大別される。以下、順に主な回答内容を見てゆく。

まず「授業の内容および方法」のうち、授業方法については、実習・フィールドワーク・グループワーク・プレゼンテーション・ディベート・新聞などのメディアを使ったゼミなど、従来の講義と演習形式以外の多様な授業方法を求める声が見られた。授業内容については、「グローバル化に対応した授業」「英語」「漫画・アニメ」などにかんする授業を求める声が見られた。今後、学生の多様なニーズに柔軟に対応する教育体制が求められるだろう。

「研究室・学科の内外での交流」については、学科・コース内での交流や教員との交流を求める声もあったが（3件）、多かったのは研究室・学科の垣根を超えた交流を求める声である（7件）。これは設問が「文学部をより良くするため」のアイデアを求めるものであったために、このような結果になったと思われる。たしかに学生が学部全体への帰属意識を感じる機会は今現状ではあまりなく、文学部全体に対する満足度を高めるためには、学部への帰属意識を高める取り組みが有効と考えられる。

「設備（図書含む）」および「就職支援」は、問1でも低い評価が比較的多かった項目である。設備にかんしては、大学施設の夜間使用を求める声が3件見られた。とくに工学部との比較で、使用時間が異なることに納得していない人がいることがわかる。本調査の調査結果は、人的交流が満足度の重要な要因であることを示唆している。そのことをふまえて、文法棟の22時閉館について再考してみる意義はあると思われる。また、蔵書の不足を指摘する声も見られた（2件）。

「就職支援」については、すでに熊本大学にも就職支援体制（キャリア支援課）が整備されているが、回答を見ると、学生は教員や学部事務など、より身近な人からの支援（ガイダンスや相談）を求めているようである。

（出典：文学部将来構想委員会資料（平成26年））

資料 A-2-2-2-②-2：サポーター企業アンケート調査結果（平成 23 年度実施）

<p>質問：どのような熊本大学文学部の学生を貴社に採用したいとお考えでしょうか。 最も優先する採用基準をひとつ、もしくはふたつほどお教えてください。</p>	
NTT西日本	新しい社会の基礎を創るために、自らリーダーとなり、大きなチームを動かしていける人材
ジブラルタ生命	何のために仕事をするか、それを叶えるための執念、執着心を備えている企業人 自分のしている仕事が生かされているか、自分以外の周囲のために歯を食いしばることのできる思いを大切にできる人
ニュースカイホテル	コミュニケーション能力、特に人の話を聞き、すぐ理解できる力と自分の意志を人に伝えることができる力
九州産業交通ホールディングス	どうしたら相手が喜んでくれるかを考えて行動できる、相手（お客様）の立場に立った言動ができる人 新しい事業に取り組みたいといった熱意・創造性がある、何かやってくれそうな、バイタリティ溢れる人
熊本製粉	積極性やコミュニケーション能力、行動力等を身につけ、変化に柔軟に対応しアグレッシブに進化し続けられる自責・自発型社員
サニクリーン九州	自ら向上する意欲や行動力を兼ね備えた人 周りからの指示を待つのではなく、自ら考え積極的にチャレンジする事ができる人
西日本新聞	正義感の強さ、社会的不正への怒りを持ち、同時に弱者の視点から冷静に世の中を見ることのできる人物 相手が誰であろうと積極的にぶつかっていく行動力（フットワークの良さ）
大和ハウス工業	行動力
毎日新聞	社会的な問題を発見するとともに、それに対して他人の受け売りではない自分の意見を持ち、それを人に伝えることができる人材

（出典：人文社会科学系事務課資料）

資料 A-2-2-2-②-3：ステーク・ホルダー別アンケート調査（平成 24 年度実施）

4. 「本学の学生に身に付けて欲しい資質能力」についてのステークホルダー別回答比較

表4-1 本学の法学・文学・教育学系の学生に身に付けて欲しい資質能力

項目選択の強さ区分 回答者グループ 設問項目・集計項目	◎(特に重要な2項目)の選択率										◎または○(重要な5項目)の選択率									
	01 ・高校 ・予備校 教員※1	02 ・経済 団体 役員	03 ・企業 人事 担当者	04 ・共同 研究 外部 担当者	05 ・九州 県・市 幹部 職員	06 ・卒業 生・同 窓会 役員	07 ・在学 生保 護者	08 ・本学 教職 員	09 ・本学 学生	全 グ ル ー プ 単 純 平 均	01 ・高校 ・予備校 教員※1	02 ・経済 団体 役員	03 ・企業 人事 担当者	04 ・共同 研究 外部 担当者	05 ・九州 県・市 幹部 職員	06 ・卒業 生・同 窓会 役員	07 ・在学 生保 護者	08 ・本学 教職 員	09 ・本学 学生	全 グ ル ー プ 単 純 平 均
①幅広い教養と視野	35.0	27.1	19.2	22.2	26.7	28.8	33.1	39.3	33.3	29.4	74.2	72.9	73.1	77.8	66.7	78.8	74.6	76.8	83.3	75.3
⑦プレゼンテーション力や対話力	27.5	20.0	19.2	24.4	26.7	24.7	20.1	30.7	58.3	28.0	70.0	62.9	46.2	68.9	53.3	68.5	58.1	65.7	83.3	64.1
②リーダーシップや行動力	17.5	25.0	30.8	22.2	46.7	16.4	14.4	17.5	25.0	23.9	55.0	71.4	65.4	46.7	80.0	47.9	47.5	47.1	41.7	55.9
⑧実践的応用力や課題解決力	12.5	20.7	9.6	11.1	20.0	11.0	16.2	17.1	25.0	15.9	38.3	49.3	46.2	37.8	66.7	32.2	37.0	54.6	25.0	43.0
⑨外国語の運用力	12.5	8.6	15.4	20.0	0.0	13.7	12.7	15.4	16.7	12.8	50.0	35.7	36.5	53.3	26.7	58.2	51.4	50.7	33.3	44.0
③組織的行動力、協調作業力	10.8	8.6	7.7	13.3	20.0	8.9	5.6	16.8	16.7	12.0	31.7	45.7	50.0	44.4	53.3	31.5	31.7	49.6	41.7	42.2
⑤洞察力や思考力	12.5	7.9	13.5	13.3	0.0	12.3	8.8	22.1	16.7	11.9	43.3	45.7	44.2	42.2	40.0	37.0	43.3	58.2	58.3	45.8
⑥忍耐力や精神的逞しさ	7.5	13.6	21.2	2.2	20.0	5.5	9.5	14.6	8.3	11.4	32.5	37.9	53.8	33.3	33.3	24.0	29.2	40.4	33.3	35.3
⑩言語や宗教など異なる文化の理解力	5.8	3.6	5.8	4.4	0.0	9.6	5.6	17.5	16.7	7.7	25.8	17.9	19.2	37.8	13.3	43.2	37.3	47.5	58.3	33.4
④独創性や想像力	10.8	7.1	13.5	2.2	0.0	6.2	5.6	11.8	8.3	7.3	33.3	25.7	32.7	28.9	13.3	22.6	21.5	33.6	25.0	26.3
項目別平均有効回答者数(無回答を除く)	120	140	52	45	15	146	284	280	12	-	120	140	52	45	15	146	284	280	12	-

備考 +◎の表については20%以上のセルに薄いレンガ色、30%以上のセルに濃いレンガ色を塗った
+◎または○の表については40%以上nセルに薄いウグイス色、60%以上のセルに濃いウグイス色を塗った
+設問項目は全グループ単純平均の高点順に並べ変えている
注 ※1 小中学校校長会役員を含む

(出典：運営基盤管理部総務課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

・学生の卒業後の進路（進学、就職他）に関して、就職率は他学部と大きな差異はなく良好である。

・教育の効率化や進学状況の改善を目指し、これまで学部と大学院社会文化科学研究科が別組織となっていたのを、平成 29 年度に、教員組織としての「大学院人文社会科学研究部」、教育部として文学部、大学院社会文化科学研究科（平成 31 年度に「大学院社会文化科学教育部」に改称）に改組した。

以上の観点から、進路・就職の状況は適切であり、また将来的な改善を目指しての改組も行われており、期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(判定結果) 大きく改善・向上している。

以下の点において、改善・取り組みがなされており、重要な質の変化・向上があったと判断する。

(判断理由)

- ・平成 28 年度に教養教育を担う運営機構が設置され、教科集団の再編（分野別部会と科目別部会）など、教養教育実施体制が新たに整えられた（資料 A-1-1-1-①-1）。
- ・平成 29 年度に「文学部附属永青文庫研究センター」が学内共同施設となったことに伴い、文学部教授がセンター長として着任し、同センターの研究をさらに推進することとなった。
- ・平成 29 年度に「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」が設置され、熊本大学及び熊本とゆかりの深い両文豪の研究及びそれを通じた教育を発展させるとともに、熊本県文化協会他、県内・市内の文化振興関係機関との協力のもと、県及び市の文化・観光の活性化を推進する体制を構築した。
- ・平成 31 年度にはコミュニケーション情報学科の中に「現代文化資源学コース」が新たに設置され、「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」と連携した教育が実施される。
- ・平成 29 年度に、学部所属と大学院所属の教員を「大学院人文社会科学部」として一つにまとめ、教育部としての文学部と大学院社会文化科学研究科となり、研究部の教員が柔軟に教育部に関わることができる体制を作った（資料 A-1-1-1-①-3）。
- ・平成 27 年度に 15.3% だった女性教員比率が平成 29 年度には 15.7% に達し、僅かではあるが比率が向上している（資料 A-1-1-1-②-2）。
- ・平成 29 年度から「授業改善のためのアンケート」の実施回数、実施対象科目を増やした。（これまでの 3 年毎の実施を、平成 29 年度から隔年実施とし、対象授業科目も受講者数 20 名以上から 5 名以上へと拡大）。
- ・平成 28 年度 12 名、29 年度 21 名と、交流協定大学への留学生数が第 2 期最終年度の平成 27 年度 10 名及び第 2 期平均 6 名と比べ、大幅に増加した（資料 A-1-1-2-②-8）。
- ・平成 29 年度より、障がいのある学生への学習支援として、教員に対する「合理的配慮」の徹底を行い、同じく H29 年度から、学生によるボランティア活動のノートテイクに加えてバリアフリーマップ作成の活動がなされている（資料 A-1-1-2-⑥-3）。
- ・平成 29 年度に、主に同窓会会員（卒業生）利用の場として「武夫原サロン」が開設され、必要に応じて学部学生も利用できるスペースが増加した。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(判定結果) 大きく改善・向上している。

以下の通り、多くの点で改善・取り組みがなされており、重要な質の変化・向上があったと判断する。

(判断理由)

- ・平成 28 年度 88.5%、平成 29 年度 95.3% と、両年度ともに学生の単位取得率が上昇している（第 2 期最終年度の H27 年度 87.4%）（資料 A-2-2-1-1-①-3）。
- ・文学部で取得できる免許・資格の拡充を目指し、「公認心理師」資格のためのカリキュラム編成を検討している（現在「教育職員免許状」「学芸員資格」「社会調査士資格」「認定心理士資格」が取得可能）。
- ・平成 28 年度 3.532、平成 29 年度 3.634 と、GPA スコアが第 2 期最終年度の平成 27 年度

3.412 に比べ向上している（資料 A-2-2-1-1-①-5）。

・平成 28 年度 22 名、平成 29 年度 20 名と、休学者の状況が改善されている（第 2 期最終年度の平成 27 年度は 24 名）。同じく、退学者・除籍者の状況も、平成 28 年度 7 名、平成 29 年度 8 名と僅かながら改善されている（平成 27 年度 9 名）（資料 A-2-2-1-1-①-6）。留年者数は逆の傾向を示しているが、留年者には海外への留学生が多く含まれるので、ここでは比較の対象としない。

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

地域との連携及び社会貢献活動の方針・主旨は文学部 HP 及び『文学部案内』に明示されている：

- ・豊かな教養、深い専門知識、実践的能力、問題解決能力、グローバルな視野をもって社会に貢献できる人材育成を目指しています。
- ・研究や授業を活かして「地域社会の課題解決への貢献」、「大学の生涯学習機能の強化」をテーマに、地域連携活動を展開しています。

(文学部 HP「地域連携」；『文学部案内』「地域連携」)

教員個人が具体的に取り組むべき社会貢献活動の指標 5 項目というのが『文学部規則集』(38 頁)に掲げられているが、それらはすべて「研究活動」に関連するものとなっているため、それに関しては「大学院人文社会科学部」の『組織評価書』の「研究活動」領域で述べられている。そのため、教育部としての文学部の地域・社会貢献活動としては、研究生・科目等履修生の受け入れ、オープンキャンパスや高校出張授業の実施、授業科目の開放などが主なものである。

[想定する関係者とその期待]

想定される関係者は、在学生、卒業生、地域社会の人々、及び卒業生の受け入れ先となる組織や企業であり、地域を担うべき大学で養成された学生として、大学で身につけた専門的知識・能力を十分に活かし、地域の教育・文化・産業等の振興への参加・貢献が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

1. 文学部の地域・社会との連携・貢献活動に関する方針・主旨及び具体的情報が適切に公表されている（年間の活動状況、研究生・科目等履修生の受け入れ、授業開放科目、オープンキャンパス、高校出張授業等）（公表媒体：『学生便覧』『文学部規則集』『文学部案内』（「地域連携」）、文学部 HP（「地域連携」））。
2. 1で公表されている各活動が、計画に基づいて適切に行われている。
3. 学生による様々な地域社会貢献が活発に行われている。
4. 活動に対するアンケートの結果、どの活動に対しても満足度の高さが示された（開放されている学部専門科目に関する社会人受講生対象のアンケート実施の結果、回答者すべてが「大変満足」または「満足」と回答。オープンキャンパス実施後の全学対象のアンケート調査結果、及び文学部参加者によるアンケート回答（個別コメント）で示された満足度の高さ）。
5. 地域・社会貢献活動の検証・活性化が適切に行われている（大学評価データベース（TSUBAKI）を通して、学部長による3年度毎の教員個人の活動評価の実施）。

【改善を要する点】

文学部（教育部）として現状を改善する必要は特に認めない。今後活動として拡大できるものがあれば必要に応じて検討していく。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 1-1 社会貢献及び地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

文学部の地域・社会との連携及び貢献活動の方針・主旨は上記「社会貢献の目的と特徴」に述べている通り、文学部 HP「地域連携」及び『文学部案内』『地域連携』にて公表・周知されている。年間の活動状況も文学部 HP「地域連携」で公表・周知されている。

具体的な活動としては、「研究生・科目等履修生の受入れ」「授業開放科目」など授業を通して、また「オープンキャンパス」「高校出張授業」など高校との連携を通しての活動が行われている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

地域・社会との連携・貢献活動の方針・主旨及び年間の活動状況、また「研究生・科目等履修生の受入れ」「授業開放科目」「オープンキャンパス」「高校出張授業」などに関する具体的な情報が、『学生便覧』『文学部規則集』『文学部案内』(「地域連携」、文学部 HP(「地域連携」)にて適切に公表されている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 1-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

社会人受入制度に沿った研究生・科目等履修生の受入れを行っている(資料 C-1-1-2-1)。

全学の生涯学習教育の一環として、社会人対象に、学部教員が毎年 30 科目前後の授業を授業開放科目として提供している(資料 C-1-1-2-2)。学部専門科目の科目名は資料 C-1-1-2-3 の通り。

オープンキャンパスは高校の夏休み期間である 8 月に開催される。その内容は資料 C-1-1-2-4 の通り。九州全域の高校が参加しており、参加者数が年々増加傾向にあるため、人数の制限が必要となり、現在、高校 2 年生以上対象ということで行っている。参加人数、参加者内訳、参加高校は資料 C-1-1-2-5~7 の通り。

高校への上出張授業の要請も増加傾向にあり、実施状況は資料 C-1-1-2-8 の通り。

その他、教員による教育活動としての地域・社会貢献活動は資料 C-1-1-2-9 の通り。

学生による様々な地域・社会貢献が活発に行われている(資料 C-1-1-2-10)。

資料 C-1-1-2-1：研究生・科目等履修生(日本人)入学/期間延長状況

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	計
研究生	0	0	0	0
科目等履修生	2	1	3 (2/1)	6
計	2	1	3	6

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 C-1-1-2-2 : 文学部教員による授業開放科目実施状況

	H28年度	H29年度	H30年度	計
教養科目	13	12	2	27
学部専門科目	16 (22名)	12(17名)	16	44
大学院科目	6	3	3	12
放送大学科目	4	4	4	12
計	39	31	25	95

* 学部専門科目の括弧内数値は受講生数合計。

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 C-1-1-2-3 : 授業開放科目 (学部専門科目名) (括弧内は受講学生数)

【H28年度 (前学期)】

中国語中国文学演習 (1)、日本語学概論 I (3)、仏語学特殊講義 (2)、中国語会話 (1)、独語学演習 (4)、中国文学史 I (3)

【H28年度 (後学期)】

仏語学概論 (0)、英語学概論 II (0)、中国語中国文学演習 (1)、中国語作文 (0)、日本語学特殊講義 (1)、独語学演習 (3)、独文学特殊講義 (1)、メディア論 (0)、コミュニケーション論 (2)、中国語中国文学演習 (0)

【H29年度 (前学期)】

中国語中国文学演習 (2)、日本語学概論 I (1)、仏語学特殊講義 (0)、中国語会話 (4)、英語学概論 I (2)

【H29年度 (後学期)】

仏語学概論 (1)、中国語中国文学演習 (2)、中国語中国文学演習 (0)、日本語学特殊講義 (4)、中国語中国文学特殊講義 (0)、独文学史 II (1)、メディア論 (2)

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 C-1-1-2-4 : オープンキャンパス実施内容

平成 30 年度 熊本大学文学部説明会 (オープン・キャンパス)					
1	日時	2018年8月4日(土) 13:00~16:30			
2	場所	文学部 A1 (総合人間学科)、A3 (歴史学科)、B1 (文学科)、A2 (コミュニケーション情報学科)、B2 (保護者説明会)、B3 (新コース説明会, 予備)			
3	参加予定者	1,200人程度			
4	配布資料	(1) 「2019年度文学部案内」 (2) リーフレット (研究室マップと模擬授業時間割) (3) 「オープン・キャンパス」アンケート、など (4) 「文学部通信」			
5	学部説明 13:00~13:10 教室 司会進行	学部長挨拶, オープン・キャンパス概要説明, 学科説明。			
		A1 教室	A3 教室	B1 教室	A2 教室
		多田委員	中川 (順) 委員	朴委員	江川委員
学部長挨拶, 学部紹介の動画を放映					

	13:10～13:20	来場者移動（退室者のみ）			
6	模擬授業 13:20～14:30	各学科の模擬授業（講師は各学科2名、各30分）。1回のみ実施。			
	教室	A1 教室	A3 教室	B1 教室	A2 教室
	司会進行	多田委員	中川（順）委員	朴委員	江川委員
	模擬授業 A 13:20～13:50	講師：大辻	講師：鈴木（啓）	講師：竹島	講師：Isemonger
	13:50～14:00	来場者移動。積極的に来場者の分散を図る。			
模擬授業 B 14:00～14:30	講師：中川（輝）	講師：中川（順）	講師：濱田	講師：江川	
7	研究室訪問 13:00～16:30	学生研究室等での研究室紹介および来場者の質問に対する回答。 在学生の確保をお願いします。文学会から補助が出ます。			
8	保護者説明会 13:20～13:50	B2 教室。入り口で「質問票兼アンケート」を配布。 学部長挨拶の後、教務・入試・学生支援・広報各委員長が質問に回答。 説明会場は「保護者待機室」として13時から開放（16時30分まで）。			
9	新コース（コミュニケーション情報学科現代文化資源学コース）説明会 14:40～15:10	B3 教室。保護者の参加可（保護者説明会会場にて案内します）。 15時10分以降は担当教員による質疑応答。			
<p>○会場混雑緩和のため、法文棟入り口を3箇所に分けて 12:00 から 入り口で資料を配布します。</p> <p>○会場混雑緩和のため、13:00 から（各学科会場と同時進行で）研究室訪問を開始します。</p> <p>○資料配布・誘導・会場整理のため学生アルバイトを動員します。</p> <p>○B2 教室で保護者説明会を実施します。教務・入試・学生支援各委員長も質問回答のためご出席ください。</p>					

（出典：文学部広報・情報化推進委員会資料）

資料 C-1-1-2-5：オープンキャンパス参加人数

H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度
1500	365	1,350				

*H28 年度は熊本地震のため「学部進学説明会」の形で規模を縮小して行ったため参加人数が減少している。

（出典：『熊本大学データ集（2017, 2018）』を基に作成）

資料 C-1-1-2-6：オープンキャンパス参加者内訳

H27 年度	参加者	高校生等	1,300	人
		教師	10	人
		保護者	190	人
		合計	1,500	人

H28 年度	参加者	高校生等	305	人
		教 師	0	人
		保 護 者	60	人
		合 計	365	人
H29 年度	参加者	高校生等	1,050	人
		教 師	0	人
		保 護 者	300	人
		合 計	1,350	人
H30 年度	参加者	高校生等		人
		教 師		人
		保 護 者		人
		合 計		人

※28年度は熊本地震の影響により、オープンキャンパスではなく学部主催の進学説明会を実施

(出典：入試課資料を基に作成)

資料 C-1-1-2-7：オープンキャンパス参加高校地域

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
熊本	28 校 (17.9%)	—	29 校 (18.2%)	
福岡	41 校 (26.3%)	—	47 校 (29.6%)	
佐賀	11 校 (7.1%)	—	11 校 (6.9%)	
長崎	13 校 (8.3%)	—	9 校 (5.7%)	
大分	14 校 (9.0%)	—	17 校 (10.7%)	
宮崎	12 校 (7.7%)	—	14 校 (8.8%)	
鹿児島	20 校 (12.8%)	—	15 校 (9.4%)	
沖縄	2 校 (1.3%)	—	3 校 (1.9%)	
その他	15 校 (9.6%)	—	14 校 (8.8%)	

※28年度は熊本地震の影響により、オープンキャンパスではなく学部主催の進学説明会を実施。

(出典：入試課資料を基に作成)

資料 C-1-1-2-8：高校出張授業実施状況

年度	回数	場所 (県名)
H27 年度	14	熊本 7、宮崎 3、大分 2、長崎、鹿児島
H28 年度	11	熊本 5、佐賀 2、福岡、長崎、宮崎、鹿児島
H29 年度	12	熊本 7、宮崎 2、長崎、佐賀、鹿児島
計	37	

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 C-1-1-2-9：その他教育活動としての地域・社会貢献活動

【平成 28 年度】
・熊本大学ワクワク研究室案内(「漱石・寅彦プロジェクト」)(熊本信愛女学院高等学校生受け入れ)(総合人間学科)
・熊本県震災ボランティア(益城町)(歴史学科)

・「ドイツ語研究会」(中級独会話クラス)を隔週で、夜間開催(学生・留学生・社会人対象)(文学科)

【平成 29 年度】

・熊本大学ワクワク研究室案内(「漱石・寅彦プロジェクト」)(熊本信愛女学院高等学校生受け入れ)(総合人間学科)

(出典:自己評価委員会・学科収集資料)

資料 C-1-1-2-10:学部学生による学外(地域社会)での様々な活動

【平成 28 年度】

《総合人間学科》

- ・KAFS(熊本人類学映画会でのドキュメンタリー映画)上映、写真撮影会、展示会、一人芝居「天の魚」上演準備など
- ・高齢者を対象とした「レトロコンサート」の企画運営(くまもと県民交流館パレアホール)
- ・熊本地震ボランティア
- ・自主的なフィールドワーク
- ・ゼミ合宿

《歴史学科》

- ・古文書整理の勉強会(目録作成方法の学習)
- ・九州大学日本史学研究室との合同ゼミ
- ・研究室夏合宿での学生による共同研究発表
- ・九州西洋史学会若手部会への参加及びその運営(九州・関西の大学間合同勉強会、年2回)
- ・震災ボランティア
 - ー佐賀県、福岡県、大分県での募金活動ボランティア
 - ー福岡県、大分県での救援物資の仕分け作業
 - ー熊本大学内避難所でのボランティア
- ・大分県日田市介護施設でのヨサコイボランティア活動(所属サークル活動の一環)
- ・江津湖清掃活動(所属サークル活動の一環)

《文学科》

データなし。

《コミュニケーション情報学科》

- ・「Kumarism」(熊本地震後に熊本の魅力等を発信し、熊本の活性化を行う団体)の代表として当学科学生が活動。日本語と英語で SNS 情報発信するとともに、県内の高校に出向いて移動大学的活動(「熊大移動大学みらいずむ」)を行う(本学 HP「熊本大学 COC 地(知)の拠点整備事業(HugKum)」で紹介)。COC・COC+にも貢献。学生支援部の「きらめきユースプロジェクト」に選出。日経グローバル 343 号(平成 30 年 7 月 2 日発行)で紹介。
 - ・地元百貨店のブランディング活動、イベント制作への参加(名作童話をベースとした未就学児向けの英語体験イベント制作、情報発信用 Web サイトの運営)
 - ・TOEIC 勉強会のメンバーが、大分県臼杵高校で出前授業実施(オリジナルテキストを作成し、生徒の英語能力を向上させる指導に活用)
 - ・TOEIC 勉強会のメンバーが、「きらめきユースプロジェクト」による財政支援を受け、オリジナルグッズを企画・制作。グッズの配布を通して熊大の活動を広報するという広告コミュニケーションの教育的実践ともなった。
 - ・熊本地震ボランティア
 - ー地震被害の大きかった益城地区の小学生を対象にしたタウン誌制作ワークショップを、印刷会社、IT 企業と共同し、設計・実施
-

【平成 29 年度】

《総合人間学科》

- ・KAFS（熊本人類学映画会でのドキュメンタリー映画）上映、写真撮影会、展示会、一人芝居「天の魚」上演準備など
- ・高齢者を対象とした「レトロコンサート」の企画運営（くまもと県民交流館パレアホール）
- ・自主的なフィールドワーク
- ・ゼミ合宿
- ・演劇活動（「座・高円寺」の公演『ひとつの机とふたつの椅子と越境者たち』に出演（東京）

《歴史学科》

- ・古文書整理の勉強会（目録作成方法の学習）
- ・九州大学日本史学研究室との合同ゼミ
- ・研究室夏合宿での学生共同研究発表
- ・九州西洋史学会若手部会への参加及びその運営（九州・関西の大学間合同勉強会、年 2 回）
- ・九州西洋史学会若手部会への参加（年 2 回）
- ・グローバル・カレッジ主催の留学生との交流会や支援活動への参加（2 回）
- ・震災ボランティア
 - －江津湖清掃活動（シグマ祭実行委員会の活動の一環）（毎月 2 回）
- ・国際的なボランティア活動
 - －ラオスとバングラディッシュの子ども達の支援団体「Study For Two」に参加し、活動（2 回）
 - －ラオス現地での支援活動（農村視察、交流、支援活動）

《文学科》

データなし。

《コミュニケーション情報学科》

- ・「Kumarism」（熊本地震後に熊本の魅力等を発信し、熊本の活性化を行う団体）の代表として当学科学生が活動。日本語と英語で SNS 情報発信するとともに、県内の高校に出向いて移動大学の活動（「熊大移動大学みらいずむ」）を行う（本学 HP「熊本大学 COC 地（知）の拠点整備事業（HugKum）」で紹介）。COC・COC+にも貢献。学生支援部の「きらめきユースプロジェクト」に選出。日経グローバル 343 号（平成 30 年 7 月 2 日発行）で紹介。
- ・地元百貨店のブランディング活動、イベント制作への参加（名作童話をベースとした未就学児向けの英語体験イベント制作、情報発信用 Web サイトの運営）
- ・「第 1 回九州地域ブランド総選挙」（九州経済産業局・特許庁主催）に出場。「小国杉チーム」として「ベストブランドストーリー賞」を受賞

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

- ・社会人受入制度に沿った研究生・科目等履修生の受入れ、授業開放科目の提供、オープンキャンパス、高校への出張授業等を通して、計画に基づいた地域・社会貢献活動が適切に行われている。
 - ・学生による様々な学外（地域社会）貢献活動が活発に行われている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 1 - 3 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

授業開放されている学部専門科目に関して社会人受講生にアンケートを取った結果、回答者すべてが「大変満足」または「満足」と回答している(資料 C-1-1-3-1)。

オープンキャンパス実施後にアンケート調査が行われ、その結果(全学対象)、及び参加者コメント(文学部参加者)から関心度・満足度の高さが分かり、実施の成果が見られる(資料 C-1-1-3-2・3)。

資料 C-1-1-3-1：授業開放科目(学部専門科目)アンケート結果

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	計
大変満足	9	5			
満足	5	7			
どちらともいえない	0	0			
不満足	0	0			
大変不満足	0	0			
計					

(出典：研究・産学連携部/社会連携課地域連携チーム資料を基に作成)

資料 C-1-1-3-2：オープンキャンパスアンケート結果

Q. オープンキャンパスに参加してどうでしたか？

	H27 年度		H29 年度		H30 年度			
	件数	%	件数	%	件数	%		
1. 進学意欲が高まった	1,375	47.2	3,102	72.9				
2. 進学希望はなかったが進学したいと思った	515	17.7	765	18.0				
3. 進学意欲が低下した	183	6.3	35	0.8				
4. 最初から進学希望はなかった	840	28.8	229	5.4				
5. 未回答	0	0.0	123	2.9				
計	2,913	100	4,254	100				

※28年度は熊本地震の影響により、学部主催の進学説明会としての実施のためアンケートなし。

(出典：入試課資料を基に作成)

資料 C-1-1-3-3：オープンキャンパス参加者コメント

<平成 27 年度>

映像があったのでわかりやすく現地で調べたりできると知り興味が深まった
日本史のところで古文書を見れたのはよかった。
学生の方が積極的に話しかけてくれたりしてとても助かった。
とても興味が湧きました。
ドイツ語に触れたことで外国語を学ぶ意欲が高まったと思います。
高校とは違う“学び”というものが実感できてよかったです。自分が学びたいものが学べるということが分かって、実際に来てみてよかったです。
コミュニケーション情報学科への進学意欲が高まった。
文学部の細かく分かれている科？がそれぞれどんなことをしているのか分かった。
自分の進路についてよく知ることができてとても良かったです。
旧五高記念館の展示がとても面白く、ためになりました。興味のなかった学問も調べてみようと思いました。
「歩クマくん」さんたちが親切に道案内をしてくださったので、とても助かりました。
西洋史が興味深くおもしろかった。奴隷のことが知られてよかった。

模擬授業の内容は、堅いのかと思っていましたが、話が面白く、笑った場面も多かったです。改めて調べて熊本大学についてまたよく学びたいです。
コミュニケーション情報学科（前半）をちゃんと受けたかった。英語やドイツ語が将来大事になることがよくわかった。
資料や文献が多く、興味をそそられました。
想像よりも大学の規模が大きくて道がわからなかった時に、歩クマさんが親切に最後まで道案内してくれて助かりました。
歴史の考古学の古墳時代に興味がわいた。
キャンパス内の雰囲気がとても良く、模擬授業も分かりやすく興味がわきました。
手話通訳者さんが手話通訳できるようにもう少し話しのペースなど配慮していただけると助かります。
五高記念館の復元教室がすごくよかったです。
山下先生の模擬授業がおもしろかったです。
研究室での体験やいろいろな話がとてもおもしろくて楽しかった。

<平成 29 年度>

楽しかった、よかった、ありがとうございました等（13 件）
模擬授業がよかった等（11 件）
この大学で学びたいと思った等、進学意欲が高まった。（6 件）
説明がわかりやすかった等。（5 件）
研究室で学生の方と話ができてよかったです等、研究室訪問について（4 件）
学生がとても話しやすい雰囲気、研究室訪問も分かりやすく、進学意欲が高まりました。とても良かったです等、学生の対応について。（4 件）
進路とか、学部について以外にも興味の湧くお話がたくさんきけました！とてもタメになりました。
学生のみなさんが楽しんで生活しているだけでなく、きちんと勉強している上で、という事がわかり、熊大に来たい！と強く思いました。
吹部の演奏が聴きたい！ステージ発表がなかなかにぎやかでよきかな。
VRの技術がすごかった
サークルをもう少し見たかった。
コミュニケーション情報学科の講義を受け、CMについてや異文化コミュニケーションについて学び、どれも自分の興味を引き立てるものばかりでより一層熊本大学で学びたいという気持ちが増したので、とても充実したオープンキャンパスになりました。
道路近くの入口近くに、案内とか、大学の人がかいてくれたら分かりやすかったです。広くてどこに行ってもいいのかが分からなかったです。
大学について良く知ることが出来ました。楽しそうな大学だと思いました。
歩クマくんのしかった！！ありがとうございました。
図書館で頂いたブックカバーがとても可愛くてうれしかったです。オープンキャンパスに参加したのは熊本大学が初めてで、キャンパスや庭の広さに圧倒されました。
・模擬授業が1つ30分で2つに分かれていたので、いろいろな学科に行けたし、短くてよかった。
最初の時間は、もう少し短くても良かったと思います。
知覚心理学の話がおもしろかった
クールシートがよかった
大学全体の雰囲気も明るく、接してくださる先輩方の対応も優しかったので色々な事を質問しやすかった。安高先生の講義はさらに日本史を学びたいという欲が深まるものだった。
熊本駅からの臨時便を設けてほしい

漢詩の授業がおもしろかったです。会う人みんな親切でとても素敵な大学でした。空調が少し寒かったです。星の王子さまもおもしろかったです。
・興味をひくものが多く、もし入ったら楽しいだろうなとわかった。・部活動なども楽しそう でいいなと思った。
ステージ企画がとても楽しかったです。説明を聞いて、進学したいと思いました。
今回、貴学のオープンキャンパスに参加させていただいたことにより、これまで以上に強く貴学 で学びたいと思いました。また模擬授業では域外漢詩という初めて聞いた言葉についてでしたが 非常に興味深い話でした。ありがとうございました。
実際に本物の資料などを使って詳しく理解を深めているということを知ってより文学部の歴史学 科に興味を持ちました。
今まで知らなかったことを知ることができた。
図書館を見学することができ、大学の設備を実感することができました。
サークルや部活動のだしものももう少し増えたらいいと思います。くまぼんのグッズを増やして 下さい
大学に着くまでは大変だったが、モチベーションにつながるいいオープンキャンパスでした。本 日はありがとうございました。
トランプの実験とてもおもしろかったです！！ひっかかりました。
H i g o - p e l a がすごく良かったです。
文学部案内には、知りたい情報はほとんど記載されていました。1冊だけでも文学部のことがよ く理解できました。
黄色のアンケート用紙の問6について、とても魅力的に思う。
心理学の内容が思っていたのとちがった
グローバルリーダーコースについて詳しく知りたいと思った。模擬授業がとてもよかった。
模擬授業を受けてとても楽しかったです。英語だけの授業で、とても新鮮で先生の一生懸命な姿 が印象的でした。
キャンパスも味があって素敵で、講義もとても面白かったです。受験勉強のモチベーションが上 がりました。

(出典：入試課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・授業開放科目の中の学部専門科目に関して社会人受講生対象にアンケートを行った結果、
回答者すべてが「大変満足」または「満足」と回答している。
 - ・オープンキャンパス実施後のアンケート調査の結果(全学としてまとめたデータ)、及び
参加者コメント(文学部参加者)から、満足度の高さが示された。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

文学部（教育部）としての上記の地域・社会貢献活動の検証は、熊本大学評価データベース（TSUBAKI）を通して、3年度毎に学部長が教員個人についての活動評価を行い、活動の改善・活性化が図られている（『文学部規則集』32～35頁）。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育部としての文学部の地域・社会貢献活動の検証は、熊本大学評価データベース（TSUBAKI）を通して3年度毎に学部長によって、個人活動評価として行われ、各教員の活動の改善・活性化が適切に行われている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(判定結果) 改善・向上している。

(判断理由)

以下の点において、質の向上及び活動の成果が見られる。

- ・H28・29年度における変更に伴って、『文学部規則集』『文学部案内』（「地域連携」）、文学部HP（「地域連携」）の内容が適宜更新・改訂されている。
- ・研究生、科目等履修生の受け入れ（資料C-1-1-2-1）、社会人に対する多くの授業の開放（資料C-1-1-2-2）、オープンキャンパス（資料C-1-1-2-7）、高校出張授業（資料C-1-1-2-9）等が継続的に行われている。
- ・成果として、オープンキャンパス参加者の満足度の高さがアンケート結果及び個々のコメントに示されている（資料C-1-1-3-2・3）。
- ・H28年度以降、熊本地震のボランティア活動など、学生による地域社会での様々な貢献活動が活発に行われている（資料C-1-1-2-10）。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

教育における国際化を通して世界の多様性と国際性を学び、グローバルな視野と感覚を身につけ、それを生かして社会で活躍・貢献できる学生の養成は文学部の重要な教育目標の一つである。

国際化時代の中で、この流れに柔軟かつ適切に対応できる人材や、互いに有益で意義深い国際交流を推進できる人材の育成も、文学部の教育目標の重要な要素をなしています。そのためには、授業の中で異文化について様々な知識を獲得するばかりでなく、外国での大学生活を通して「外国人としての自分」を意識し、異文化の中で多様な経験を積むことも大事なプロセスだと考えます。留学という新たな経験によって、みなさんは考え方や行動を大きく変化させ、精神的にもたくましくなること確実です。

(出典：文学部 HP「国際交流」)

また、アジアや欧米ほか様々な国々からの多くの留学生(全学部で最も多く毎年約 50 名)が文学部に在籍しており、留学生と一緒に授業を受ける機会や、日常的に留学生と交流する機会が多く、グローバルな視野と感覚を養う多様性と国際性を日常的に学べる場となっている。

[想定する関係者とその期待]

国際化に関して想定している関係者は、在学生、卒業生の受け入れ先となる公的・私的企業及び機関、卒業生を受け入れる地域・社会である。これら3者から、社会の今後の流れである国際化・グローバル化に参画できる人材の養成が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

教育部としての文学部の国際化に関して、以下の点において優れている。

1. 「国際化の目的と特徴」で述べた目的に照らし、国際化推進のために必要な情報が適切に公表・周知されている。

2. 学生の国際化の強化体制が適切に整えられている（学部独自のガイダンスの実施、学部図書室の「国際交流図書コーナー」の設置、学部間交流協定大学の拡大、英語の実践力・運用力を強化するための多くの授業科目、全学部中最も多い英語による授業、さらに授業の一環としての海外研修、教員引率による短期の海外研修、勉強会の実施、国際交流イベントへの参加促進等）。

3. 毎年多くの学生が交流協定大学を中心に、海外での留学・研修が活発に行われている（交流協定大学留学生数は第2期最終年度のH27年度10名及び第2期平均6名と比べ、H28年度12名、29年度21名と、大幅に増加；文学部国際奨学事業制度の活発な利用；授業の一環としての海外研修；学生個人としての、休暇や休学を利用した、様々な目的での海外渡航の活発な状況）。

4. 交流協定大学を中心とした海外の大学から留学生を積極的に受け入れ、学習支援も行っている（全学部中最も多い受入数；指導教員の配置；学生チューターによるサポート；英語によるシラバス情報提供；留学生歓迎パーティの開催等）。

5. 海外の大学への留学の成果・満足度の高さが示されている（留学先大学で取得した単位の読み替え；留学前・留学後の学生の意識調査（国際教育課実施）の結果、様々な面で見られる意識の向上；留学がいかに貴重な経験になったかの報告（文学部HP）；就職活動の中で、留学経験が面接で高く評価されたという多くの採用学生の声）。

6. 海外から文学部への留学生の満足度の高さが示されている（留学前・留学後の外国人留学生の意識調査（国際教育課実施）の結果に示されている高い満足度）。

【改善を要する点】

海外への学部学生の留学状況・成果、海外からの外国人留学生の受け入れ状況・成果ともに良好であり、現在のところ特に改善を必要としていない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点1-1 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点到る状況）

・「I 国際化の目的と特徴」で述べた目的に照らし、国際化推進のために、『学生便覧』（93頁）、『文学部案内』（「国際交流 International」）（資料 D-1-1-1-1）、文学部HP（「国際交流」）で、国際化の方針や情報が公表されている。

・留学先大学として、十分な数の部局間交流協定大学及び大学間交流協定大学があり、多くの国々と大学への留学ができる体制にある。国際教育課が全学的な留学相談窓口となっているほか、学部としても各コース・分野の教員が窓口となって具体的な指導が行われている。

・学部独自の留学ガイダンスを行い、留学経験学生の体験談の発表や事務手続きの説明をするなど、学生の留学を促進する機会を設けている。

・学部図書室に「国際交流図書コーナー」が設置され、留学に関心のある日本人学生、海外からの留学生双方に有用な場が整備されている。

- ・ 交流協定大学で履修した授業の単位を文学部の授業単位として読み替えることができる。
- ・ 文学部「国際奨学事業」により、自分の専門に関して海外で調査・研究する機会、また国際的な学術研修に参加する機会、その他国際的な交流の機会が提供されている（資料 D-1-1-1-2）。

資料 D-1-1-1-1 : 『文学部案内』掲載の「国際交流」案内

国際交流

International

**個人の意欲と自主性を尊重し、
国際交流活動の機会を提供**

文学部には異文化に関する授業がたくさんありますが、実際の体験は何物にも代えられませぬ。留学のみならず、キャンパスでの異文化体験が、広い視野と探求的な価値観を育てます。



留学

協定校への交換留学や私費での語学留学も

「留学」には多様な形態があります。交流協定を結んでいる海外の大学と学生を相互に派遣する「交換留学」と、夏休みと春休みの長期休暇中に実施される「海外語学研修」や「サマープログラム」は、大学あるいは文学部が提供しています。自分自身で留学先を選び手配する「語学留学」「国際インターンシップ」「国際ボランティア」といった私費留学することもできます。こういった留学先での勉学について、修得した単位を審査のうえ熊本大学の単位として認定する仕組みがあります。

多彩な経済支援制度が留学をサポート

留学には経済支援制度が用意されています。文部科学省が民間との協働で始めた、返済不要の奨学金や事前事後研修などの支援「トビタテ!留学JAPAN」では、交換留学など単位取得を前提としたアカデミックな留学だけでなく、インターンシップやボランティア、フィールドワークなど、学校以外を舞台とした多様な活動に対しても提供されています。さらに「海外語学研修」や「サマープログラム」では、日本学生支援機構(JASSO)が提供する「海外留学支援制度」が利用できるほか、短期の私費留学でも利用できる貸与型の奨学金もあります。また、本学が実施している国際奨学事業は、留学を含む海外での学習・研究活動、インターンシップなど短期の活動に対して支援を行なっています。

留学生との交流

キャンパスやイベントで異文化体験

文学部には、アジアや欧米地域の様々な国の留学生在籍しています。一緒に授業を受けキャンパスライフを送ることはもちろん、彼らのチューターとなってより親密な関係を築き、文化間の相互理解を深めていくことができます。春と秋には留学生とチューターを招いて、学部の歓迎ランチパーティが開催されるなど、異文化を体験できるイベントもあります。



外国人教員よりメッセージ

言葉と文化の壁を乗り越えて

文学部 熊本大学文学部コア(国際教養大学)
トピアス・パウアー 准教授

引率したドイツ留学プログラムでのこと。学生がレストランで「Menu」(メニュー)を注文したら、日替わり定食が出てきました。「Menu」という言葉は、新語は一緒ですが、日本語では「品書き」で、ドイツ語では「定食」を意味します。このような経験を見がかりに、背景にある言語の仕組みや文化に目を向けることで、異文化と自国の文化への理解が深まります。長期留学では、言葉と文化の壁に苦しむこともあるでしょう。けれどもその中で、それを乗り越えて手に入れる経験は、かけがえのない一生の財産です。

国際化時代のなかで、柔軟かつ適切に対応できる人材や、互いに有益で意義深い国際交流を推進できる人材の育成も、文学部の教育目標の重要な要素をなしています。

□ 留学についての Q&A

Q.1
どのような
国・学校に
行けますか？

A ヨーロッパ、アメリカ、アジア…
世界中の国に留学が可能です

私 賢留学であれば、自分自身もしくは民間の料放機関を通じて、世界中の国に留学することが可能です。本学では、交換協定校として、学部が専員協定校15校に加え、新学を中心とした短期プログラムの受け入れ8校があります。また、平成29年度は、文学部の国際奨学事業の支援を受け、選抜された数名の学生がトルコ、フランス、中国、イタリアなどの国に短期研修に行っています。

文学部 国際奨学コース
熊本大学文学部
人文社会科学部 文学系 松岡 浩史



Q.2
留学のメリットは
どのようなものが
ありますか？

A 課題を乗り越える強さや
積極性を獲得できます

異 なる文化・国籍の人と共同で物事に取り組み、課題を乗り越える強さや積極性を獲得できることが最大のメリットです。大学で学んだ新学や文化を、実生活での活動にどう落とし込むかを工夫することで、確実に成長できます。留学先での単位を卒業単位に変換できる制度はありますが、1年間の留学では約半年から1年卒業が遅れます。ただ、留学で身につけた能力を評価してくれる企業が多いため、卒業後のキャリア設計には有利だと思います。

実行委員会 国際奨学事業部 理事
コミュニケーション学専攻 2023年度
米倉 麻子



Q.3
留学にはどの程度の
語学力が必要で、
どんな支援が
ありますか？

A 検定試験で一定レベル以上が必要、
様々な学内サポートがあります

学 習や日常生活を考えると、留学前に語学力を身につけておくに越したことはありません。英語圏への留学には、IELTSやTOEFL・iBTなどの英語力検定試験で一定レベルの成績を修める必要があります。長期的な計画を立て、学部の提供する「実践英語」などを受講し、1年程度の新学学習を行うことがよいでしょう。生活面については、留学先の学校での支援に加え、所属学部・学科の教員、学生支援部国際教育課などが協力してサポートを行います。

人文社会科学部 国際
文学専攻 米本 麻美



□ 文学部学生にかかわる交換協定校一覧

A	コペンハーゲン大学 人文学部	コペンハーゲン(デンマーク)
B	ボン大学 人文科学部	ボン(ドイツ)
C	ザールラント大学	ザールブリュッケン(ドイツ)
D	ダラム大学	ダラム(イギリス)
E	リーマック大学	リーマック(イギリス)
F	デュースブルグ大学 文学部	デュースブルグ(ドイツ)
G	ボルドー大学 文学部	ボルドー(フランス)
H	シュトゥットガルト大学	シュトゥットガルト(ドイツ)
I	聖エドワード大学 人文社会科学部	スタンレー(イギリス)



J	ニューカッスル大学	ニューカッスル(イギリス)
K	キーン大学	キーン(アメリカ合衆国)
L	モントリオール大学	ボーズワース(アメリカ合衆国)
M	杭州国際大学 外国語学部	杭州(中国)
N	東海大学	上海(中国)
O	上海復旦大学	上海(中国)
P	ソウル国家 大学校	ソウル(韓国)
Q	韓材大学校	ソウル(韓国)
R	東洋大学校	プサン(韓国)
S	釜山大学 外国語学部	釜山(韓国)
T	慶南大学校	慶南(韓国)

(出典：『文学部案内』(2019)、49-50頁)

資料 D-1-1-1-2：文学部「国際奨学事業」実施要領（平成30年度）

1. 目的

文学部に所属する学生の海外での学習・研究活動への参加機会を広く提供し、参加を支援することによって、参加者の国際的視野と学習・研究能力を高めるとともに、学生の国際的関心を高め、積極的な社会進出を動機付けるため、国際奨学事業を実施する。

2. 対象となる学生の活動

- (1) 国際学会での発表
- (2) 国際的な調査活動
- (3) 国際インターンシップ
- (4) 国際交流協定校での目標を定めた学習
- (5) その他国際的な学習・研究活動

※ 外国人留学生の場合、母国以外での活動を対象とする。

3. 選考基準

以下の選考基準により学生を選抜する。

(1) 企画の内容

選考の結果通知予定日の後に、平成30年度内に実施する活動を選考の対象とする。国際的な場での独創的な学習・研究活動、プロジェクトであると評価できる申請理由・計画が盛り込まれていること。

(2) 学業成績

学業成績が優秀である者

- (3) 外国語能力
国際的な学習・研究活動を遂行することができる外国語能力を有する者
4. 募集人数・支給額
募集人数は若干名。選抜した学生に対し渡航地域に応じた旅費支援及び宿泊支援を行い1人当たり15万円を上限として奨学金を支給する。共同で実施するプロジェクト等の場合であっても、分割配分は行わないものとする。
5. 申請書類
(1) 申請書(別紙様式1)計画の題目、実施期間、申請理由を含む。
(2) 学習・研究計画書(別紙様式2)
(3) 推薦理由を付した教員による推薦書(別紙様式3)
(4) 成績証明書
(5) 外国語能力を測る試験等を受験している場合は、その成績に関する証明書(任意)
(6) その他パンフレット等関係資料(任意)
6. 選考方法
国際交流委員会で第1次選抜として申請書類の審査を行い、その合格者に対して第2次選抜として面接を行ったうえで、総合的に評価して選考する。
7. 募集締切・選考日程
7月6日(金)までに、所定の申請書類を文学部教務担当に提出するものとする。面接は、7月11日(水)午後を予定しているが、詳細については、別途掲示する。選考結果は7月19日(木)に掲示する。
8. 追加募集について
選考の結果、支給予定総額に満たない場合には、追加募集を実施する。
9. 重複申請の制限
本事業及び、本事業と同様の目的による他制度の奨学金の支給を受けた学生に対しては、本事業の奨学金を支給しないものとする。
10. 成果及び事業の報告
本事業の奨学金を得て国際活動を行った学生は、帰国後、事業報告書を提出し、学内報告会等により成果を発表するものとする。
11. 問い合わせ先
本国際奨学支援事業に関する問い合わせは、文学部教務担当において受け付ける。

(出典：文学部「国際交流委員会」資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

「国際化の目的と特徴」で述べた目的に照らし、国際化推進のために必要な情報が適切に公表・周知されている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点1-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到係る状況)

国際通用性のある教育課程として、英語の実践力・運用力を強化するための授業科目が、学部共通科目として2科目、コミュニケーション情報学科に7科目設定されている(資料D-1-1-2-1)。外国語・英語による授業数、また外国人等専任教員数が全学部中最も多く、外国語・異文化・国際化教育の強化体制が取られている(資料D-1-1-2-2・3)。

学生の国際化に寄与する交換留学制度（『学生便覧』93頁）に則って、毎年多くの学生が海外の大学に留学している。学部学生が関わる主な交流協定大学は資料 D-1-1-2-4 の通りで、留学生数は H28・29 年度ともに増加傾向にある（資料 D-1-1-2-5）。

また、学生の国際化を推進する国際奨学事業制度があり（『文学部規則集』85頁）、多くの学生が、短期間ながら、様々な国々に出かけ、様々なテーマに取り組み、研修を行っている（資料 D-1-1-2-6）。

コミュニケーション情報学科では「異文化コミュニケーション論実習」としての海外研修もあり、学生の語学力・国際感覚・国際的視野を養っている（資料 D-1-1-2-7）。歴史学科では教員引率による短期の海外研修が行われ、学生の国際化が推進されている（資料 D-1-1-2-8）。また、学生の国際化アップのための教育上の指導・工夫として、学科で個別の指導や勉強会が行われている（資料 D-1-1-2-9）。その他、休暇や休学を利用して、専門研究、語学研修、海外インターンシップ、異文化体験など様々な目的で海外渡航している学生も多くいる（資料 D-1-1-2-10）。

交流協定大学を中心とした海外の大学からの留学生の受け入れ状況は資料 D-1-1-2-11 の通りで、全学部中最も多く、活発である。さらに、国費外国人留学生の国別人数及び私費外国人留学生の身分別・国別人数は資料 D-1-1-2-12・13 の通り。

外国人留学生への支援として、指導教員の配置、学生チューターによるサポート（資料 D-1-1-2-14）、英語によるシラバス情報の提供（H28 年度に改善・整備）が行われている。また毎年 10 月には留学生歓迎パーティが開催され、多くの留学生、学生チューター、一般学生、教員が参加し、情報交換と親睦を促進する交流の場となっている。その他教員による留学生への学習支援は資料 D-1-1-2-15 の通り。

資料 D-1-1-2-1：英語運用力向上を目的とする授業科目

学部共通科目	2 科目	実践英語 英語コミュニケーション
コミュニケーション情報学科	7 科目	専門基礎英語 I 専門基礎英語 II 英会話 I 英会話 II 英作文 I 英作文 II 英語コミュニケーション論

（出典：平成 30 年度『学生便覧』を基に作成）

資料 D-1-1-2-2：外国語・英語による授業科目数

	学部								
	文	教育	法	理学	医	薬	工	教養	合計
外国語による授業科目数	51	20	1	10	13	15	7	64	181
英語による授業科目数	31	20	1	10	13	15	7	64	161
シラバスシステムにおいて、使用言語が「英語講義＋英語テキスト」、「英語講義＋日本語テキスト」及び「日本語講義＋英語テキスト」となっている授業科目数	30	19		10		8	7	67	141

（出典：国際戦略課・国際教育課資料）

資料 D-1-1-2-3：外国人等専任教員数

部局名	外国人等専任教員数	
	H28	H29
	(H28.5.1時点)	(H29.5.1時点)
文学部	32	
法学部	9	
大学院社会文化科学研究科	8	
大学院法曹養成研究科	5	
大学院人文社会科学部（文学系）		40
大学院人文社会科学部（文学系）（教育）		
大学院人文社会科学部（法学系）		21
大学院人文社会科学部（法学系）（教育）		
教育学部	21	21
大学院教育学研究科		
薬学部	2	2

※外国人等専任教員＝外国籍教員+海外学位取得日本人教員+海外経験1～3年の日本人教員+海外経験3年以上の日本人教員
（出典：人事課資料）

資料 D-1-1-2-4：学部学生が関わる主な交流協定大学（平成29年度現在）
（大学間学生交流協定大学）

大 学 名（国名）	派遣学生	留学予定期間	必要な語学能力等
モンタナ州立大学 （アメリカ）	3名以内	8月～翌年5月	6.0点（IELTS） 71点（TOEFL-iBT）
ニューカッスル大学 （オーストラリア）	3名以内	2月～11月	6.0点（IELTS） 80点（TOEFL-iBT）
リーズ大学 （イギリス）	5名以内	9月～翌年6月	6.0点（IELTS） *事前語学研修 5.5点（IELTS）
ダラム大学 （イギリス）	5名以内	9月～翌年6月	6.5点（IELTS） *事前語学研修 6.0点（IELTS）
シドニー工科大学	4名以内	3月から最大1学年度	6.0点（IELTS） 79点（TOEFL-iBT）
ザールラント大学 （ドイツ）	5名以内	9月または3月 から最大1学年度	ドイツ語能力証明書
ボルドー大学連合 （フランス）	5名以内	9月または1月 から最大1学年度	フランス語能力証明書
ワルシャワ大学 （ポーランド）	2名以内	10月から最大1学年度	

培材大学校 (韓国)	5名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書
東亜大学校 (韓国)	4名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書
ソウル市立大学校 (韓国)	5名以内	9月または3月から 最大1学年度	韓国語能力証明書
同済大学 (中国)	3名以内	9月または2月から 最大1学年度	中国語能力証明書
上海師範大学 (中国)	2名以内	9月または3月から 最大1学年度	中国語能力証明書
南台科技大学 (台湾)	5名以内	9月から最大1学年度	
コンケン大学 (タイ)	3名以内	11月または6月から 最大1学年度	
スラバヤ工科大学連合 (インドネシア)	協議の基に 決定	8月から最大1学年度	
ガジャマダ大学 (インドネシア)	3名以内	8月または2月から 最大1学年度	

* 募集期間：7月～11月、選考会：12月、候補者決定：1月
(部局間交流協定大学)

大 学 名 (国名)	派遣学生	留学予定期間	必要な語学能力等
ボン大学 (ドイツ)	4名以内	4月または10月から1年以内	ドイツ語能力証明書
チューリヒ大学 (スイス)	2名以内	4月または10月から1年以内	独語検定1級程度
杭州師範大学 (中国)	5名以内	3月または9月から1年以内	中国語能力証明書
淡江大学 (台湾)	2名以内	2月または9月から1年以内	中国語能力証明書
コペンハーゲン大学 (デンマーク)	平成30年度締結		

(出典：平成30年度『学生便覧』93～94頁を基に作成)

資料 D-1-1-2-5：交流協定大学への留学状況

大学	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	計
リーズ大学 (イギリス)	1	4					
ダラム大学 (イギリス)	3	1					
ボルドー大学連合 (フランス)	3	2					
ザールラント大学 (ドイツ)	1	1					
モンタナ州立大学 (アメリカ)	1	1					
同済大学 (中国)	1						
深圳大学 (中国)	1						
ニューカッスル大学 (オーストラリア)	1	1					
ハノイ貿易大学 (ベトナム)		2					
東亜大学校 (韓国)		1					

マカオ大学（中国）		1				
ソウル市立大学校（韓国）		2				
シドニー工科大学（オーストラリア）		2				
ボン大学（ドイツ）		2				
チューリッヒ大学（スイス）		1				
計	12	21				

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 D-1-1-2-6：国際奨学事業の利用状況

年度	申請者数	採用人数	研修先
H28	3	3※	ドイツ、モンゴル
H29	5	3	トルコ、中国、イタリア
H30	4	4	カンボジア、モンゴル、ウガンダ・ルワンダ、中国
計	12	10	

※採用人数は3名だったが1名辞退のため結果2名採用となる。

(出典：国際交流委員会資料)

資料 D-1-1-2-7：「異文化コミュニケーション論実習」実施状況

年度	参加人数	留学先（国）	期間
H28年度	1	オーストラリア	3週間
H29年度	9	カナダ4、イギリス1、ニュージーランド1、中国1、フィリピン1	2～5週間

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 D-1-1-2-8：教員引率による短期海外研修

年度	行先（国）	参加人数	期間（日）	備考
28年度 (27名) (*院生1)	韓国	14	3	対馬での実習発掘終了後、韓国釜山市を訪問。東三洞博物館、海洋博物館、釜山市立博物館などを見学、研修を行った。
	イタリア	13(*院生1)	8	西洋の歴史や文化に関する現地での知見の深化。
29年度 (11名)	スペイン	11	7	西洋の歴史や文化に関する現地での知見の深化。

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 D-1-1-2-9：学生の国際化アップのための指導・工夫

【平成28年度】

- ・グローバル教育カレッジ教員・学生との日常的交流促進（互いの授業への参加）（総合人間学科）
- ・留学希望学生（2名）に、フランス語及び2次面接の指導（ボルドー大学へ入学）（文学科）
- ・ドイツの大学が提供する夏季・冬季語学研修への学生の派遣、事前・事後指導の授業化（JASSO奨学金を獲得）（文学科）
- ・フランス国民教育省のフランス語資格試験「DELTA/DALF」に関する特別授業を実施（文学科）
- ・留学前の学生に「DELTA/DALF対策特別授業」を行っている（全学科学生対象）（文学科）
- ・ドイツ語研究会（中級独会話クラス）を開催（夜間、隔週）（文学科）
- ・留学英語勉強会を一年間に約40回（1回4時間）実施（コミ情学科）

- ・学科での TOEIC 勉強会を一年間で約 40 回（1 回 3 時間）実施（コミ情学科）
- ・宮崎県立福島高等学校で、合同での TOEIC 勉強会を 1 回実施した（コミ情学科）

【平成 29 年度】

- ・グローバル教育カレッジ教員・学生との日常的交流促進（互いの授業への参加）（総合人間学科）
- ・グローバル教育カレッジにて英語で発表・討論（総合人間学科）
- ・フランス国民教育省のフランス語資格試験「DELFDALF」に関する特別授業を実施。
- ・留学英語勉強会を一年間に約 40 回（1 回 4 時間）実施（コミ情学科）
- ・長崎国際大学で、合同での TOEIC 勉強会を 1 回実施（コミ情学科）

（出典：自己評価委員会・各学科収集資料）

資料 D-1-1-2-10：休暇・休学を利用したの海外渡航状況

	H28 年度	H29 年度	計
総合人間学科	ベトナム、韓国、セルビア（2）、チェコ（2）、ドイツ（2）、リトアニア、イギリス（2）、マレーシア、カンボジア（2）、フランス、米国、タンザニア、英国、インドネシア	台湾、タイ、韓国、フランス、米国、タンザニア、英国、インドネシア	27
歴史学科	モンゴル（2）、タイ、台湾、中国、フィリピン、アメリカ（2）	コスタリカ、韓国（2）、台湾（3）、中国、グアム、中国（2）、タイ（2）、ラオス（2）	22
文学科	イスラエル（1 年間）		1
コミ情学科	フィリピン、イギリス、フランス、台湾	フィリピン、英国、香港（3：海外インターンシップ）	9
計	32	24	59

* 括弧の中の数値は人数。括弧なしは 1 名。

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

資料 D-1-1-2-11：国費・私費外国人留学生の受入状況

	H28	H29	H30
国費（特別聴講学生）	1	4	
（大使館推薦）		（2）	
（大学推薦）	（1）	（2）	
私費	54	53	4
（学部学生）	（4）	（3）	（2）
（研究生）	（0）	（2）	（2）
（特別聴講学生）	（50）	（48）	
（科目等履修生）	（0）	（0）	
合計	55	57	4

（出典：人文社会科学系事務課資料）

資料 D-1-1-2-12：国費外国人留学生の国別人数

H28 年度	H29 年度
インドネシア (1)	インド (1) ブラジル (1) ルーマニア (1) タイ (1)
1	4

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 D-1-1-2-13：私費外国人留学生の身分別・国別人数

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度
学部学生	マレーシア (1) 中国 (2) 韓国 (1)	中国 (3)	中国 (2)			
研究生		中国 (2)	中国 (2)			
特別聴講 学生	インドネシア (3) 韓国 (11) 台湾 (6) 中国 (26) タイ (1) トルコ (1) ドイツ (2)	韓国 (8) 台湾 (5) 中国 (22) フィリピン (1) イタリア (1) インドネシア (2) タイ (2) フランス (2) ドイツ (3) スイス (2)				
科目等履 修生						
合計	54	53	4			

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 D-1-1-2-14：留学生のための指導教員・学生チューター

年度（部局間協定校 のみの留学生数）	H28(16)	H29(19)
指導教員	4	8
学生チューター（学 部生/院生）	12(12/0)	16(10/5)
計	19	26

* 文学部で受け入れている留学生数は毎年 50 名前後であるが、H28 年度から、大学間協定校による留学の学生に対する同種のサポートはグローバル教育カレッジが行っている。

(出典：人文社会科学系事務課資料を基に作成)

資料 D-1-1-2-15：その他留学生に対する学習支援

<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生向け授業として「Contemporary Ethical Thought」と「Advanced Ethics」を開講（総合人間学科） ・留学生の文化史課題研究ゼミへの任意参加、『課題研究報告集』への日本語小論文の投稿推進（歴史学科） ・ドイツ語研究（中級独会話クラス）を開催（学生・留学生・社会人対象）（夜間、隔週）（文学科）

・担当教員による留学中の国費留学生への学習・研究支援（コミ情学科）

【H29 年度】

- ・留学生の文化史課題研究ゼミへの任意参加、『課題研究報告集』への日本語小論文の投稿推進（歴史学科）
- ・担当教員による留学中の国費留学生への学習・研究支援（コミ情学科）

（出典：自己評価委員会・学科収集資料）

（水準）

期待される水準を上回ると判断する。

（判断理由）

- ・国際通用性のある教育課程の実施、全学部中最も多くの外国語・英語による授業、各学科での勉強会等の実施等、学生の国際化推進の活動が活発に行われている（英語の実践力・運用力を強化するための授業科目が学部共通科目2科目、コミュニケーション情報学科に7科目設定、外国語・英語による授業は全学部中最も多い）。
- ・毎年多くの学生が交流協定大学を中心に、海外への留学・研修を行っている（交流協定大学留学生数はH28・29年度ともに増加傾向；国際奨学事業制度の活発な利用；授業の一環としての海外研修（コミ情学科「異文化コミュニケーション論実習」）；教員引率による短期海外研修；学生個人としての、休暇や休学を利用した、様々な目的での海外渡航）。
- ・交流協定大学を中心とした海外の大学から留学生を積極的に受け入れ、学習支援も行っている（全学部中最も多い受入数；指導教員の配置；学生チューターによるサポート；英語によるシラバス情報提供；留学生歓迎パーティの開催等）。

以上の観点から、期待される水準を上回ると判断する。

観点1-3 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

（観点到係る状況）

海外の留学先大学で取得した単位で、帰国後に申請されている単位読み替え状況は資料D-1-1-3-1の通りだが、卒業要件単位として必要な分だけを申請するケースが多いので、表の数値は実際に留学先大学で履修している授業、取得している単位の実数ではない。

毎年、全学対象に、海外の大学に留学した学生と、大学で受け入れている外国人留学生に対して、留学前と留学後の意識調査が国際教育課で行われている。その結果から、いずれの場合も、留学することによる成果の大きさが示されている（資料D-1-1-3-2）。

海外の大学に留学した文学部学生、また文学部で受け入れている外国人留学生による留学報告が留学の成果の大きさを示している（資料D-1-1-3-3）。

留学が就職に活かされたかどうかの正式な数値データはないが、企業採用を得た学生で、面接で留学経験が高く評価されたとの複数の報告例がある（資料D-1-1-3-4）。

正規学部留学生の卒業後の進路状況（就職、進学等）は資料D-1-1-3-5の通り。

資料D-1-1-3-1：留学先大学での取得単位読み替え

	H28 年度	H29 年度
ボン大学	4	
ダラム大学		2
モンタナ州立大学		4

（出典：人文社会科学系事務課資料）

資料 D-1-1-3-2 : 留学生の留学前・留学後の意識調査結果 (H29 年度例)

＜海外留学体験日本人学生＞

留学前回答																							
1.留学前のあなたについて																							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
自分からやるべき課題を見つけ先取り組むことができる	仲間働きかけ、問題を一緒に改善するために行動することができる	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	自分なりに現状分析し課題点を具体的に提示することができる	課題に向けた解決プロセスを体系的に実行することができる	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えやアイデアを工夫して提案できる	自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらえるように伝えることができる	相手の話しやすい環境を作り、適切な意見を引き出すことができる	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重し柔軟に対応できる	チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすることができる	ストレス状況に置かれても、自分の成長機会だとポジティブに捉え、前向きに対処することができる	自分の文化背景の異なる場所でも、リーダーシップを取ることができる	リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができる	不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信することができる	自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れることができる	国内・海外を含め、外国人との交流がある	専門分野の勉強へのモチベーションがある	語学の勉強へのモチベーションがある	留学先の社会・習慣・文化に関する知識がある	政治・社会問題・国際関係について、知識・関心がある	社会での男女共同参画(男女平等)の重要性を認識している	将来の方向性・進路について、明確な考えを持っている	
1: そう思わない	3	8	4	5	7	14	8	11	1	2	3	15	34	4	9	0	29	2	3	30	19	5	15
2: どちらとも言えない	13	16	18	15	19	34	31	27	15	13	17	31	38	16	21	12	18	14	12	32	38	21	21
3: 少し思う	81	69	60	57	66	45	58	46	48	53	52	48	38	49	49	41	43	41	36	43	38	34	47
4: かなり思う	21	27	31	41	28	26	22	34	51	41	43	18	11	31	29	38	14	44	46	15	25	45	24
5: 強く思う	8	5	12	8	6	8	7	8	11	16	10	14	4	25	17	34	22	24	28	5	6	19	18
合計	126	125	125	126	126	127	126	126	126	125	125	126	125	125	125	125	126	125	125	125	126	124	125

留学後回答																							
1.留学終了後のあなたについて																							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
自分からやるべき課題を見つけ、率先して取り組むことができる	仲間に働きかけ、課題を一緒に改善するために行動することができる	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	自分なりに現状分析し、課題点を具体的に提示することができる	課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらえるよう的確に伝えることができる	相手の話しやすい環境を作り、適切な見出し出すことができる	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	チームで仕事をすると、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすることができる	ストレス状況に置かれても、自分の成長機会だとポジティブに捉え、前向きに対処することができる	自分の文化背景の異なる場所または仲間とでも、リーダーシップを取ることができる	リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができる	不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信することができる	自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れることができる	国内・海外を含めて、外国人との交流がある	専門分野の勉強へのモチベーションがある	語学の勉強へのモチベーションがある	留学先の社会・習慣・文化に関する知識がある	政治・社会問題・国際関係について、知識・関心がある	社会での男女共同参画(男女平等)の重要性を認識している	将来の方向性・進路について、明確な考えを持っている	
1：そう 思わない	0	2	0	0	4	4	1	2	0	2	2	4	12	1	0	0	5	3	0	3	4	3	5
2：どち らとも言 えない	2	5	5	5	8	19	7	7	4	3	6	12	25	3	3	1	9	2	0	8	13	12	23
3：少し そう思う	46	35	45	42	46	41	52	54	29	38	41	36	48	40	26	18	43	28	12	48	49	36	40
4：かな りそう思 う	57	62	54	60	51	36	44	38	66	56	54	41	31	44	43	49	30	45	54	38	31	37	33
5：強く そう思う	19	20	21	18	16	24	21	24	26	26	23	33	9	36	53	57	38	46	59	28	27	37	24
合計	124	124	125	125	125	124	125	125	125	125	126	126	125	124	125	125	125	124	125	124	125	125	125

<熊本大学受入れ外国人留学生>

留学前回答																							
1. 留学前のあなた自身について																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	自分からやるべき課題を見つけて先取りむことができる	仲間に働きかけ、課題を一緒に改善する行動ができる	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	自分なりに現状分析し課題を具体的に提示することができる	課題に向けた解決プロセスを体系的に実行することができる	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えやアイデアを工夫して提案できる	自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらえるように伝えることができる	相手の話し方や環境を作り、適切な意見を引き出すことができる	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	チームで仕事をすると、自分と周囲の人々や物事との係性を理解することができる	その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすることができる	ストレス状況に置かれても、自分の成長機会とポジティブに捉え、前向きに対処することができる	自分の文化背景の異なる場所でも、リーダーシップを取ることができる	リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができる	不十分な外国語であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信することができる	自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れることができる	国内・海外を含めて、外国人との交流がある	専門分野の勉強へのモチベーションがある	語学の勉強へのモチベーションがある	日本の社会・習慣・文化に関する知識がある	政治・社会問題・国際関係について、知識・関心がある	社会での男女共同参画(男女平等)の重要性を認識している	将来の方向性・進路について、明確な考えを持っている
1. Disagree	0	0	0	0	0	1	0	4	1	0	0	0	3	2	0	0	5	1	0	6	2	0	1
2. Neutral	3	0	1	3	4	8	9	7	2	2	1	5	9	4	5	1	8	2	4	19	12	3	8
3. Somewhat Agree	10	10	10	14	20	18	24	22	8	16	15	14	18	23	15	6	13	11	16	27	21	9	24
4. Agree	42	40	44	46	36	42	39	33	37	53	55	37	38	43	36	36	33	34	41	31	41	36	30
5. Strongly agree	37	40	36	28	31	22	21	27	44	22	22	37	23	19	36	49	33	44	30	10	16	44	29
Total	92	90	91	91	91	91	93	93	92	93	93	93	91	91	92	92	92	92	91	93	92	92	92

留学後回答																							
1. 留学終了後のあなた自身について																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	自分からやるべき課題を見つけて先取りむこうができる	仲間に働きかけ、課題を一緒に改善する行動ができる	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	自分なりに現状を分析し、課題点を具体的に提示することができる	課題に向けた解決プロセスを、計画的に実行することができる	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えやアイデアを工夫して提案できる	自分の意見や考えを、相手に伝えることができる	相手の話をしやすく、環境を作り、適切な見出しや場を尊重して柔軟に対応できる	自分の意見や考えを、相手に出すことができる	チームで仕事をすると周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切に行うことができる	ストレス状況に置かれても、自分の成長機会とポジティブに捉え、前向きに対処することができる	自分の文化背景の異なる場所でも、仲間とリーダーシップを取ることができる	リスクがあっても、挑戦してみることができ	不十分な外国語であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信することができる	自分とは異なる信仰や文化的背景を持つ人々を理解し、受入れることができる	国内・海外を含め、外国人との交流がある	専門分野の勉強へのモチベーションがある	語学の勉強へのモチベーションがある	日本の社会・習慣・文化に関する基礎的な知識がある	政治・社会問題・国際関係について、知識・関心がある	社会での男女共同参画(男女平等)の重要性を認識している	将来の方向性・進路について、明確な考えを持っている
1. Disagree	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0
2. Neutral	0	0	0	0	0	1	3	2	0	1	0	0	2	1	0	0	3	2	2	6	4	1	4
3. Somewhat Agree	4	1	5	4	7	10	7	11	8	3	6	3	10	7	7	3	2	7	5	11	7	6	12
4. Agree	37	36	35	49	52	41	48	41	37	43	43	37	40	36	32	39	41	32	41	43	43	41	37
5. Strongly agree	52	55	53	41	35	41	36	37	48	46	45	54	42	49	55	51	45	52	45	34	39	46	40
Total	93	92	93	94	94	93	94	93	93	93	94	94	94	93	94	94	93	93	93	94	94	94	93

(出典：国際教育課資料)

資料 D-1-1-3-3：海外への留学生・海外からの留学生の声（平成 29 年度例）

◆自分の関心分野を学内外で学べるベストの環境で同じゴールを見据える
 たくさんの仲間に出会えた
 コミュニケーション情報学科・コミュニケーション情報コース4年
 留学先 リーズ大学(イギリス)

Sustainability(持続可能性)を学ぼうと研究機関のあるリーズ大学に応募しました。初めての土地で初めての留学、寮生活、そして初めて学ぶ分野。最初は言語の壁を感じる毎日でした。しかし自分の関心分野を学内外で学べるベストの環境に身を置き、やりたいこ

とに取り組み、社会に変化を起こそうとする多くの学生や社会人に会い、刺激を受けました。そして Sustainability という将来の軸と、同じゴールを見据える仲間を得ました。未来の指針とたくさんの同志に出会えたことは私の財産です。留学はあっという間に過ぎたようで、一番長く濃い 10 カ月間でした。これからの目標は、持続可能性の分野で修士号を取得し、ビジネスを通じて生活に持続可能性を広めるリーダーとなることです。

◆自分の知らない世界を発見することが重要

歴史学科・世界システム史学コース4年

留学先 ボルドー第三大学(フランス)

留学先で、実際に見聞きし、肌で感じると、それまでの考え方と現実とのギャップに気づくことができます。画面や文字だけで世界を判断するのでは全く不十分。楽しい経験以上に辛い経験もしましたが「百聞は一見に如かず」だと実感しました。皆さんも文学部で実り多き留学期間を送ってみませんか。

◆日本語の言葉遣いの中にある「思いやり」に関心

文学科日本語・日本文化研修留学生コース

アイルランガ大学(インドネシア)からの留学生

国本語を上達させるため日本語学の研究をしています。研究や日本の文化を直接体験して気づいたことは、日本人の「思いやり」。日本語の言葉遣いでは日本人の「思いやり」が描かれていることにとっても感心します。将来は、日本語学の教授としてインドネシアと日本の架け橋となる仕事がしたいです。

◆日本の電子エンターテインメントをポーランドで紹介したい

文学科日本語・日本文化研修留学生コース

ワルシャワ大学(ポーランド)からの留学生

日本の伝統文化は世界中で賞賛されています。特に日本人のそれぞれの時間の使い方は独創的で、日本人が好きな電子エンターテインメントには無限の可能性が広がります。日本では茶道や文学だけでなく、テーマパークやゲームセンターで楽しむことができるとポーランドで紹介したいですね。

(出典：『2017年度 文学部案内』50頁)

資料 D-1-1-3-4：留学経験が就職に活かされた例(学生コメント)

- ・半年ボン大学に留学。その後大手メディアに就職決定。就職試験でドイツ留学の経験が評価された。(平成28年度)
- ・ワルシャワ大学に半年留学。希望していた学芸員のポストを獲得。留学先で培った経験が評価された。(平成29年度)
- ・ボルドー大学に留学。希望企業採用。留学のため、在学中にフランス語を猛勉強したことが面接時に評価された。(平成30年度)
- ・ボルドー大に留学。大手画廊に採用。留学経験が評価された。(平成30年度)

(出典：自己評価委員会・学科収集資料)

資料 D-1-1-3-5：正規学部留学生の卒業後の進路状況(就職、進学等)

年度	進学	就職(日本国内)	就職活動継続	帰国	留学	(休学)	計
H28年度(4年次生6名)	0	1	1	1	0	3	7
H29年度(4年次生6名)	1	0	1	0	1	3	6
計	1	1	2	1	1	6	13

(出典：国際教育課・人材交流支援資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

・海外の留学先大学で取得した単位の読み替えが行われている（注：卒業要件単位として必要な分だけを認定申請する人が多いので、学生が留学先大学で実際に履修・取得している単位数ではない）。

・海外の留学先大学における留学経験の成果の大きさ・満足度の高さが示されている（留学前・留学後の学生の意識調査（国際教育課実施）の結果、様々な面において意識の向上が見られる；留学がいかに貴重な経験になったかの報告（文学部 HP）；採用された複数の学生から、就職の面接で留学経験が高く評価されたとの声がある）。

・文学部で受け入れている外国人留学生の満足度の高さが示されている（留学前・留学後の外国人留学生の意識調査（国際教育課実施）の結果が示す高い満足度）。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 1 - 4 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

海外の大学への学部学生の留学状況・成果、文学部で受け入れている外国人留学生の活動状況・留学成果ともに良好であり、現在のところ特に改善を必要としていない。海外の交流協定大学の開拓も行われており、H30 年度に、デンマークのコペンハーゲン大学との部局間交流協定が締結され、学生の海外留学の場がさらに広げられた。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

海外の大学への学部学生の留学状況・成果、文学部で受け入れている外国人留学生の活動状況・留学成果ともに良好であり、現在のところ特に改善を必要としていない。海外の交流協定大学の開拓も適切に行われている（平成 30 年度に、デンマークのコペンハーゲン大学との部局間交流協定が締結）。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(判定結果) 改善・向上している。

(判断理由)

以下の点において、質の向上及び活動の成果が見られる。

1. シラバス情報が改善されている（平成 27 年度に試験的に始まった英語によるシラバス情報の提供が、平成 28・29 年度とさらに改善・整備された。）

2. 交流協定大学に留学する学生数が増加傾向にある（平成 27 年度 10 名、平成 28 年度 12 名、平成 29 年度 21 名（資料 D-1-1-2-4））。

3. 海外の交流協定大学の開拓が適切に行われ、学生の留学を促進する環境を改善・向上させている（平成 30 年度に、デンマークのコペンハーゲン大学との部局間交流協定を締結）（資料 D-1-1-2-3）。

V 管理運営の領域に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

文学部の教員個人が取り組むべき管理・運営活動の主旨・目的は、1. 全学及び学部委員会への貢献、2. 学部運営に係る活動の充実、3. 研究室等における安全衛生管理の取り組み、4. 広報活動への貢献である（『文学部規則集』40頁）。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者として、在学生、受験生、関係高校、保護者があり、学部の管理・運営の充実、及びそれについての十分な情報提供が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

管理運営に関しては、以下の点において優れている。

1. 管理運営等に関わる体制は適切かつ十分に整っている。運営会議、各種委員会、事務組織の三者の間には連携体制も構築されている。管理運営組織及び事務組織は適正な規模・機能を有しており、また危機管理に関しても、コンプライアンス及び災害への備え等の対応が組織的に行われている。管理運営全般に関わる諸規則も明確に規定されている。
2. 事務職員は、管理運営に関わる職務スキルや能力を向上させるための種々の研修に積極的に参加し、事務組織が十分な任務を果たすことができるよう努めている。事務職員が陪席する文学部内の会議数も、平成 28 年度は 7 会議、平成 29 年度には 8 会議に増え、学部の管理運営体制がさらに整備・改善されている。
3. 総合的な活動に関する自己点検・評価のための実施要領が明確に定められており、自己点検・評価を行う上での実施体制も十分に整っている。
4. 外部資金申請及び管理・運用のための説明会（「科学研究費助成事業公募要領等学内説明会」「文系研究者向け科研費セミナー」「研究費の執行等に関する説明会」「寄附金の経理等に関する説明会」等）にも教職員は積極的に参加している。また、URA による科研費説明会を教授会の際に開催するなどの工夫をしている。
5. 教育研究活動等についての情報の公表及び説明責任に関しては、各年次学生に対するガイダンスの実施、教務関係の行事スケジュールの周知徹底、入試説明会での説明、文学部 HP ほか、文学部及び全学発行の刊行物などによって学内外に適切かつ充分になされており、説明責任も十分に果たされている。
6. 入学者受け入れ方針、カリキュラム編成方針、学位授与方針が適切に定められ、適切に公表・周知されている。
7. 無線 LAN 環境及びその継続的な整備、学生が利用可能なパソコン台数、教員・学生からの継続的な改善要望に対する対応など、教員及び学生の教育・研究活動を展開する上で必要な ICT 環境の整備・改善が適切になされている。
8. 教員・学生が利用できる文学部専用の図書室があり、約 7 万冊に及ぶ図書が配架され、最適の図書利用環境が整っている。また、各履修モデル（分野）の学生研究室には学術雑誌を中心とした図書が配置され、さらに各教員研究室に配置されている図書も学生は利用することができる。
9. 各履修モデル（分野）の学生研究室は平日・休日ともに開放され、学生の自主学習・交流の場として中心的に機能している。学生研究室には多くの情報機器、無線 LAN も整備されている。
10. メディア演習室、ロビー学生室なども整備され、学生が自主学習のために利用でき

る。ロビー学生室には平成 25 年度から学生用コピー機も設置され、いつでも使用できる状態にある。メディア演習室は平成 25 年度に 2 室に増設され、映像機器、視聴覚教材を利用した自主学習に最適の学習環境となっている。

【改善を要する点】

文・法棟における施設の老朽化に伴う改修、文・法棟 1 階における男子トイレ設置、視聴覚機材の更新など、学生の学習環境その他に関わる整備・改善を要する部分がある。今後、予算要求等を通して改善を進めていく。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 1-1 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

教育課程の編成、学生の入学・卒業及び教員人事等に関する事項を審議するため、教授会を設置している。さらに教授会の下に運営会議を設置し、学部の基本方針及び管理・運営に関わる重要事項を審議している。また、平成 28 年度には、学部の将来構想について企画立案を行う「組織戦略委員会」を立ち上げ、構成員の過半数の推薦による委員を選出し、文学部の行動計画等について審議し、文学部運営会議・文学部教授会に議案を提出している。

事務組織として「人文社会科学系事務課」を置き、課長、副課長、総務担当及び教務担当を配置している（資料 E-1-1-1-1）。この管理運営組織に加え、事務組織及び各種委員会があり、互いに連携体制を構築している（資料 E-1-1-1-2）。

各種会議の開催日及び事務課からの参加者状況は資料 E-1-1-1-3 の通り。

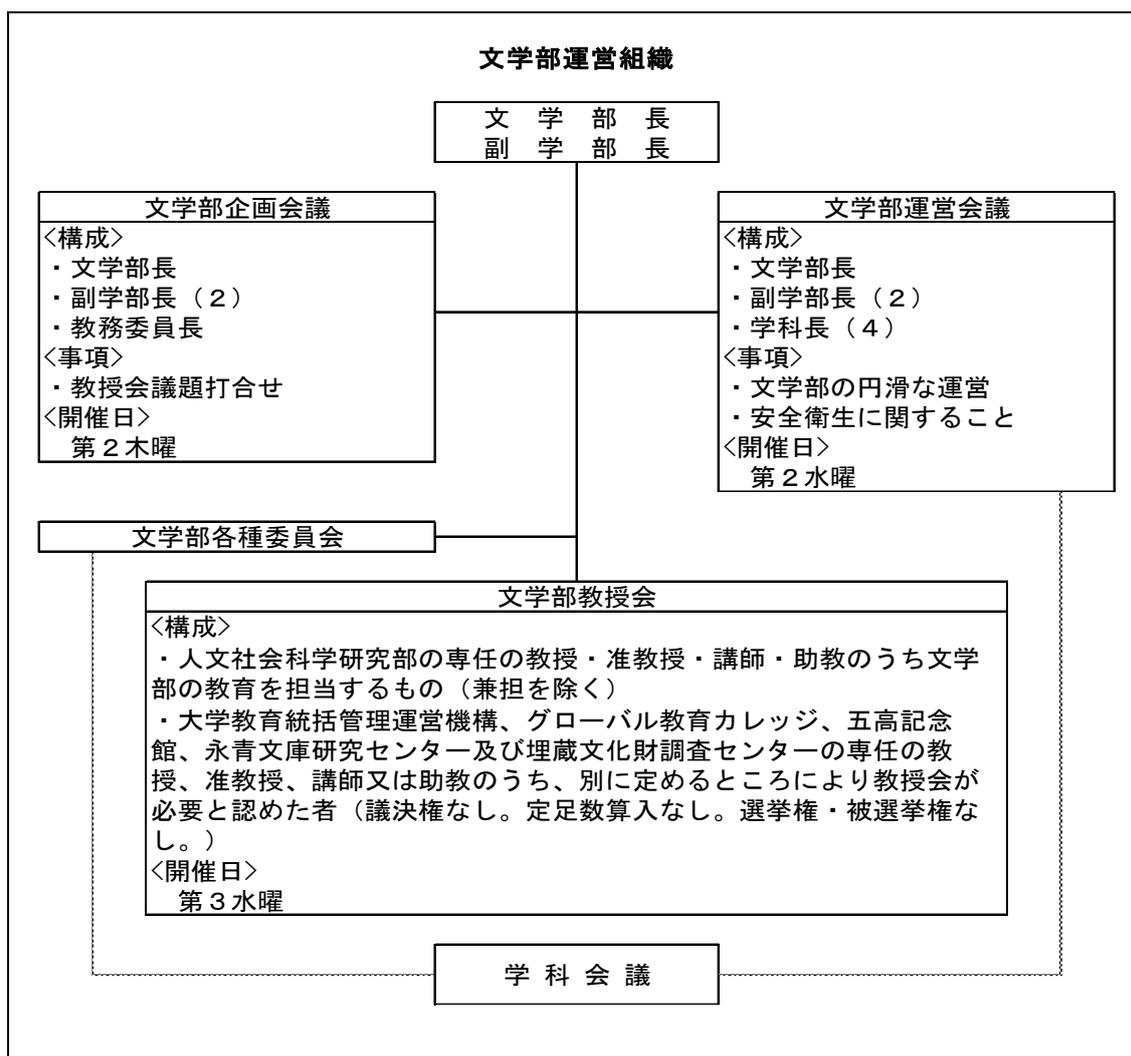
災害への備えとしては、本学部を含む人文系四部局において緊急連絡網を整備し、不測の事態に備えるとともに、「地区隊自衛消防組織」を編成し、平成 23 年度以降、隔年で消防・防災訓練を実施し、多数の学生・教職員が参加している（資料 E-1-1-1-4・5）。

研究費の不正防止については、「国立大学法人熊本大学における研究不正の防止等に関する規則」に基づいて管理体制を構築し、安全衛生管理者からの指摘に対し、速やかに対策を講じている（資料 E-1-1-1-6）。

文学部棟におけるエコ環境推進活動も、施設・環境委員会省エネルギー推進ワーキング委員及び省エネルギー推進員で構成される黒髪北キャンパス省エネルギー等対策委員会を中心に推進されている。全学の施設・環境委員会での審議・方針に沿って、黒髪北キャンパスをひとつの単位としつつ、文学部でも省エネルギー対策に努めている。

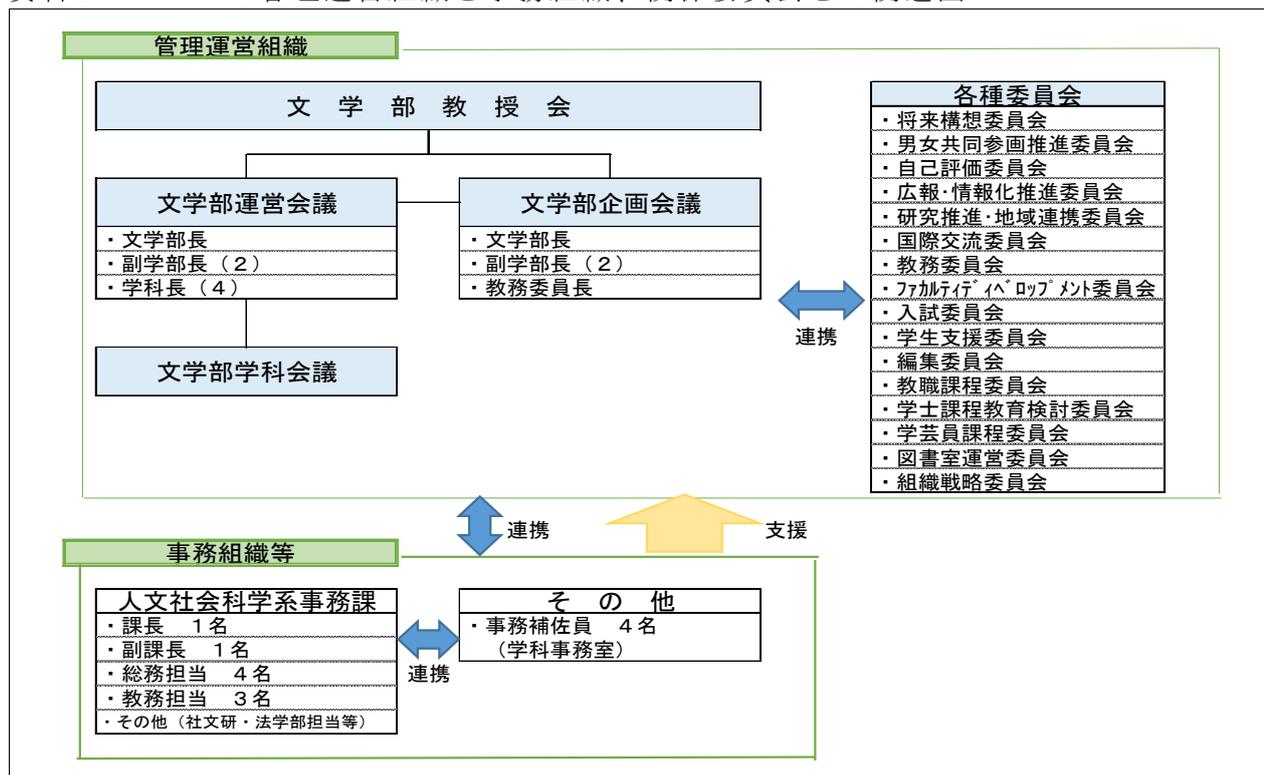
管理運営全般に関わる諸規則は『文学部規則集』の目次一覧でよく示されている（資料 E-1-1-1-7）。

資料 E-1-1-1-1 : 文学部運営組織



（出典：「熊本大学文学部規則」より抜粋）

資料 E-1-1-1-2：管理運営組織と事務組織、関係委員会との関連図



(出典：人文社会科学系事務課資料)

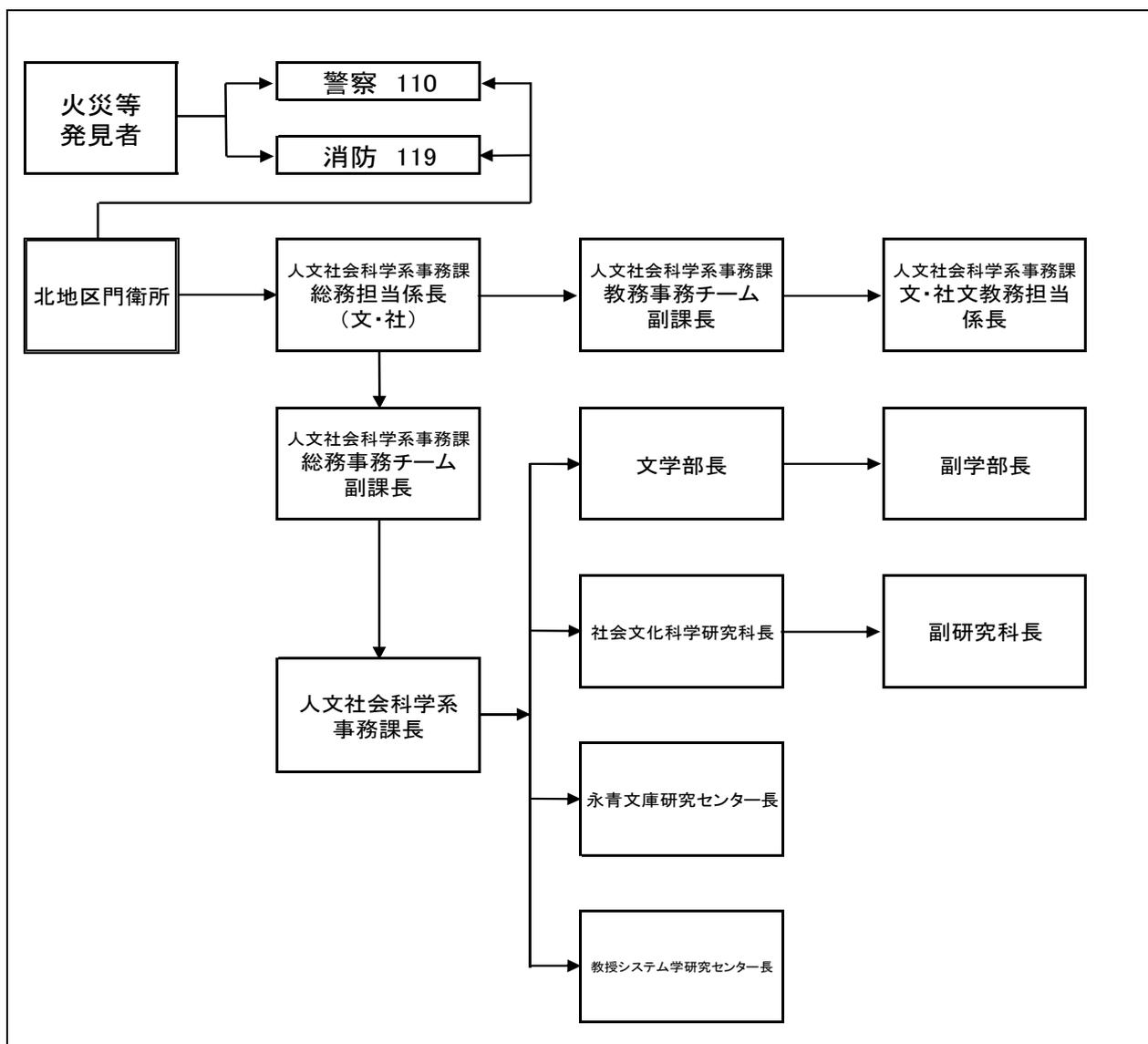
資料 E-1-1-1-3：各種会議の開催日及び事務課からの参加者状況

会議名	開催日	課長	副課長	文・社文総務	文学部教務
教授会	第3水曜日	○	○	◎	○
運営会議	第2水曜日	○	◎	○	○
企画会議	第2木曜日	○	○	○	○
教務委員会	第2水曜日			○	◎
組織戦略委員会	不定期	○	○	○	○
入試委員会	不定期				◎
広報・情報化委員会	不定期				○
国際交流委員会	不定期				○

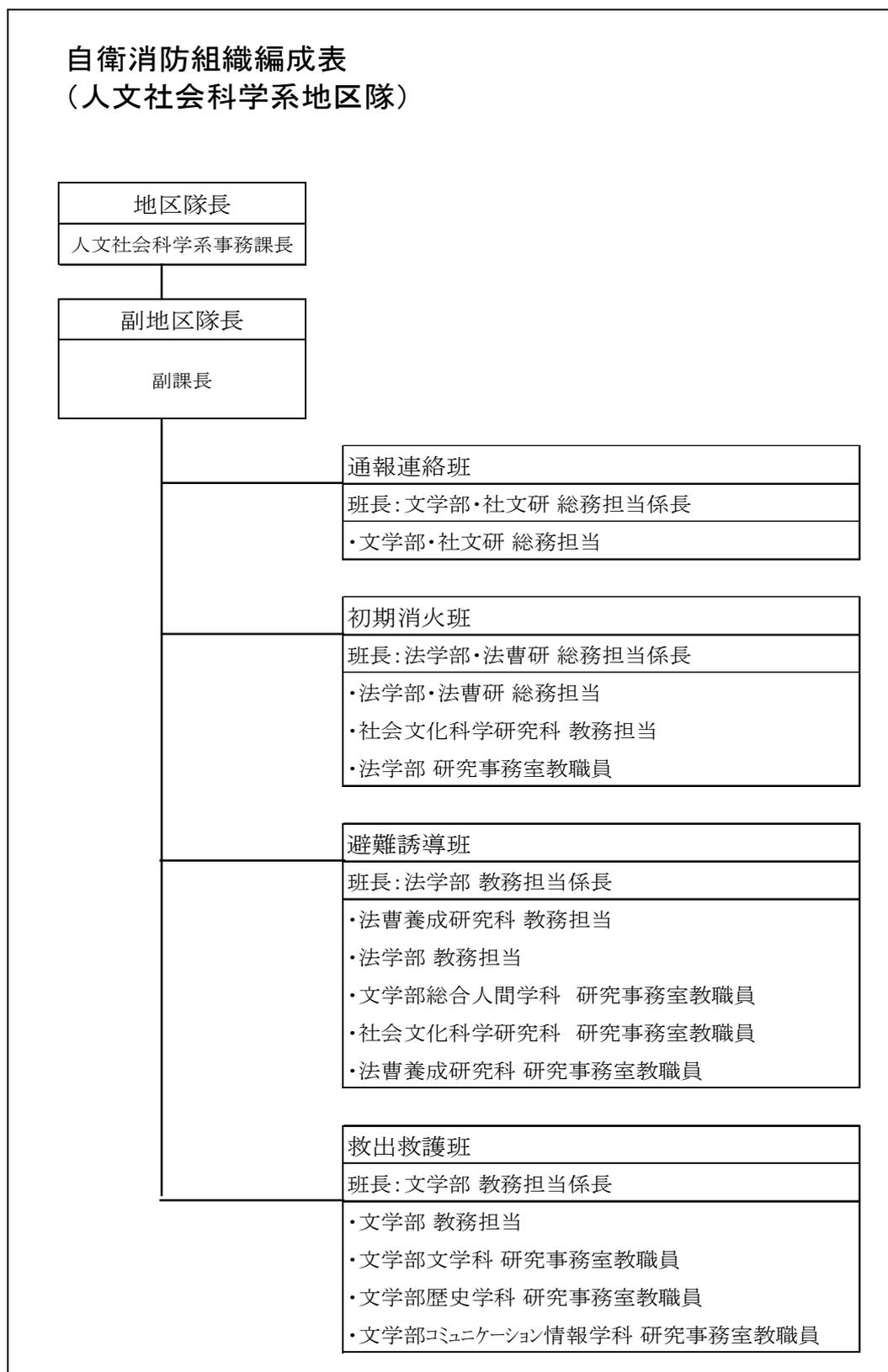
◎は議事要録作成者

(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 E-1-1-1-4 : 災害発生時における緊急連絡網の整備状況

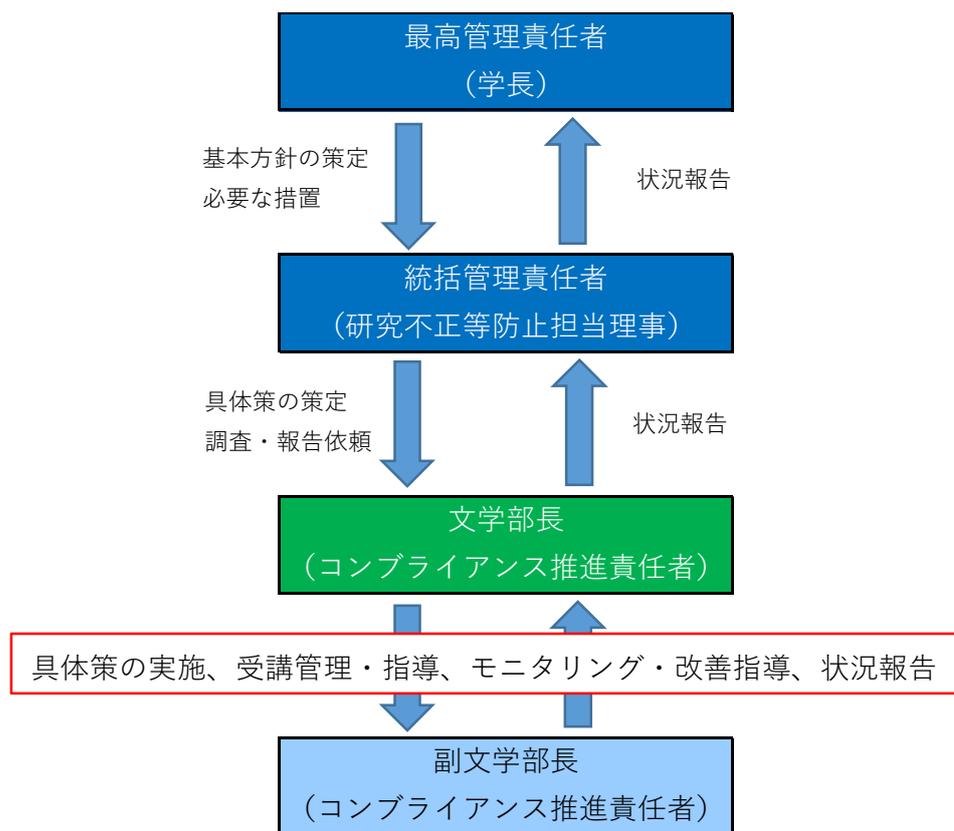


(出典：人文系四部局における緊急連絡網)



(出典：自衛消防組織編成表 (人文社会科学系地区隊))

資料 E-1-1-1-6 : 文学部における競争的資金の管理体制



(出典 : 「熊本大学における競争的資金等の管理等における責任体制図」より抜粋)

資料 E-1-1-1-7 : 『文学部規則集』目次内容一覧

<p>第 1 章 管理運営組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理運営組織 ○文学部規則 ○文学部教授会規則 ○大学教育統括管理運営機構、グローバル教育カレッジ、五高記念館、永青文庫研究センター及び埋蔵文化財調査センター教授等の文学部教授会所属に関する申合せ ○文学部教授会運営に関する申合せ ○文学部学科長に関する規則 ○文学部における副学部長、全学各種委員会委員及び文学部各種委員長等の選出に関する申合せ ○文学部図書室等利用規則 <p>第 2 章 人事</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学部長候補者推薦要項 ○文学部と社会文化科学研究科との協力関係についての文学部における申合せ事項 ○文学部から社会文化科学研究科へ移籍した教員の人事について ○文学部における成績優秀者の基準 ○文学部昇給区分 (A・B) 基準の運用に関する申合せ ○文学部における教育活動表彰要領 ○文学部教員の個人活動評価実施要領

- 文学部研究専念期間に関する細則
- 文学部研究専念期間に関する申合せ

第3章 予算

- 文学部予算配分原則、申合せ等
- 文学部国際学会等発表助成制度に関する申合せ
- 文学部学術研究推進経費の公募要項
- 文学部海外研修助成制度に関する申合せ

第4章 入試

- 推薦入学試験実施に関する申合せ
- 文学部留学生面接試験実施申合せ
- 私費外国人留学生の合否選考基準について
- 文学部第3年次編入学試験合格基準

第5章 教務

- 文学部履修細則
- 文学部論文試験細則
- 論文試験細則の申合せについて
- 卒業論文題目変更について
- 受講制限の申合せについて
- 他の大学における修得科目の単位認定について
- 文学部「授業改善のためのアンケート」実施基準
- ティーチング・アシスタント（TA）制度の運用について

第6章 学生生活支援

- 外国人留学生奨学金選考基準
- 文学部国際奨学事業実施要領

(出典：『平成29年度文学部規則集』)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・教育課程、組織運営等に関わる事項を審議する教授会を置き、その下に運営会議を設置し、適切な体制・運営がなされている。関連の委員会及び事務組織との連携体制も適切に構築されている。
 - ・管理運営組織及び事務組織は適正な規模・機能を有している。
 - ・危機管理に対しては、災害への備え等に関して組織的に対応する体制が整っている。
 - ・学部内の省エネ活動の体制が整備されている。
 - ・管理運営全般にかかわる諸規則も『文学部規則集』に明確に規定されている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点1-2 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

H28 年度の「学長と学生代表による懇談会」で文学部学生から出された学習環境関係の要望に対して、学部側の回答が適切になされている(資料 E-1-1-2-1)。

文学部のオープンキャンパスは、文学部広報・情報化推進委員会が中心となり、毎年、高校の夏休み期間である 8 月に開催されているが、それに合わせて、H25 年度から保護者説明会を行い、「質問票及びアンケート」を配布し、保護者の立場からの意見を集約している。そこで出される学部の管理運営や在学生の情報提供等についての意見は、可能な限り、学部の管理運営に反映させることにしている。

資料 E-1-1-2-1：平成 28 年度「学長と学生代表による懇談会」内容抜粋

● 文法棟は、全体的に通信環境 (Wi-Fi) が悪いので改善してほしい。

【回答】

文法棟に設置されている WiFi 用のアクセスポイント (AP) の数 (の割合) は、他の棟より少ないことはありません。ただ、文法棟の改修により、部屋の扉が鉄製になったため WiFi 電波の入りが悪い部屋もあるようです。そのため、電波強度を調べて欲しいという場所を、今までに何箇所か調査しました。その結果を学部で考慮して、必要があると判断された場合は AP を増設されています。教室などで WiFi の電波が届きにくい場所がありましたら、学部の教務担当へご相談ください。

● 特に 1、2 年生が自習スペースとして利用できる部屋を増やしてほしい。

【回答】

全学教育棟では、C103 自習室、C105 自習室、PC 演習室 (9 教室) の自習スペースを設置しております。また、図書館にも、PC 室やラーニングコモンズ PC コーナーがあります。是非、学習に活用してください。

● 生協以外の食堂を設置してほしい。

【回答】

黒髪の北地区食堂 (約 300 席) が廃止されましたが、くすの木食堂 134 席を新設しました。現在、多くの学生が学外のコンビニ等へ流れていることを調査し、現状を把握していますので、改善策について検討しています。

● 自由に利用可能なプリンタをもっと設置してほしい。

【回答】

全学教育棟 PC 室、図書館の共用スペースには、それぞれプリンタを設置しています。増設については、利用量をみながら検討したいと思います。

● 雨の日に水溜りが多いので、構内の道を整備してほしい。

【回答】

劣化が著しい場所から順次整備しています。気づいた場所は所属の部局事務へお知らせ下さい。

● 夜は学内が暗いので外灯を増やしてほしい。

【回答】

外灯の点灯状況は定期的に巡回を行い、異常がある場合は対応を行っています。特に暗いところなど気づいた場所は所属の部局事務へお知らせ下さい。

● 屋根付きの駐輪場を増やしてほしい。

【回答】

駐輪場等の整備については、各地区交通対策委員会と協力して検討していますが、整備予算やスペースを確保するため、早急な改善は困難な状況です。

(出典：人文社会科学系事務課資料：「H28 年度学長と学生代表による懇談会資料」より抜粋)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・学習環境全般に関わる学生の意見・要望、さらには学外者としての保護者の意見・要望を直接に聞く機会が設けられ、その把握が十分に図られている。
 - ・上記の意見・要望に対しては具体的な対応がなされ、出された意見を学部の管理運営・教育環境に適切に反映させている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点1-3 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に係る職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

管理運営のための事務組織を十分に機能させるべく、事務職員は種々の研修に参加している(資料E-1-1-3-1)。

また、学内で実施される情報セキュリティ研修、ハラスメント対応研修、科研費獲得研修、研究不正防止研修などにも、教員及び事務系職員ともに積極的に参加しており、学部の管理運営に関する教職員の資質の向上に努めている。

資料 E-1-1-3-1：事務職員の研修参加状況

職名	参加者数(人)*		主な研修プログラム(主催)
	H28年度	H29年度	
事務課長	0	2	・熊本大学課長・副課長級職員を対象とした研修(学内) ・情報セキュリティ研修(事務部門指導者コース)(学内) ほか
副課長	1	4	・人事・労務関係実務担当者を対象とした研修(学内) ・熊本大学課長・副課長級職員を対象とした研修(学内)ほか
係長	2	0	・人事・労務関係実務担当者を対象とした研修(学内)
主任	1	0	・熊本大学学務系職員研修会(学内)
係員	9	5	・新採用事務職員研修(学内) ・採用2年次事務職員フォローアップ研修(学内) ・採用3年次事務職員フォローアップ研修(学内) ・熊本大学中堅職員研修(学内) ・熊本大学学務系職員研修会(学内) ・人事・労務関係実務担当者を対象とした研修(学内) ・九州地区学生指導研修会(学内) ・労務関係実務担当者を対象とした研修(学内) ・共通スキル育成研修「英語研修(海外集中レッスン型)」(学内)
事務補佐員	0	0	
計	12	11	*参加者数は延べ人数

(出典：人文社会科学系事務課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

事務職員は種々の研修に積極的に参加し、部局の管理運営の向上に努め、事務組織としての任務を十分に果たすべく努めている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

分析項目 II 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 2-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価のための「個人活動評価」実施要領が明示されている(資料 E-2-2-1-1)。学部の自己点検・評価を行う上での実施体制は資料 E-2-2-1-2 の通り。

資料 E-2-2-1-1 : 「個人活動評価」実施要領

文学部における教員の個人活動評価実施要領

[平成 30 年 1 月 17 日一部改正教授会承認]

この要領は、熊本大学における教員の個人活動評価実施要項に基づき、文学部における教員の個人活動評価を実施するために必要な事項を定めるものである。

1 評価領域及び評価の観点

(1) 本学部の評価は、(1)教育、(2)研究、(3)社会貢献、(4)管理運営
以上 4 領域において行う。

(2) 学部長は設定した評価領域の区分ごとに、教員基礎データの項目の中から学部の特性等を考慮して評価の観点を設定する。この場合、教育、研究、社会貢献、管理運営の領域の観点は、「別表 2」に掲げる評価の観点を標準とする。

2 学部活動目標の提示

学部長は、個人活動評価を実施するにあたり、あらかじめ学部の目標を所属教員に提示する。

3 3年間の活動目標、年度計画及び努力配分の設定

(1) 3年間の活動目標、年度計画等の設定及び達成状況の自己評価等、個人活動評価の実施に係るスケジュールは、「別表 1」に基づき具体的な日程を学部長が設定する。

(2) 3年間の評価期間の初年度の設定

教員は、学部長が示す学部の目標及び教員個人の過去の実績を踏まえ、3年間の評価期間の最初の年度の当初(4月末日まで)に、評価領域の区分ごとに、3年間の活動目標を設定し、個人活動(自己)評価書(別記様式 1)(以下「個人活動評価書」という。)に記入する。

(3) 各年度の年度当初の設定

教員は、毎年度の当初(4月末日まで)に、評価領域の区分ごとに、当該年度の努力配分及び年度計画(活動に係る取組方法、具体的プロセス等)を、個人活動評価書に記入する。

(4) 教員は、上記(2)又は(3)を記入した後、学部長が指定する期日までに学部長へ提出する。

(5) 努力配分は、原則として次のように設定する。

	教 授	准教授・講師	助 教
教 育	20～50	20～40	20～40
研 究	20～40	20～50	20～40
社会貢献	10～30	10～30	10～20
管理運営	20～30	10～20	10～20

※各領域の努力配分の合計が100となるように設定する。

(6) 活動目標等の修正

学部長は、適正な活動目標及び年度計画の設定のため必要があると認めるときは、教員から意見聴取を行い、当該教員に対し、活動目標及び年度計画の修正を求めることができる。

4 評価の実施

(1) 教員による自己評価

- 自己評価にあたっては、学部が設定する評価の観点並びに「別表2」に掲げる評価の観点を参考に行う。
- 教員は、3年間の評価期間の1年目及び2年目の年度末において、評価領域ごとに年度計画の達成状況について自己評価を行い、個人活動評価書に記入(最大300文字まで可)する。また、下記の「表1」に基づき、自己判定を記入する。
- 教員は、3年間の評価期間の3年目の年度末においては、評価領域ごとに年度計画及び3年間の活動目標の達成状況について自己評価を行い、個人活動評価書に記入(最大300文字まで可)する。また、下記の「表1」に基づき、自己判定を記入する。
- 教員は、上記2)、3)による自己評価を行った後、作成した個人活動評価書及び教員個人活動情報(教員基礎データ)等の評価資料を添えて、年度末までに学部長へ提出する。

「表1」 教員による自己評価の判定

評 語
A：十分に目標を達成できた
B：おおむね目標を達成できた
C：目標を達成できなかった

(2) 学部長による評価

- 学部長は、評価期間1年目及び2年目の終了時点において、教員から提出された個人活動評価書及び教員個人活動情報等に基づき、年度計画の達成状況を確認し、必要に応じ、教員から取組状況等を聴取することができる。
- 学部長は、評価期間3年目の終了時点において、教員から提出された個人活動評価書及び教員個人活動情報等並びに評価の観点に係る取組状況等を踏まえ、教員の年度計画及び3年間の活動目標の達成状況を分析するとともに、必要に応じ、教員から意見聴取を行う等、十分な検証を行い、評価領域の区分ごとの達成状況の評価を行う。
- 学部長は、上記2)の評価した結果について、個人活動評価書に「優れた点」、「改善を要する点」等を所見として記入するとともに、下記の「表2」に基づき、評定を記入した後、5月末までに教員へ通知する。

「表2」 学部長による評価の評定

評 語
3：特筆すべき成果を上げた
2：一定の成果を上げた
1：改善を求める

「別表1」教員個人活動評価実施スケジュール

対象者	教員個人活動評価実施項目		評価期間														
			1年目					2年目					3年目				
	TSUBAKIへの入力時期	TSUBAKIへの入力項目	4月	5月	→	2月	3月	4月	5月	→	2月	3月	4月	5月	→	2月	3月
教員 (被評価者)	評価期間(3年間に1回入力)	今期3年間の活動目標	1年目の4月末まで										3年目の年度末まで				
		3年後の今期の自己評価															
	毎年度入力	当該年度計画	4月末まで					4月末まで					4月末まで				
		当該年度努力配分	4月末まで					4月末まで					4月末まで				
		年度達成状況(自己評価)	年度末まで					年度末まで					年度末まで				
		自己判定	年度末まで					年度末まで					年度末まで				
教員基礎データ	追加、変更等随時					追加、変更等随時					追加、変更等随時						
部局長 (評価者)	評価期間(3年間に1回入力)	前期3年間の自己評価	教員が作成した前期の自己評価の内容を確認する														
		部局長等所見	前期活動状況に対し所見及び評定を記入し5月末までに教員へ通知														
		評定	前期活動状況に対し所見及び評定を記入し5月末までに教員へ通知														
	毎年度実施	今期3年間の活動目標	教員が作成した今期の活動目標の内容を確認する														
		当該年度計画	教員が作成した計画・努力配分の内容を確認					教員が作成した計画・努力配分の内容を確認					教員が作成した計画・努力配分の内容を確認				
		当該年度努力配分	教員が作成した計画・努力配分の内容を確認					教員が作成した計画・努力配分の内容を確認					教員が作成した計画・努力配分の内容を確認				
年度達成状況(自己評価)		教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認					教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認					教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認					
自己判定	教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認					教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認					教員が作成した前年の自己評価の内容等を確認						
教員基礎データ	評価の参考として確認					評価の参考として確認					評価の参考として確認						

(3) 評価に対する申し立て

- 1) 教員は、個人活動評価書に対して意見があるときは、学部長が通知を発した日から10日以内に、学部長に意見を申し立てることができる。
- 2) 教員から個人活動評価書に対する意見の申し立てがなかった場合は、通知を行った日から10日後に評価が確定するものとする。また、意見の申し立てがあったときは、学部長は意見申立書を受理した日から20日以内に当該教員から意見を聴取し、再度検証した上で評価を確定し、個人活動評価書を速やかに当該教員へ通知する。
- 3) 学部長は、個人活動評価の状況を個人活動評価報告書にまとめ、6月末までに学長へ報告する。
- 4) 教員は、評価の最終結果について異議がある場合は、7月1日から同月10日までの間に、学長に異議申し立てを行うことができる。

5 評価結果等の活用

- (1) 学部長は、個人活動評価の結果を踏まえ、特に高い評価を受け優れた活動を行っている教員に対して表彰等の措置を行うことができる。
 なお、評価期間の1年目及び2年目についても、教員から提出された個人活動評価書及び評価資料等を用いて、教員に対して表彰等の措置を行うことができる。
- (2) 学部長は、特に評価が低い教員に対して活動改善計画書(別記様式5)を提出させ、適切な指導を行うとともに、次の期間の活動目標、努力配分及び年度計画の修正を求める。

6 その他

様式は、実情に応じ、適宜補正することができるものとする。

附 則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

「別表2」(第1項及び第4項関係)

評価領域	評価の観点	具体的項目 (TSUBAKI 入力必須項目を参考、 ただし、研究のみ researchmap 入力項目を参考)
教育	担当授業科目	科目名, 科目区分(学部, 大学院), 開講区分(前期, 後期), 単位数, 履修者数
	研究指導等	・研究指導学生数(学部, 修士, 博士)(うち留学生数) ・正規以外の学生受入数(研究生, 科目履修学生, 単位互換学生) ・研究員の受入数(客員教授・研究員, 博士研究員, 受託研究員) ・学位取得者数(修士, 博士)(うち留学生数)
	学位授与審査	主査修士, 主査博士, 副主査修士, 副主査博士
	学生相談	履修相談件数, 進路相談件数, 生活相談件数, 留学生相談件数, その他相談件数
	教育活動に関する受賞	賞名, 学内・学外区分, 受賞年月, 授与機関, 受賞内容
	FD活動	活動区分(全学, 学部, 学外), 年度, 参加回数
	安全衛生	学生への安全衛生教育
	教育の質向上への取り組み	授業計画(シラバス)(日本語・他言語)・目標の妥当性 双方向授業の取組み状況 教育到達度を評価するための育成評価法への取組み 成績評価の学生へのフィードバックの取組み状況 授業形態(母国語・他言語)・授業方法改善の取組み 授業テーマ開発, 授業内容更新の取組み 教材開発・教材出版
	その他	その他教育に係る活動
研究	論文・書籍等出版物・Works・特許	researchmapの業績リスト(論文, Misc, 書籍等出版物, Works, 特許)の入力項目または外部システムから取り込んだ業績リスト(タイトル, 著者名, 掲載誌名, 発表年月, 査読の有無, 単著・共著の別等)
	講演・口頭発表等	researchmapの業績リスト(講演・口頭発表等)の入力項目 (タイトル, 会議名, 開催年月, 主催者, 発表形態等)
	受賞	researchmapの業績リスト(受賞)の入力項目 (受賞者名, タイトル, 賞名, 授与機関, 受賞年月等)
	科研費(文科省, 学振)獲得実績	researchmapの業績リスト(競争的資金等の研究課題)の入力項目または外部システムから取り込んだ業績リスト(タイトル, 研究種目, 配分額, 研究期間, 研究概要等)
	その他競争的資金獲得実績	researchmapの業績リスト(競争的資金等の研究課題)の入力項目(競争的資金の制度名, 提供機関, タイトル, 配分額, 研究期間, 研究概要等)
	受託研究受け入れ実績	researchmapの業績リスト(競争的資金等の研究課題)の入力項目

		入力項目（受託研究制度名，提供機関，タイトル，配分額，研究期間，研究概要，受託研究区分等）
	共同研究実施実績	researchmap の業績リスト（競争的資金等の研究課題）の 入力項目（共同研究制度名，提供機関，タイトル，配分額，研究期間，研究概要，共同研究区分等）
	奨学寄附金受け入れ実績	researchmap の業績リスト（競争的資金等の研究課題）の 入力項目（奨学寄附金制度名，タイトル，配分額，研究期間，研究概要，寄附金区分等）
	学内研究助成金獲得実績	researchmap の業績リスト（競争的資金等の研究課題）の 入力項目（助成金制度名，タイトル，配分額，研究期間，研究概要，助成金区分等）
	その他の研究業績	researchmap の業績リスト（その他）の入力項目
社会貢献	社会貢献活動（国際貢献活動を除く）	社会活動区分（公開講座，講演会，研修会，出張授業，高大連携事業，その他），活動内容，開催回数，参加者数，活動名称，活動期間
	国際貢献活動	活動区分（研究者派遣，外国人研究者の受け入れ等），活動内容，人数，活動期間
	学外委員会等活動	学外委員会等，役職・役割名，活動期間
	社会貢献に関する受賞	賞名，学内・学外区分，受賞年月，授与機関，受賞内容
	学会における管理運営	学会活動，役職・役割名，活動期間
	学会等主催	学会区分（国内学会，国際学会），学会等名，参加者数，開催期間
	その他	その他社会貢献に係る活動
管理運営	学内委員会活動	活動区分（全学委員会，部局等内委員会，その他の主要活動），活動内容，活動名称，活動期間
	学生募集	活動区分（オープンキャンパス，研究室公開，高校訪問（募集案内配付等），その他の直接的な募集活動），活動内容，活動名称，活動期間
	安全衛生	教職員が行う安全衛生への取り組み
	その他	その他管理運営に係る活動

(出典：「平成 29 年度文学部規則集」)

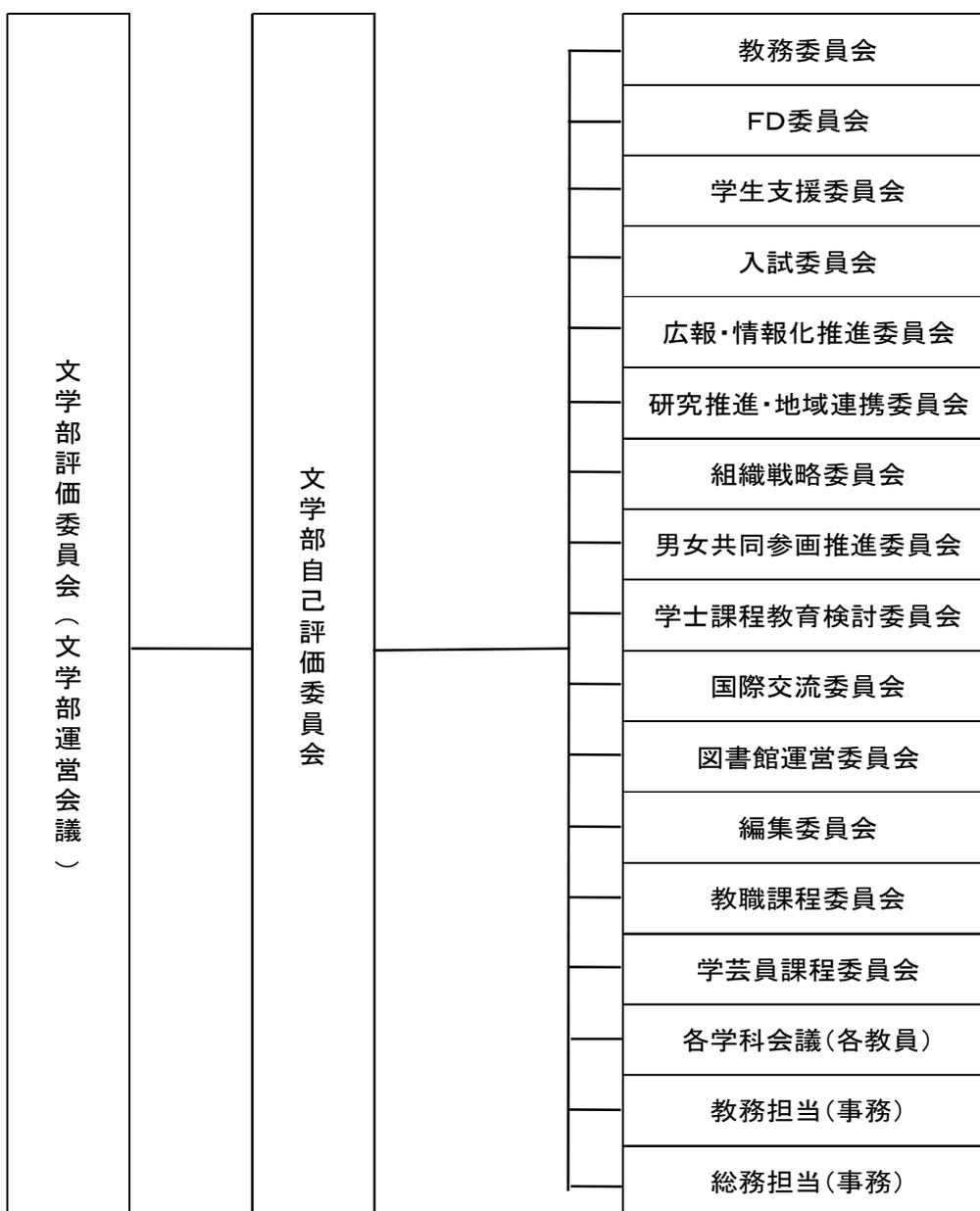
資料 E-2-2-1-2 : 自己点検・評価実施体制

別表1 組織評価実施体制

(1)対象となる領域

	教育	研究	社会貢献	国際化	管理運営	男女共同参画
文学部	○		○	○	○	○

(2)実施体制



(出典：文学部自己評価委員会資料：「文学部組織評価実施要領」より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・自己点検・評価のための「個人活動評価」の実施要領が明確に定められている。
 - ・自己点検・評価を行う上での実施体制が十分に整っている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 2-2 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

文学部では、人文社会科学系事務課の蓄積資料、各種委員会の蓄積資料、大学情報アーカイブス、自己評価委員会収集資料等を根拠としつつ、自己点検・評価を行っている。

法人評価は国立大学法人評価委員会（前回、平成 28 年度受審）に、認証評価（前回平成 27 年度受審）は認証評価機関に定期的に評価を受けている。また、平成 30 年度に実施する組織評価では、経営協議会で検証を行うこととなっている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・全学的な「組織評価」に則って、学部の自己点検・評価が適切に行われている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 2-3 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

以下の通り、平成 26 年度に実施した組織評価を踏まえた改善計画について着実に実行している。

- ・アジア・アフリカ・ヨーロッパを中心に新たな国際交流協定大学を開拓することに関して、H26 年度以降、チューリッヒ大学（平成 28 年度、部局間）、高雄大学（平成 28 年度、責任部局）、デュッセルドルフ大学（平成 29 年度、責任部局）、コペンハーゲン大学（平成 30 年度、部局間）との交流協定を締結、また、安徽大学、長榮大学については、部局間交流協定から大学間交流協定への拡大（各平成 27 年度、平成 28 年度）に関わるなど、積極的な取組を行っている。

- ・社会貢献に関して、平成 29 年度に「文学部附属漱石・八雲教育研究センター」を設置することで熊本県、熊本市、その他多くの文化振興団体との連携を構築するとともに、平成 30 年 3 月に第 1 回公開フォーラムを開催し、文学部が所有する文化資源について情報発信を行った。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

組織評価に基づく組織の改善計画に基づき、運営会議あるいは組織戦略委員会において種々の改善を検討し、各種委員会を通して具体的対応を行っている。このように、評価結果が適切にフィードバックされ、改善の取り組みがなされている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点3-1 目的(学士課程であれば学部、学科又は課程ごと、大学院であれば研究科又は専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点到に係る状況)

文学部における教育活動、学生の活動などについての情報は、文学部HPほか、複数の刊行物によって公表・周知されている(資料E-3-3-1-1)。

資料E-3-3-1-1: 外部への広報媒体

ウェブサイト・刊行物	配信・配布対象
文学部HP	全対象
『文学部案内』	高校生
『文学部通信』	在学生、保護者

(出典: 人文社会科学系事務課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

文学部HPほか、刊行物によって、学部及び学生の教育活動等についての情報が適切に公表・周知され、説明責任が果たされている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点3-2 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点到に係る状況)

学部・学科・コースの「入学者受け入れ方針」「学位授与方針」及び「カリキュラム編成方針」が明示され、公表・周知されている(資料E-3-3-2-1~3)。

資料E-3-3-2-1: 4学科の「入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)」

文学部では次のような人を求めます。

- ・これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
- ・人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、情報コミュニケーションのあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
- ・専門的知識の習得に意欲をもち、習得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする

意欲が高い人。

<総合人間学科>

総合人間学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに現代社会、倫理、地理、国語、外国語の学力に優れた人。
2. 人間や人間関係への関心と探求心をもち、人間に関わる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。
3. 現代社会のかかえる諸問題や日本及び世界各地の社会や文化に関心をもち、それらを自分で分析する力をつけたいと考えている人。
4. 地域社会や地域文化に関心をもち、それらがかかえる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。

<歴史学科>

歴史学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに日本史、世界史、現代社会、国語、外国語の学力に優れた人。
2. 歴史を学ぶことを通じて、人間や人間社会の本質と可能性を探究し、新しい時代と社会を切り開いていこうとする意欲をもった人。
3. 国際交流や国際協力等の実践的活動に関心をもち、歴史という長期的視点から、異文化社会の本質を理解したいと考えている人。
4. 史料解読や遺跡発掘調査といった高度の技能を身につけ、より高い専門性をもって、文化財行政や歴史教育に携りたいと考えている人。

<文学科>

文学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに国語や外国語の学力に優れた人。
2. 日本を含むいろいろな国の言語、文学、文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことを通じて人類の文化や現代社会に対する理解を深めたい人。
3. 英語をはじめとする外国語の運用能力と異文化を正しく理解する能力を身につけ、国際的な舞台で活動したい人。
4. 言語や文学に対する幅広い知識と的確な分析・表現能力を活かし、教育・研究に従事したい人。

<コミュニケーション情報学科>

コミュニケーション情報学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに英語や情報の学力に優れた人。そうした能力やスキルを高め、卒業後に地域社会や国際社会に貢献することへの関心が高い人。
2. 理論だけでなく、自らの体験を通して、新聞・放送・広告といったマスメディア、インターネットに代表される情報技術のしくみと運用など、コミュニケーションと情報に関するさまざまな事象について考えたい人。
3. オーラルコミュニケーションを中心に、英語によるディスカッションやディベート等に対応できる高いレベルの実践的英語運用能力を習得したい人。

(出典：『平成 30 年度一般入試学生募集要項』 pp. 2-3)

資料 E-3-3-2-2：各コースの「カリキュラム編成方針（カリキュラムポリシー）」

文学部は、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材、情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成するために、各学科・コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成しています。3・4 年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するよ

うに編成しています。

・総合人間学科人間科学コース

体系性：人間科学（哲学・心理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には人間科学（哲学・心理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保證するよう編成しています。

・総合人間学科社会人間学コース

体系性：社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保證するよう編成しています。

・総合人間学科地域科学コース

体系性：地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保證するよう編成しています。

・歴史学科歴史資料学コース

体系性：日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保證するよう編成しています。

・歴史学科世界システム史学コース

体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保證するよう編成しています。

・文学科東アジア言語文学コース

体系性：日本語日本文学および中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には日本語日本文学および中国語中国文学の専門

的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

・文学科欧米言語文学コース

体系性：欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

・文学科超域言語文学コース

体系性：比較文学および言語学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には比較文学および言語学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

・コミュニケーション情報学科コミュニケーション情報学コース

コミュニケーション情報学コースでは、高度な実践的英語力と情報コミュニケーション能力・スキルを修得し、高度情報社会で求められている、実践で力を発揮する情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成したいと考えています。一人一人の学生が、自ら問題を発見し、知恵を絞り、言葉を紡ぎ、自主独立でありながらも他人を尊び、そして、互いに協力してアイデアを形にしていくための教育カリキュラムを次のように編成しています。

体系性：コミュニケーション情報学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。コミュニケーション情報学コースでは、高度な実践的英語力と情報コミュニケーション能力・スキルを修得し、高度情報社会で求められている、実践で力を発揮する情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成したいと考えています。一人一人の学生が、自ら問題を発見し、知恵を絞り、言葉を紡ぎ、自主独立でありながらも他人を尊び、そして、互いに協力してアイデアを形にしていくための教育カリキュラムを次のように編成しています。

（出典：『平成 29 年度学生便覧』pp. 3-13）

資料 E-3-3-2-3：各コースの学位授与方針（ディプロマポリシー）

文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力および 21 世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した人に学士（文学）の学位を授与します。

【総合人間学科】

＜人間科学コース＞

総合人間学科人間科学コースは、学士課程教育において、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力（哲学）や実証的判断力（心理学）を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

＜社会人間学コース＞

総合人間学科社会人間学コースは、学士課程教育において「社会的存在としての人間」という認識から出発し、現代における人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

＜地域科学コース＞

総合人間学科地域科学コースは、学士課程教育において「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

【歴史学科】

＜歴史資料学コース＞

歴史学科歴史資料学コースは、学士課程教育において、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。

・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

＜世界システム史学コース＞

歴史学科世界システム史学コースは、学士課程教育において、史料の総合的分析力に依拠した論理実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語（欧米諸語、漢文、中国語等）運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。

・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。

・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

【文学科】

＜東アジア言語文学コース＞

文学科東アジア言語文学コースは、学士課程教育において、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。

・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。

・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

＜欧米言語文学コース＞

文学科欧米言語文学コースは、学士課程教育において、英語・ドイツ語・フランス語の運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的概念・理論について説明できる。

・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。

・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

＜超域言語文学コース＞

文学科超域言語文学コースは、学士課程教育において、人類の言語文化及びその精華である文学作品の多様な諸相に対する理解力と、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、人類の言語や文学に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

・比較文学・言語学・外国語教育学の基本的概念・理論について説明できる。

・比較文学・言語学・外国語教育学に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法

を提案できる。

- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

【コミュニケーション情報学科】

＜コミュニケーション情報学コース＞

コミュニケーション情報学コースは、学士課程教育において、高次のコミュニケーション能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、情報を読み解き、発信できる能力を高め、グローバル化・情報化が進む現代社会において先導的役割を担う自発性と創造性に優れた人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士（文学）の学位を授与します。

- ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を設定し、具体的な解決策を提案できる。
- ・異文化理解や異文化交流・国際交流に関心を持ち、英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。
- ・最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。

（出典：『平成 29 年度学生便覧』 pp. 3-13）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

学部・学科・コースの「入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）」「学位授与方針（ディプロマポリシー）」「カリキュラム編成方針（カリキュラムポリシー）」ともに適切に定められ、公表・周知されている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 3-3 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点到に係る状況）

教員及び学生の教育研究活動その他については、『熊本大学データ集』『文学部案内』『文学部通信』『熊大通信』、文学部 HP 等によって公表されている。

学校教育法施行規則第 172 条の 9 項目についての公表手段・媒体は以下の通り。

1. 教育研究上の目的に関しては『学生便覧』で公表されている。
2. 教育研究上の組織については、熊本大学 HP 及び『文学部案内』で公表されている。
3. 教員組織については『学生便覧』で公表され、教員の学位及び業績については「熊本大学評価データベース」に掲載され、一部は文学部 HP で公表されている。業績については Reserchmap により広く公表されている。
4. 入学者受け入れ方針は『一般入試募集要項』及び『学生便覧』で公表されている。入学者数、収容定員、在学学生数、卒業生数、進学者数、就職者数、その他進学及び就職等の状況に関するものは『熊本大学データ集』で公表されている。
5. 授業科目、授業の方法・内容、年間の授業の計画に関しては『履修手続案内』で公表されている。
6. 学修の成果に係る評価、卒業の認定に当たっての基準に関しては『学生便覧』で公表されている。
7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関しては『文学部案内』

で公表されている。

8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関しては『一般入試学生募集要項』及び『学生便覧』で公表されている。

9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関することは『学生便覧』で公表されている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・種々の広報媒体によって、文学部の教員及び学生の研究・教育活動その他が学内外に適切に公表されている。
 - ・学校教育法施行規則第 172 条の 9 項目すべてに関して適切に公表されている。
- 以上の観点により、期待される水準にあると判断する。

分析項目 I V 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 4-1 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

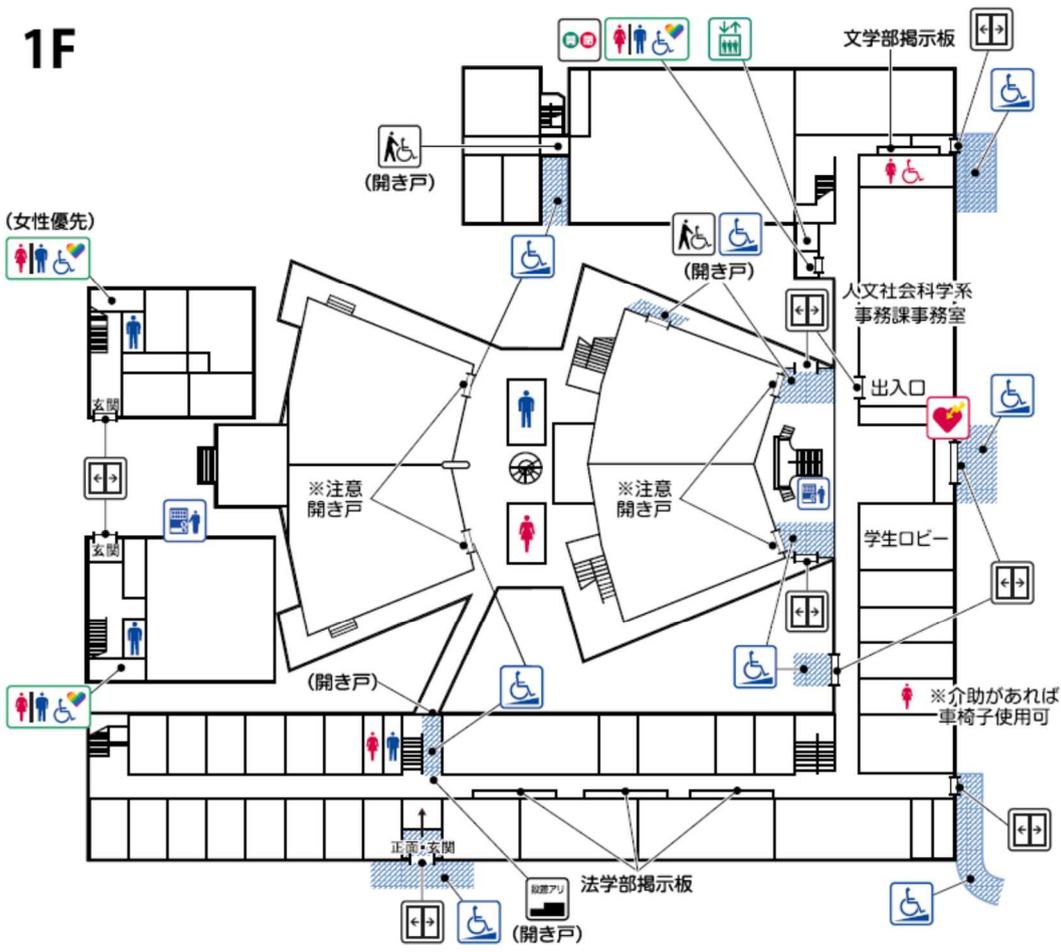
(観点到に係る状況)

教員研究室、学生研究室、講義室、演習室、実習室、メディア演習室、ロビー学生室、文学部図書室が適切に整備され、有効に活用されている。学長裁量経費、学内営繕費、学部長裁量経費などにより、随時、施設・設備の保全・改善がなされている。

文学部棟のバリアフリー設備は 15 箇所を設置され、障がい者用トイレは各階に設置されている(資料 E-4-4-1-1)。

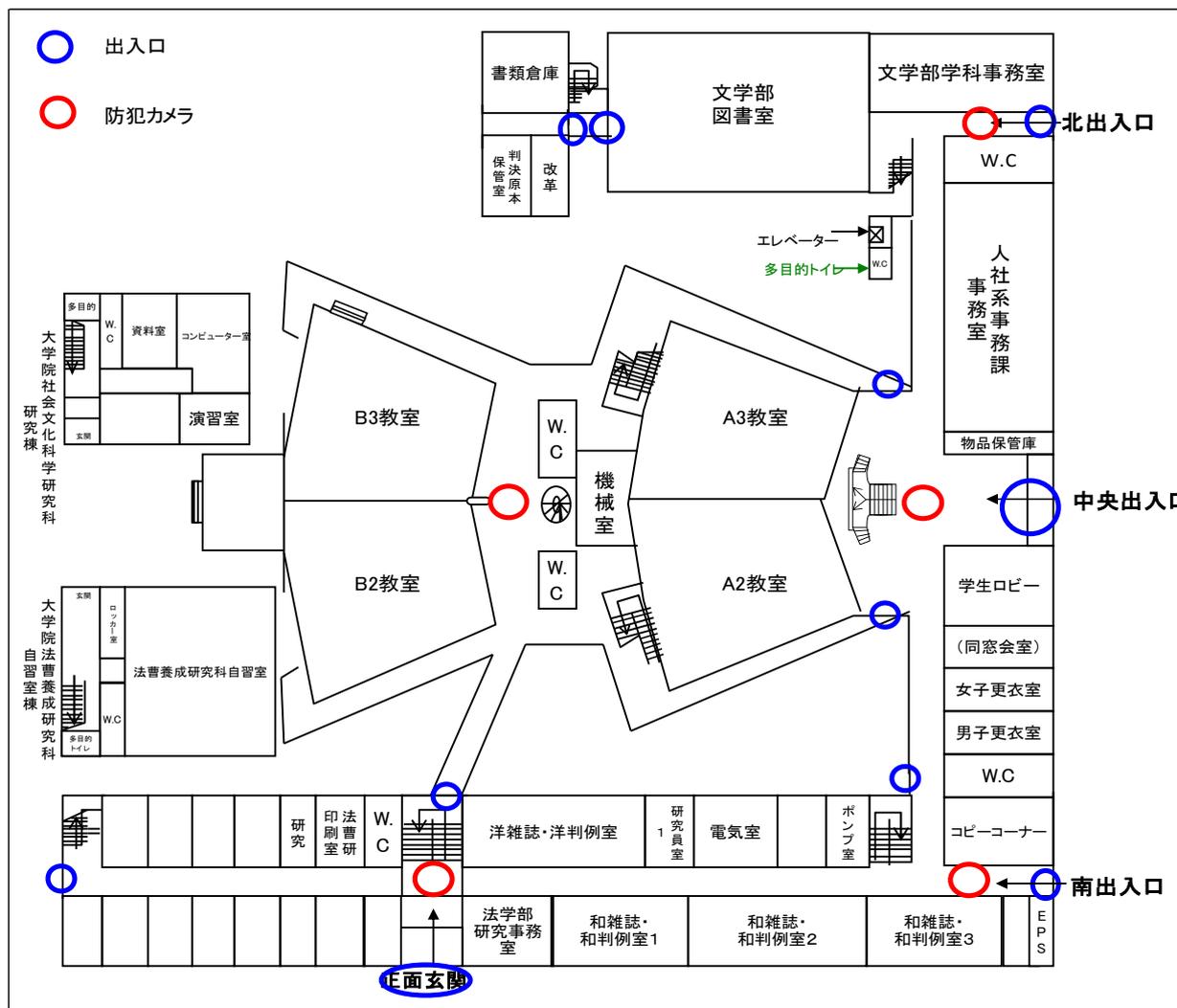
施設の安全・防犯のため、棟の出入り口は規定時間に施錠される。休日は中央出入口のみ開放され、ほかはすべて終日施錠される。棟への出入り時間は、夜間の防犯対策のため、平日、休日ともに 22 時までとしている。

資料 E-4-4-1-1 : バリアフリーマップ



(出典：熊本大学学生支援室 HP)

資料 E-4-4-1-2 : 文法棟の出入り口箇所及び防犯カメラ設置箇所



(出典：人文社会科学系事務課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・教員研究室、学生研究室、講義室、演習室、実習室、メディア演習室、ロビー学生室、文学部図書室が適切に整備され、有効に活用されている。
 - ・学長裁量経費、学内営繕費、学部長裁量経費などにより、随時、施設・設備の保全・改善がなされている。
 - ・学部棟のバリアフリー化設備、障がい者用トイレともに整備されている。
 - ・夜間の防犯対策が適切になされている。
 - ・防犯カメラが、文・法棟の各出入口に設置され防犯対策が適切になされている。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 4-2 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

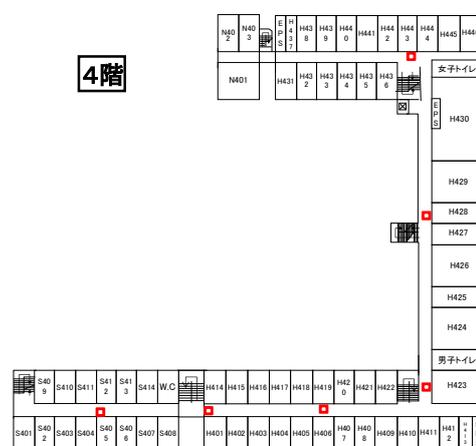
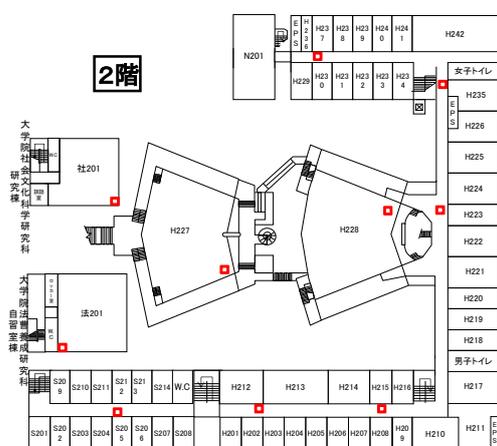
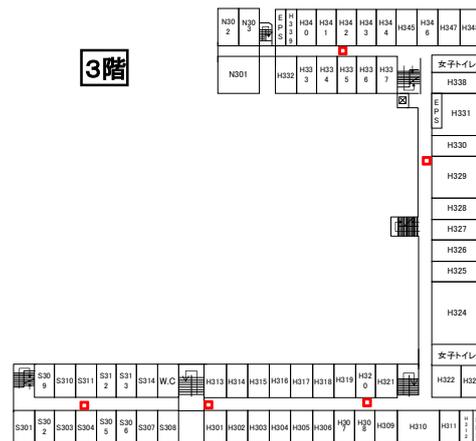
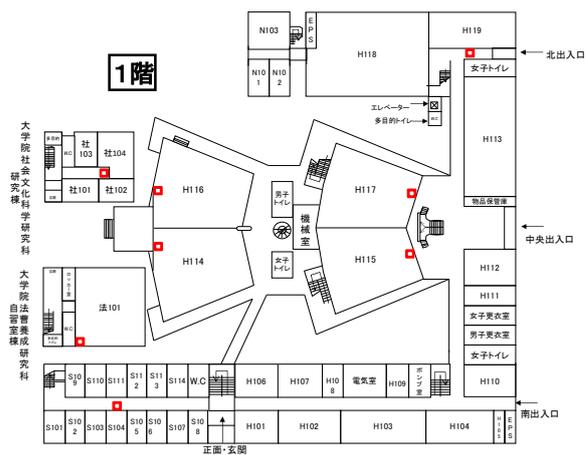
無線 LAN のアクセスポイントが棟内に充分設置されている (資料 E-4-4-2-1)。

無線 LAN の整備とともに、各学科の学生研究室には多くのパソコンが設置され、学生の学習促進の場として機能している (資料 E-4-4-2-2)。これらパソコン機器の接続状況、また携帯接続状況に関しては、教員及び学生からの要望に応じて随時対応している。

資料 E-4-4-2-1 : 文・法学部棟における無線 LAN アクセスポイント設置状況



■無線LANアクセスポイント



(出典：人文社会科学系事務課資料)

資料 E-4-4-2-2：各学科学生研究室のパソコン台数（平成 29 年度実績）

学科（学年定員）	台数	計
総合人間学科（55）	65	144
歴史学科（35）	11	
文学科（50）	26	
コミュニケーション情報学科（30）	42	

*平成 27 年度＝計 118 台

(出典：各学科評価委員収集データ)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・無線 LAN 環境が整い、継続的な整備が適切になされている。
 - ・学生研究室に十分なパソコンが配備され、大いに活用されている。
 - ・これらに関して、教員・学生からの継続的な改善要望に適切に対応している。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 4-3 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

文学部図書室が平成 23 年度に開設され、各履修モデル専用の書架が設置され、合計約 7 万冊に及ぶ図書が専門領域に従って配架されている。学生は自分の専門領域の基本的な文献から専門的な文献まで、必要なときに迅速に利用することができる。学部外の閲覧者にも利用されている。

また、平成 27 年度からは、卒論作成時期における雑誌室の受付に大学院生を雇用することで学生の利便性を高めている。

平成 28・29 年度の図書室・雑誌室の貸出状況は資料 E-4-4-3-1 の通り。学生研究室には、学術雑誌を中心とした図書資料が配架され、最新の研究動向・情報を入手する環境も整い、各教員の研究室にも多くの研究書が設置され、学生の利用に対応している。

資料 E-4-4-3-1：図書室・雑誌室貸出状況

	平成 28 年度			平成 29 年度			伸び率 (%)
	学生	教員	計	学生	教員	計	
貸出点数	587	62	649	748	57	805	24
図書	505	26	531	614	28	642	21
雑誌	82	36	118	134	29	163	38
図書室開館日数	191			242			

(出典：人文社会科学系事務課資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・学部図書室に配架する図書の充実が継続的に図られ、学生の図書利便性は着実に向上している。
- ・学生研究室には学術雑誌を中心とした図書が配架され、最新の情報源として学生に利用されている。
- ・各教員研究室にも多くの図書が設置され、学生の利用に応じている。
- ・平成 27 年度より、卒論作成時期における雑誌室の受付に大学院生を雇用し、利便性の向上を図っている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 4-4 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

22 履修モデル (分野) 毎の学生研究室、学生研究室のパソコン環境、学部図書室、ロビー学生室等の自主学習環境の整備がなされている。学生研究室とロビー学生室は休日も開放され、学生の自主学習の場、交流の場として大いに利用されている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

22 履修モデル (分野) 毎の学生研究室、学生研究室のパソコン環境、学部図書室、ロビー学生室等、自主学習環境は十分に整備され、活発に利用されている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

高い質を維持している。理由は以下の通り。

1. 教育課程等事項を審議する教授会を置き、その下に学部の基本方針及び重要事項を審議する運営会議を設置し、十分な管理運営体制を取っている。関連する委員会及び事務組織との連携体制も構築している。
2. 管理運営組織及び事務組織は適正な規模・機能を有し、災害への備え等の危機管理に関しても組織的に対応している。
3. 事務職員は、種々の研修に積極的に参加し、事務組織が十分な任務を果たすべく努めている。
4. 事務職員は、教授会、運営会議、また学部の将来構想に関わる組織戦略委員会等の主要会議に出席し、学部運営に深く関わっている。

(2) 分析項目 II 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

高い質を維持している。理由は以下の通り。

1. 自己点検・評価のための実施要領が明確に定められており、実施体制も十分に整っている。
2. 全学的に実施される法人評価及び認証評価のための自己点検評価も定期的に行われている。
3. 外部資金申請のための種々の説明会に教職員は積極的に参加し、その申請・運用・管理の改善に努めている。

(3) 分析項目 III 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

高い質を維持している。理由は以下の通り。

1. 文学部 HP、その他文学部発行の刊行物によって、教員及び学生の研究活動、教育活動その他が適切に公表・周知され、説明責任が十分に果たされている。

2. 平成 25 年度の『学生便覧』から、学部・学科・コースの教育目的に加えて、各学科・コースの学位授与方針、教育編成方針が掲載され、適切に公表・周知されるようになった。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

高い質を維持している。理由は以下の通り。

1. 学部全体としての施設は、学部専任教員 70 名、学生約 780 名を収容するに十分なスペースを有し、教員研究室、学生研究室が適正に整備・配置され、高い質を維持している。
2. 学生の自主学習環境として、学生研究室ほか、実習室、実験室、メディア演習室、ロビー学生室などが整備されている。メディア演習室は平成 25 年度に 2 室に増設され、映像機器もさらに整備され、視聴覚教材を利用した自主学習に最適の学習環境となっている。ロビー学生室にはコピー機が設置され、休日も開放されている。
3. 文学部棟における無線 LAN 環境は十分に整備されており、LAN 使用頻度の増加に伴うニーズに対して平成 26～29 年度の間複数回に渡って整備・改善を行っている。学生が利用可能なパソコンも年度ごとに整備を向上させている。教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境は平成 27 年度以前よりも明らかに向上している。
4. 文学部図書室に配架される図書の充実が継続的に図られている。学生研究室には学術雑誌を中心とした図書が配置され、さらに教員研究室の図書も学生は利用できる。また平成 27 年度からは、卒論作成時期における雑誌室の受付に大学院生を雇用することにより、学生の利便性を高めている。
5. 平成 29 年度に、文・法棟の各出入口に防犯カメラを設置し、本学部における盗難等の犯罪行為の抑止及び事故発生の防止を図っている(資料 E-4-4-1-2)。

VI 男女共同参画の領域に関する自己評価書

1. 男女共同参画の目的と特徴

文学部の目指す男女共同参画の目的は、男女共同参画社会基本法（平成 11 年制定）で謳われている「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」という理念に則り、学部における教育活動及び研究活動ほか、すべてにおける男女均等化、性差による有利性・不利性のない環境の形成を目的とする。

〔想定する関係者とその期待〕

想定する関係者としては、教職員、在学生、留学生、地域社会の人々・自治体であり、学部における教育、研究、管理運営ほか、すべてにおける男女均等化、性差による有利性・不利性のない環境の促進が期待され、地域における男女共同参画モデルの先端となること、さらにはそのような意識を有した学生を養成することが期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

男女共同参画の取り組みに関して、以下の点において優れている。

1. **文学部における男女共同参画の取組についての目標・基本方針が適切に明示されている**（熊本大学男女共同参画推進基本計画の基本方針、国立大学法人熊本大学次世代育成支援行動計画で掲げられている目標・方針に基づく）。

2. **取り組みの目標・方針に則り、活動が適切に実施されている**（学部の教員選考の際、男女共同参画の精神に則り、適正に行う旨を募集要項に記載；女性教員比率が専任教員の 15.7%に達し、目標値 15%を達成；文・法棟における女性トイレ防犯カメラ設置に際しての女性教員からなる WG の設置）。

3. **男女共同参画に鑑みて、学科・コースの教育環境が改善された**（女性教員の新たな採用による学科・コースの教育環境の改善；文・法棟における防犯カメラ設置に際して設置された女性教員を中心とした WG による検討の成果としての適切な設置の実現）。

【改善を要する点】

特に改善を要する点は認められない。女性教員比率 15.7%は、学部の目標値 15%を達成して問題ないが、今後全学の目標値 18%に近づくよう努力の余地あり。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 1-1 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点到る状況）

熊本大学男女共同参画推進基本計画の基本方針、国立大学法人熊本大学次世代育成支援行動計画で掲げられている目標・方針に基づき、文学部における取組についての現状、今後の基本方針・課題が明示されている（資料 Z-1-1-1-1）。

資料 Z-1-1-1-1：文学部の男女共同参画推進方針・課題

1. 男女の機会均等の実現

①採用、昇進、給与、研修、OJTの機会の平等、積極的是正措置の導入等・教職員の募集に際して、積極的な広報を行い優秀な女性の応募数の増加を図る。文学では近年「人事を具体的に行うにあたって特に考慮すべき事項」として「男女共同参画社会への動向を視野に入れる」こととしてきた。今後も教員公募にあたっては、大学の事例も参考にしながら、男女共同参画の視点を堅持していることを対外的にも明示するよう具体的な検討を行う。

②学内外の女性教職員のネットワークづくりと参加の全学的取り組みを推進する。

2. 男女共同参画の視点に立った制度・慣行の見直し、意識改革の推進

①全学計画が掲げる取り組みに関して、参加・協力・促進する。

②制度・運用の検証・見直しにあたっては、性別による委員指定など、女性教職員への職務配分の偏りが生じないよう配慮する。

3. 就労・就学と家庭生活との両立支援

①全学計画に掲げられる取り組みを支持し、促進する。

②熊本大学次世代育成支援行動計画の趣旨を踏まえ、ワーク・ライフ・バランスを保証する職場環境・雰囲気醸成に積極的に取り組む。

③前項②の実現のために、新たな職務の付加にあたっては、人的手当てまたはスクラップ・アンド・ビルド等によって、学部全体並びに教職員一人当たりの適正な仕事量の維持に努める。

④全学の「育児に係わる研究支援事業」が自然科学分野の女性研究者に限定されている点に関して、人文、社会科学分野、また男性研究者にも対象を広げるよう働きかける。

4. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

①幹部教職員の女性比率の向上、性別による偏見のない教職員の業績評価など全学の取り組みを支持し促進する。

②学部長は、女性教職員との懇談の場を設けるなど、女性教職員の意見を学部運営に反映するよう努める。

5. 男女共同参画を推進する教育・研究の充実

ジェンダー関連専門科目あるいは講義等を増やすよう努力する。

6. ジェンダーの視点による学内の調査・分析、統計及び情報の提供

①全学が行う男女共同参画推進に関する定期的な実態調査、情報提供、統計処理に協力し、学部単位での評価・見直しにも役立てる。

②文学部における女性のロールモデルを紹介するとともに、学部紹介パンフレットやHP作成にあたってはジェンダーバランスに配慮する。

(出典：熊本大学・男女共同参画 HP「男女共同参画への取り組み・活動：文学部」)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

熊本大学男女共同参画推進基本計画の基本方針、国立大学法人熊本大学次世代育成支援行動計画で掲げられている目標・方針に基づき、文学部における取組についての現状、今後の基本方針・課題が適切に明示されている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点 1-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか

(観点到る状況)

文学部の教員選考は「文学部教員選考細則」及び「文学部教員選考基準」(『文学部規則

集』27・28頁)に基づいて行われるが、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法の本質に則り、適正に行う旨を募集要項に記載している。

女性教員比率は専任教員の15.7%(専任教員70名中11名)に達しており、目標値15%を達成している(資料Z-1-1-2-1)。今後全学目標値18%の達成に向けて努力する。

平成29年度、文法学部棟における女性トイレ防犯カメラ設置に際して、女性教員を中心としたWGを設置し、詳細な検討を行った。

資料Z-1-1-2-1: 学科別専任教員数(*女性教員)(H30年5月1日)

学科	教授	准教授	講師	計
総合人間学科	10(*1)	11(*1)	0(*0)	21(*2)
歴史学科	5(*1)	7(*1)	0(*0)	12(*2)
文学科	10(*2)	12(*2)	1(*0)	23(*4)
コミ情学科	6(*0)	8(*3)	0(*0)	14(*3)
計	31(*4)	38(*7)	1(*0)	70(*11)

*女性教員は内数。(出典:人文社会科学系事務課資料を基に作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・学部の教員選考の際、男女共同参画社会基本法の本質に則り、適正に行う旨を募集要項に記載している。
 - ・女性教員比率は専任教員の15.7%に達しており、目標値15%を達成している。
 - ・文法学部棟における女性トイレ防犯カメラ設置に際して、女性教員を中心としたWGを設置した。
- 以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点1-3 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して、活動の成果があがっているか。

(観点到係る状況)

平成28・29年度の女性教員の新たな採用により、男女共同参画に基づく学科・コースの教育環境が改善された。

平成29年度、文・法棟における女子トイレ防犯カメラ設置に際して、女性教員を中心としたWGを設置し、詳細な検討を行った。その結果、教員全員に異論のない適切な設置が実施され、さらにWGから提出された報告書は、今回の防犯カメラ設置の問題だけにとどまらず、男女共同参画に関わるその他の課題も提起しており、今後学部として取り組むべき男女共同参画の指針となるという成果も上がっている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・女性教員の新たな採用により、学科・コースの教育環境が改善された。
- ・文・法棟における女子トイレ防犯カメラ設置に際して設置された女性教員を中心としたWGによる課題検討の成果として、適切な設置が実現するとともに、今後学部として取り組むべき男女共同参画の指針も提起されるという成果も上がっている。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

観点1-4 改善のための取り組みがなされているか。

(観点に係る状況)

女性教員比率改善のため、大学のバッファリング制度を活用し、平成28・29年度に2名の女性教員を採用することで、女性教員比率及び教育環境の改善を行った。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大学のバッファリング制度を活用して女性教員を採用することで、女性教員比率及び教育環境の改善を行った。

以上の観点から、期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

男女共同参画の取り組みは、以下の点において改善、向上している。

1. 平成28・29年度の女性教員の新たな採用により、男女共同参画に基づく学科・コースの教育環境が改善されるとともに、平成27年度15.3%だった女性教員比率が平成29年度には15.7%に達し、その比率が向上した(資料Z-1-1-2-1)。

2. 平成29年度、文・法棟における女子トイレ防犯カメラ設置に際して設置された女性教員を中心としたWGによる詳細な課題検討によって、適切な設置が実現するとともに、今後学部として取り組むべき男女共同参画の指針も提起され、大きな成果が上がった(資料Z-1-1-2-2)。